# 浜松市の男女共同参画に関する
# 市民意識・事業所　実態調査
# 調査結果報告書

平成 29 年 3 月

浜 松 市

# 目　次

## 第１章　市民意識・実態調査


１．調査概要 ..... 1
２．報告書内のデータ記述について ..... 1
３．回答者の属性 ..... 2
４．調査結果 ..... 4
■男女共同参画に関する意識について ..... 4
■男女の役割について ..... 17
■仕事と生活の調和について ..... 22
■政策・方針決定過程への女性の参画について ..... 32
■女性の活躍推進について ..... 33
■男女間の暴力について ..... 40
■男女共同参画の推進拠点について ..... 44
■男女共同参画に関する施策について ..... 47


## 第２章　事業所意識調査


１．調査概要 ..... 58
２．報告書内のデータ記述について ..... 58
３．回答事業所の属性 ..... 58
４．調査結果 ..... 60
■仕事と家庭の両立支援について ..... 60
■女性の活用について ..... 66
■退職した女性の再雇用制度について ..... 68
■セクシュアル・ハラスメントについて ..... 69
■男女が共に活躍できる職場づくりの実現に向けた取組について ..... 70
■浜松市が行っている事業について ..... 71


## 付録　調査票

# 第１章　市民意識・実態調査

# 第１章　市民意識・実態調査

## １．調査概要

### （１）調査目的

男女共同参画や女性活躍の推進について、市民の意識・実態を把握し、今後の施策や事業の見直しのための基礎資料として活用するために実施

### （２）調査実施概要

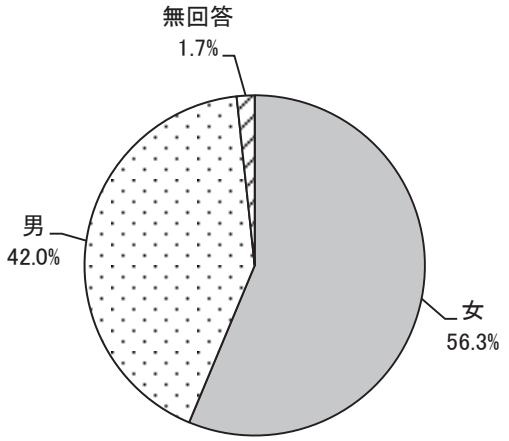
ア　調査対象　　住民基本台帳から無作為抽出した浜松市内に住む男女 2,500 人
イ　調査方法　　質問紙郵送法
ウ　調査期間　　平成 28 年 11 月 1 日～平成 28 年 11 月 15 日
エ　有効回答数　1,211 件（有効回答率 48.4%）

## ２．報告書内のデータ記述について

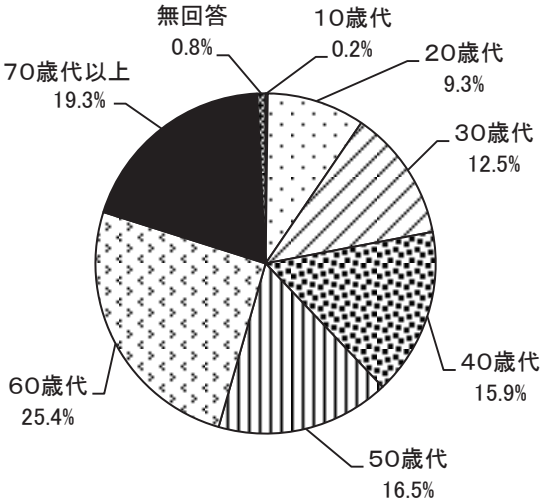
（１）比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が 100%にならないことがある。
（２）基数とすべき実数は、図表中に「N」「n」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
（３）質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。
（４）図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。
（５）クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

## ３．回答者の属性

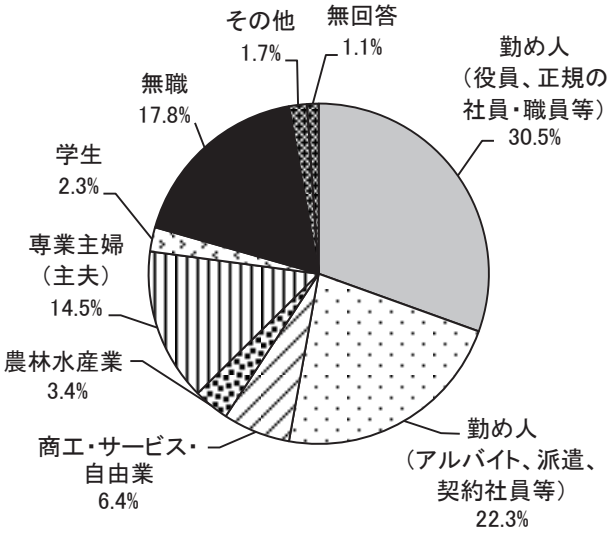
（1）性別　（ N=1,211 ）



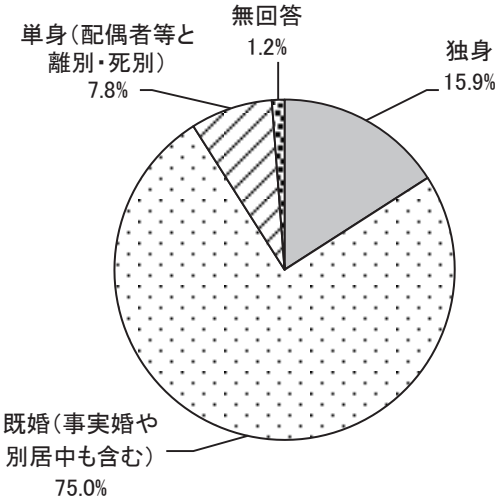

（2）年齢　（ N=1,211 ）



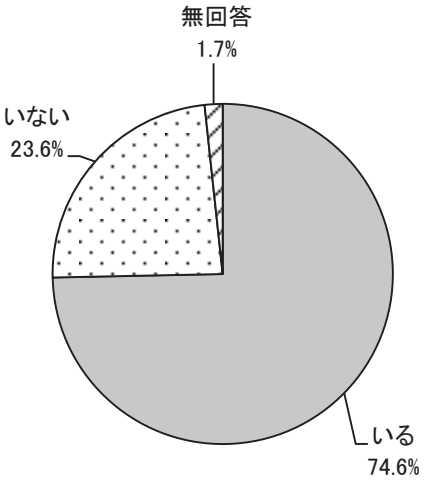

（3）職業　（ N=1,211 ）



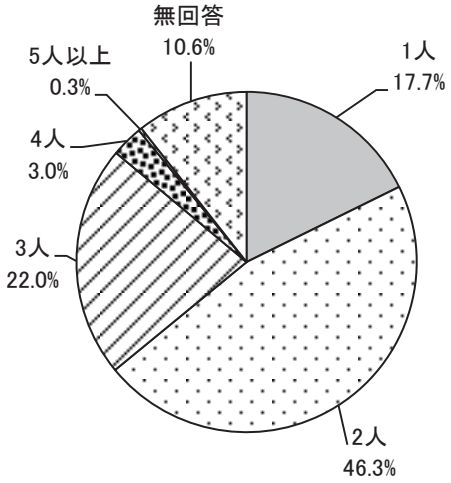

（4）結婚の有無　（ N=1,211 ）



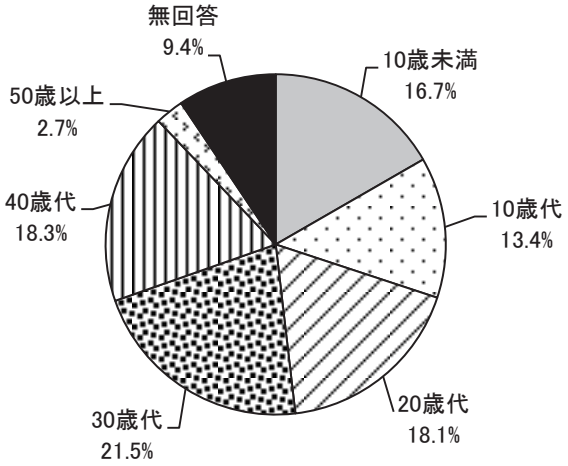

（5）　子供の有無（ N=1,211 ）



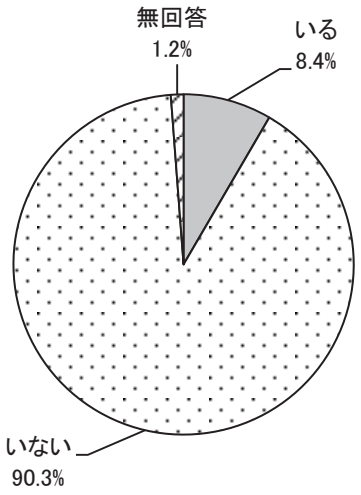

（6）子供の人数　（ N=904）



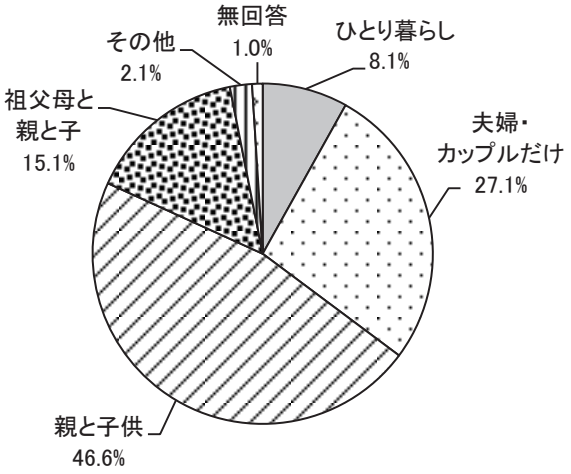
（７）一番下の子供の年齢（N=904）



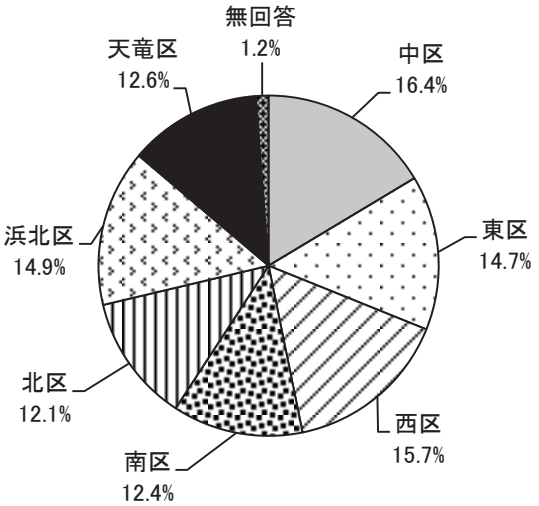

（８）日常的に介護をしているか（N=1,211）




（９）家族構成（N=1,211）




（10）居住区（N=1,211）



## ４．調査結果

### ■男女共同参画に関する意識について

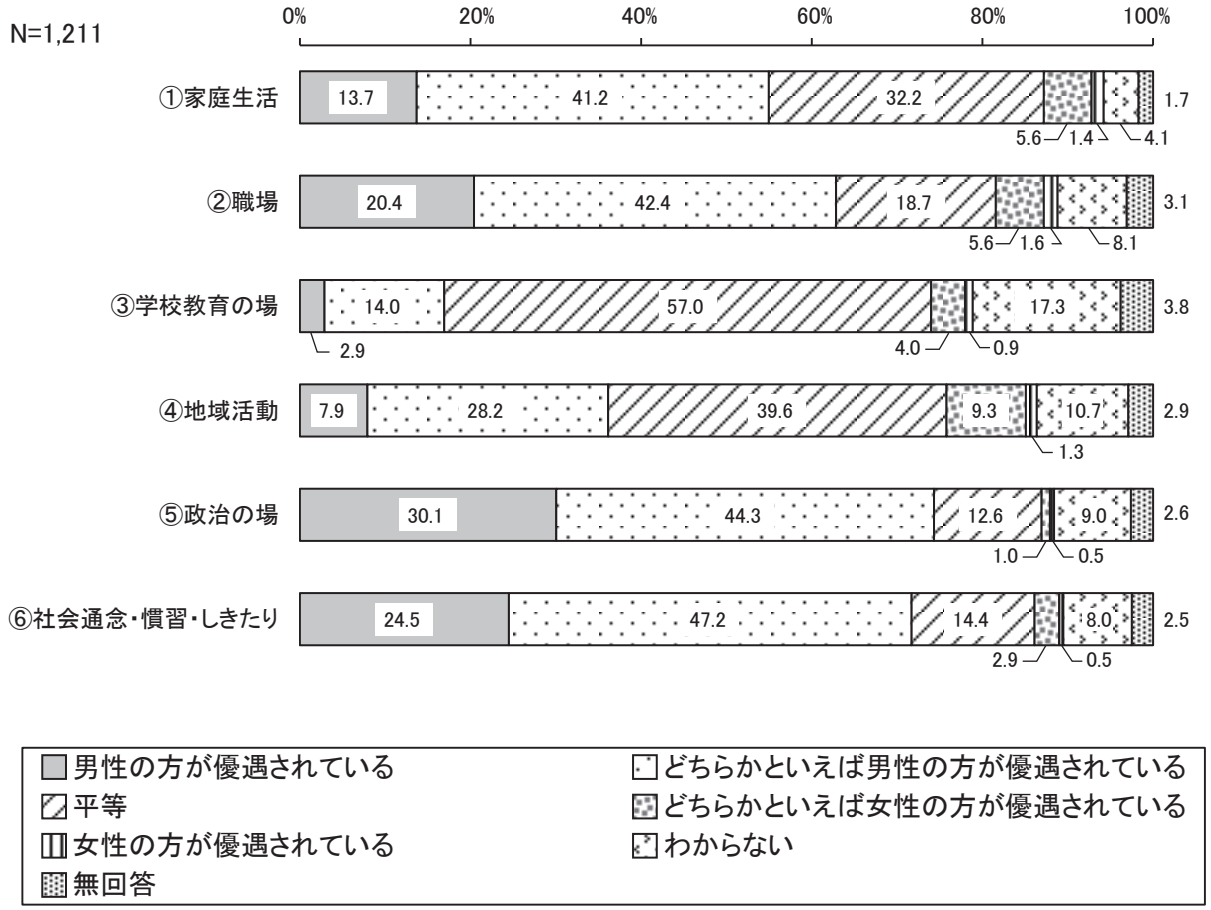
問１　あなたは、次の分野で男女が平等であると思いますか。（それぞれ１つに○）

**全ての分野で『男性が優遇されている』が、学校教育の場は半数以上が「平等」と回答**

全ての分野で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』の回答割合が、『女性が優遇されている』（「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）を上回った。

『男性が優遇されている』の回答割合が最も高かったのは、⑤政治の場の 74.4%。次いで、⑥社会通念・慣習・しきたりが 71.7%で高かった。

③学校教育の場は、「平等」が 57.0%と過半数を占めた。④地域活動、①家庭生活は「平等」の回答割合が 3 割を超えている。

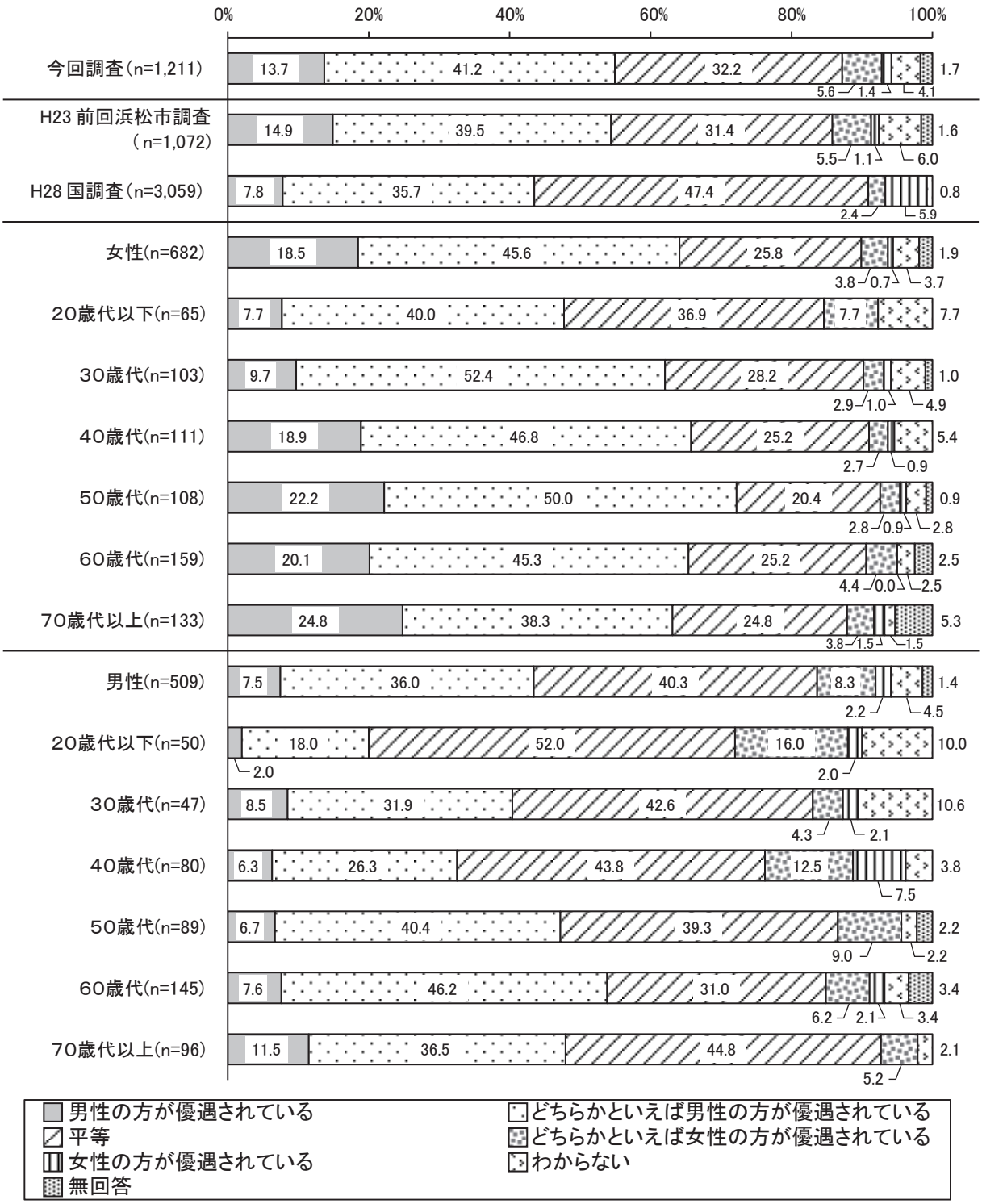


## ① 家庭生活

平成 23 年度調査（以下、前回調査）と比較すると、大きな変化はみられなかった。国の調査と比較すると『男性が優遇されている』は浜松市の方が 11.4 ポイント高かった。

性別でみると、男女とも『男性が優遇されている』が『女性が優遇されている』を上回った。

年齢別でみると、女性は 50 歳代を山として『男性が優遇されている』の回答割合が低くなっている。20 歳代以下は「平等」が 36.9%と比較的高かった。男性の 20 歳代以下は「平等」が過半数を占め、『男性が優遇されている』と『女性が優遇されている』の差もほとんどなかった。



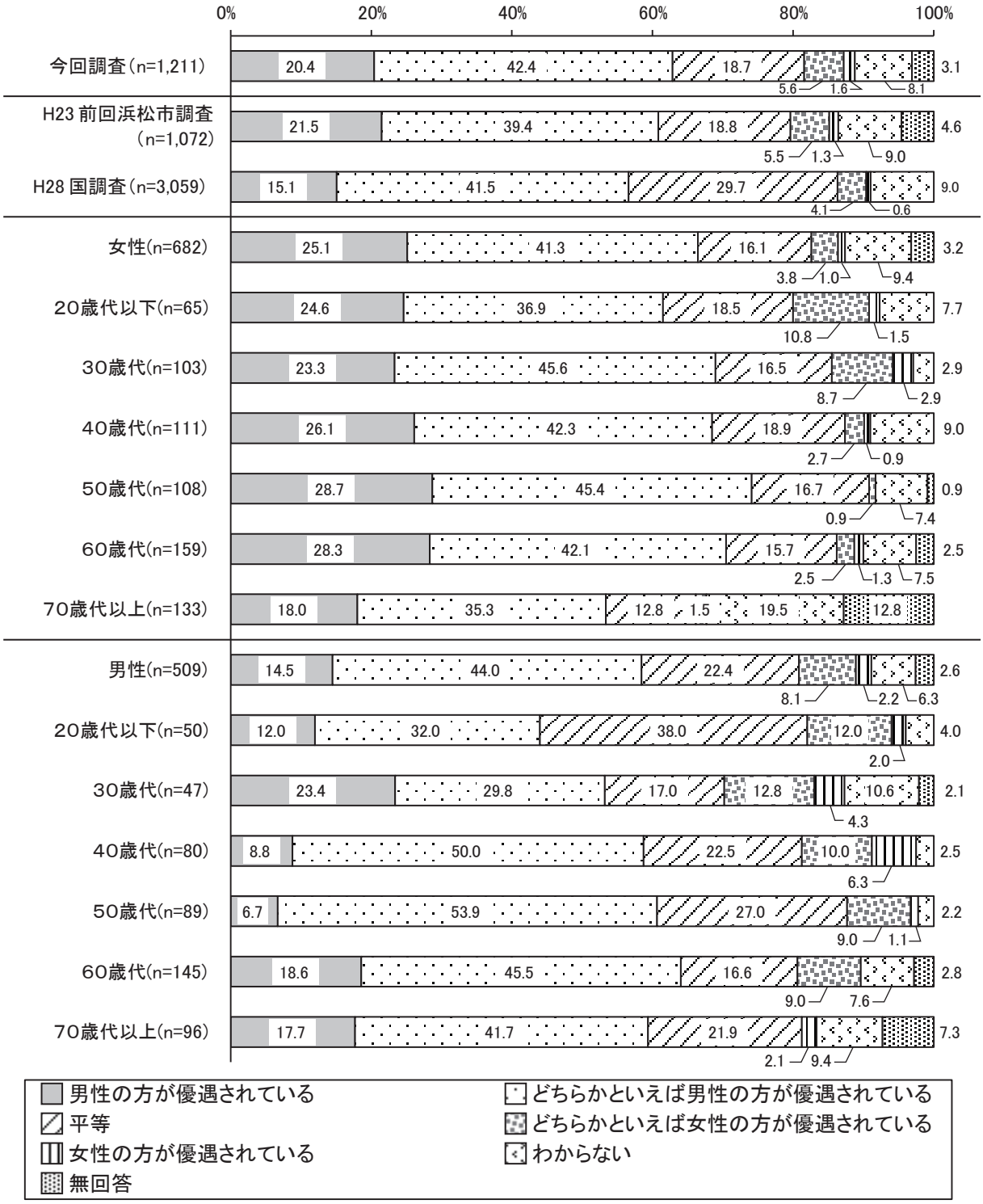

資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）

### ② 職場

前回調査と比較すると、大きな変化はみられなかった。国の調査と比較すると『男性が優遇されている』は浜松市の方が 6.2 ポイント高かった。

男女とも『男性が優遇されている』が『女性が優遇されている』を上回った。女性の年齢別でみると、『男性が優遇されている』の回答割合が最も高いのは 50 歳代の 74.1%、最も低いのは 70 歳代以上の 53.3%となった。男性の年齢別でみると、『男性が優遇されている』の回答割合が最も高いのは 60 歳代の 64.1%、最も低いのは 20 歳代以下の 44.0%となった。




資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

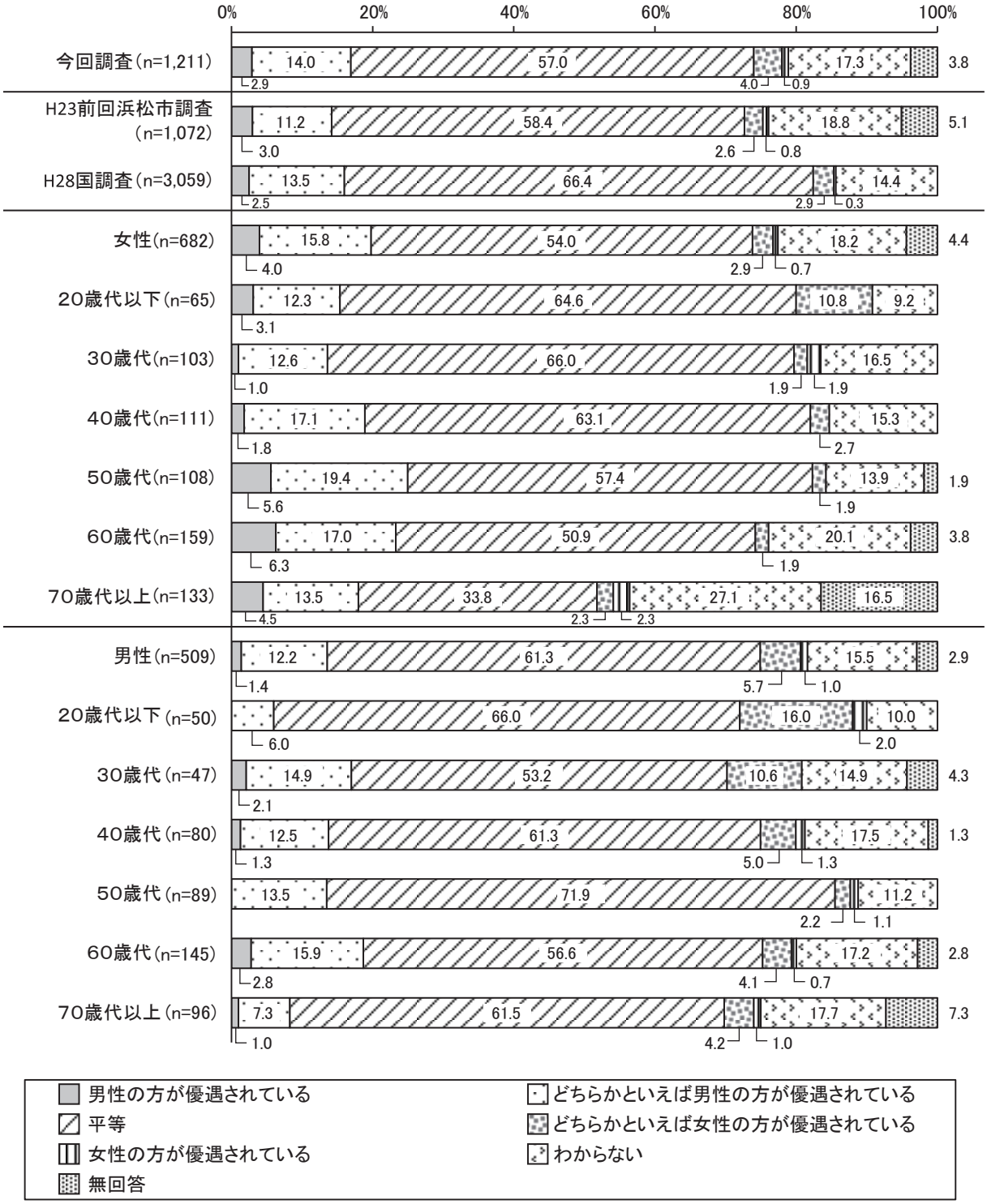
資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）

### ③ 学校教育の場

前回調査と比較すると、大きな変化はみられなかった。国の調査と比較すると「平等」は国の方が 9.4 ポイント高かった。

男女とも「平等」が最も高かった。『男性が優遇されている』と『女性が優遇されている』との比較では男女とも『男性が優遇されている』の方が高かった。

男性の 20 歳代以下は『女性が優遇されている』が『男性が優遇されている』を上回った。女性の 20 歳代以下は『男性が優遇されている』(15.4%) が『女性が優遇されている』(10.8%) を上回ったが、『女性が優遇されている』の回答割合は女性年齢別で最も高かった。




資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」(浜松市)

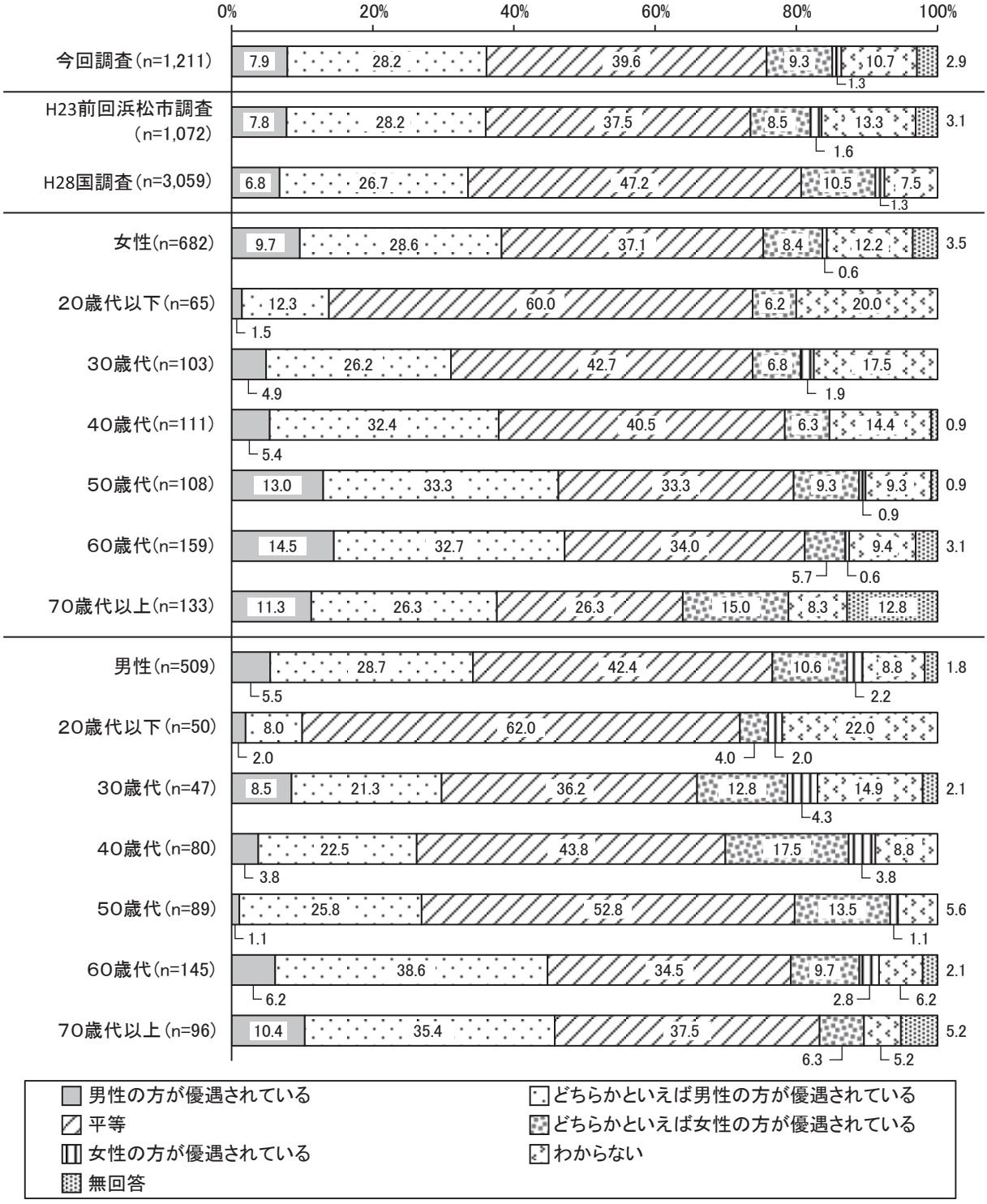
資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府)

### ④ 地域活動

前回調査と比較すると、大きな変化はみられなかった。国の調査と比較すると「平等」は国の方が 7.6 ポイント高かった。

男女とも『男性が優遇されている』が『女性が優遇されている』を上回ったが、『男性が優遇されている』の回答割合は女性 38.3%、男性 34.2%と男女の意識差は比較的小さかった。

年齢別でみると、男女とも 20 歳代以下は「平等」の回答割合が約 6 割と他の世代と比較して高かった。




資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

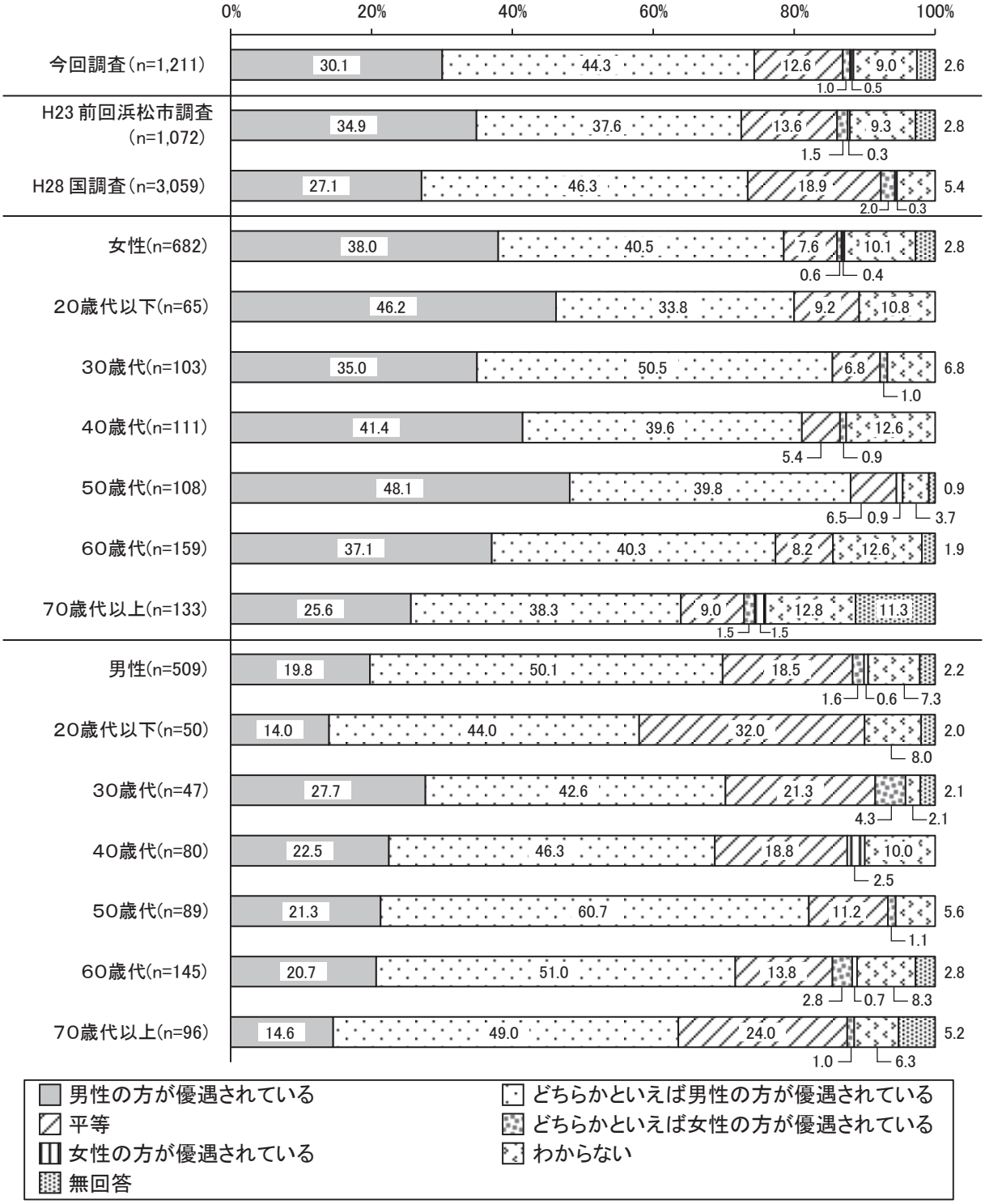
資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）

### ⑤ 政治の場

前回調査と比較すると、「男性が優遇されている」は 4.8 ポイント低下した。国の調査と比較すると『男性が優遇されている』はほとんど差がなかった。

男女とも『男性が優遇されている』が『女性が優遇されている』を大幅に上回った。『男性が優遇されている』の回答割合は女性 78.5%、男性 69.9%と 10 ポイント以内の差に収まっているが、「男性が優遇されている」に限ってみると女性 38.0%、男性 19.8%と差が大きかった。

年齢別でみると、『男性が優遇されている』の回答割合は男女とも 50 歳代が最も高かった。




資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

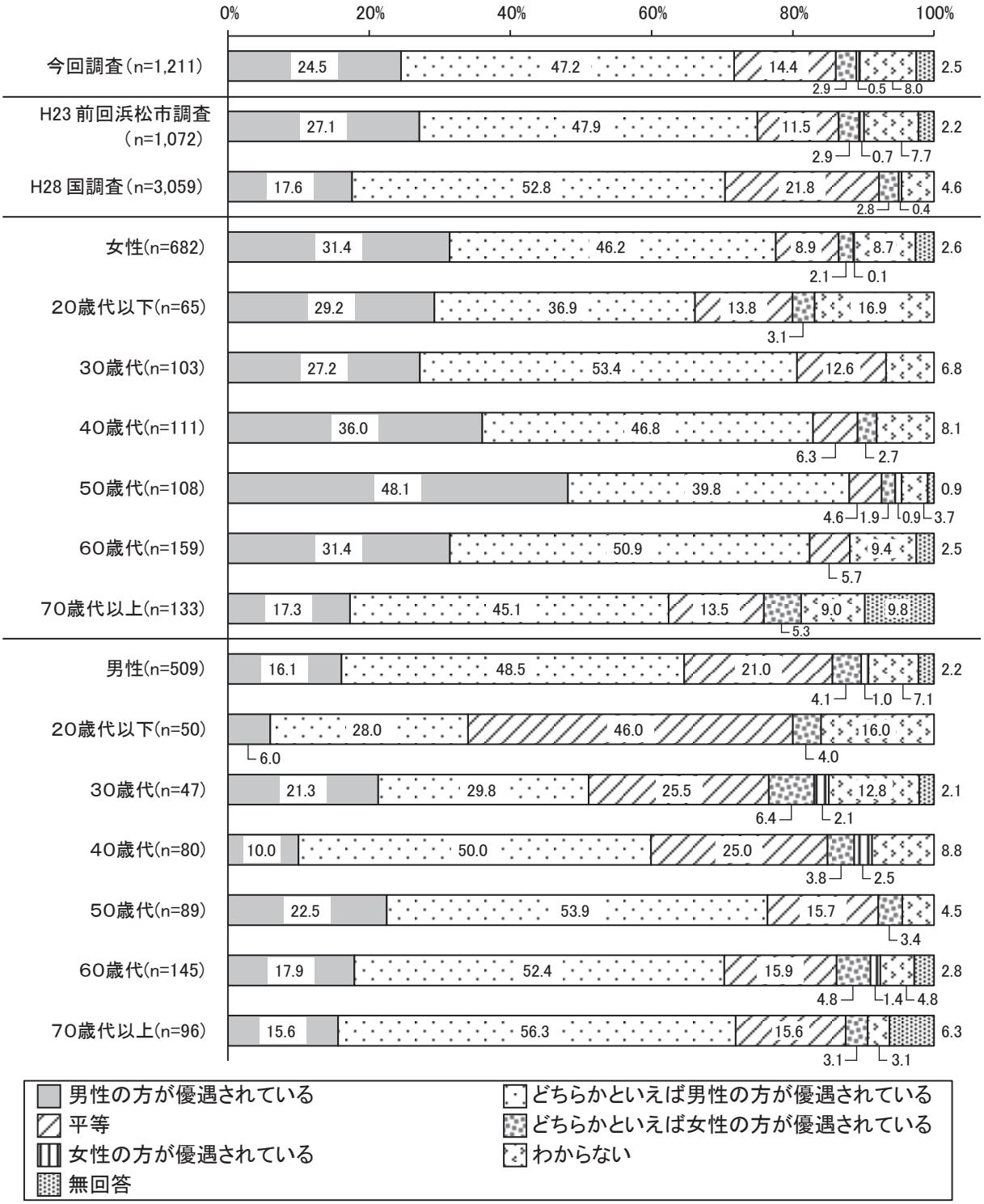
資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）

### ⑥ 社会通念・慣習・しきたり

前回調査と比較すると、『男性が優遇されている』は 3.3 ポイント低下した。国の調査と比較すると「男性が優遇されている」は浜松市の方が 6.9 ポイント高かった。

男女とも『男性が優遇されている』が『女性が優遇されている』を大幅に上回った。『男性が優遇されている』の回答割合は女性 77.6%、男性 64.6%と女性の方が 13.0 ポイント高かった。

年齢別でみると『男性が優遇されている』の回答割合は男女とも 50 歳代が最も高かった。




資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）

問２－１　「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方について、あなたはどのように考えますか。（１つに○）わからないと答えた方は、その理由を教えてください。

『賛成』が『反対』を上回る。

「どちらかといえば賛成」が 39.8%で最も高かった。次いで「どちらかといえば反対」（27.3%）、「反対」（14.0%）、「賛成」（9.7%）の順に高かった。

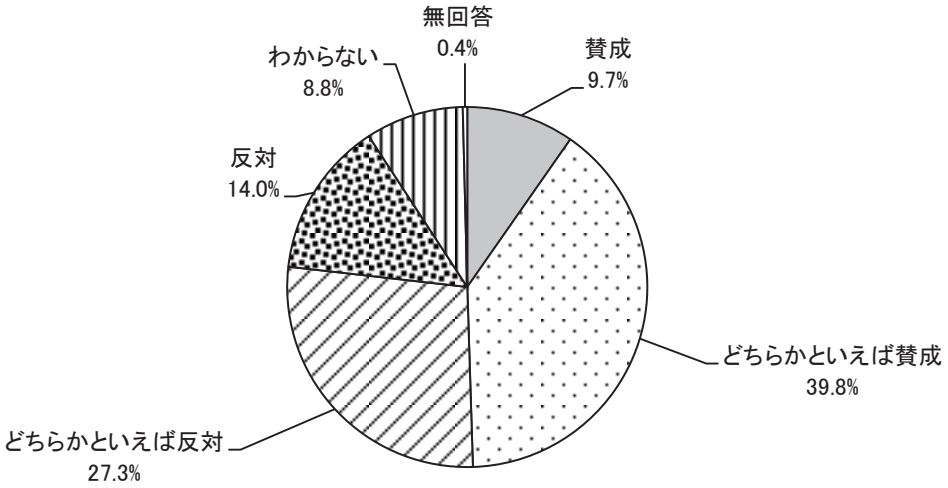
「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』と、「反対」「どちらかというと反対」を合わせた『反対』を比較すると、『賛成』（49.5%）が『反対』（41.3%）を 8.2 ポイント上回った。

国の調査は、『賛成』40.5%、『反対』54.3%と『反対』が『賛成』を上回っている。

性別でみると、女性は『賛成』45.9%、『反対』44.1%となった。男性は『賛成』54.0%、『反対』37.9%となった。男女とも『賛成』が『反対』を上回ったが、女性は『賛成』『反対』が拮抗しているのに対し、男性は『賛成』が『反対』を 16.1 ポイント上回っており、男女間で意識の差がみられた。

年齢別でみると、『賛成』の回答割合は男女とも 70 歳代が最も高かった。最も低かったのは、女性は 50 歳代、男性は 20 歳代以下と 40 歳代（同率 40.0%）となった。女性の 20 歳代以下、40 歳代、50 歳代、60 歳代は『反対』が『賛成』を上回った。男性は 20 歳代以下、40 歳代で『反対』が『賛成』を上回った。

N=1,211



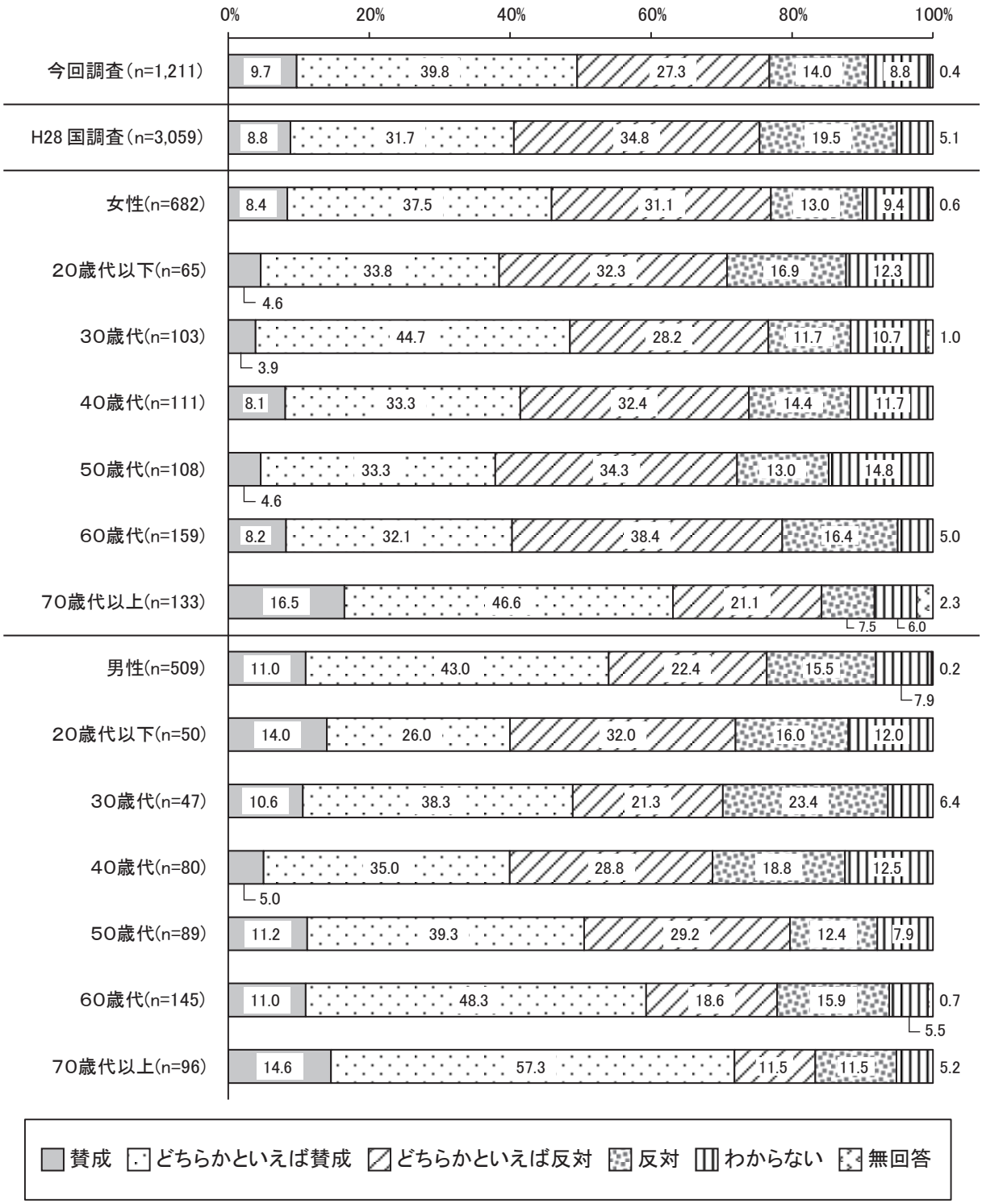

「わからない」と回答した人の理由（主な理由抜粋）

✓ 家庭によって考え方が違っても良いと思うから。

✓ 基本的には反対ですが、子供が小さい間はやはり出来ればお母さんが子供の側に居てあげるのが良いと思うから。

✓ 自営業の場合家庭にだけ専念できない。家も守らなければいけないが、仕事もしなければいけない。

✓ 夫婦が理解し合って決めればよいことで、どれが正しいということはできない。




資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）

問２－２　問２－１で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方に伺います。それはなぜですか。（あてはまるもの全てに〇）

『賛成』の理由は、「子供の成長にとってよいと思うから」。

「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとってよいと思うから」が 59.3%で最も高く、2.9 ポイント差で「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(56.4%) が続いた。

この上位２項目を性別でみると、女性は 2 項目がほぼ同率（約 60%）だったのに対し、男性は「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとってよいと思うから」が 60.0%、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が 53.5%と 6.5 ポイントの差があった。

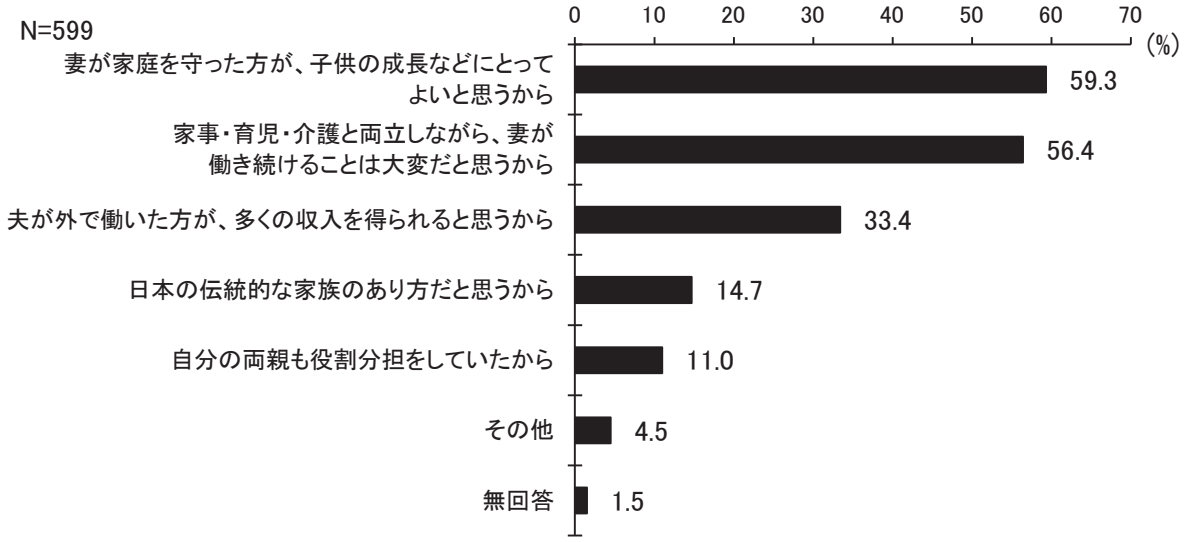
3 番目に高かったのは「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(33.4%)。性別でみると、女性 39.3%、男性 27.3%と女性の方が 12.0 ポイント高かった。

「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」と「自分の両親も役割分担をしていたから」はいずれも回答割合が 15%未満の少数意見だった。

男女年齢別でみると、「日本の伝統的な家族のあり方だと思うから」は 70 歳以上男性が最も高く、20 歳代以下女性が最も低かった。「自分の両親も役割分担をしていたから」は 20 歳代以下女性が最も高く、50 歳代男性が 0%で最も低かった。「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」は 40 歳代女性が最も高い一方、最も低かったのは 40 歳代男性となり、40 歳代男女の意識差が大きかった。

「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとってよいと思うから」は 40 歳代男性が最も高く、20 歳代以下男性が最も低かった。同年代男女の比較をすると、20 歳代以下～30 歳代は女性の方が高く、40 歳代～70 歳代以上は男性の方が高かった。

「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」は 40 歳代女性が最も高く、70 歳代以上男性が最も低かった。同年代男女の比較をすると、30 歳代は男性の方が高く、他の年代は女性の方が高かった。



【性別、年齢別】

| | n | 日本の伝統的な家族のあり方だと思うから | 自分の両親も役割分担をしていたから | 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから | 妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとってよいと思うから | 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 313 | 12.1 | 12.8 | 39.3 | 59.7 | 60.1 | 4.8 | 1.3 |
| 20歳代以下 | 25 | 4.0 | 20.0 | 40.0 | 60.0 | 52.0 | – | – |
| 30歳代 | 50 | 8.0 | 16.0 | 40.0 | 58.0 | 54.0 | 8.0 | 2.0 |
| 40歳代 | 46 | 15.2 | 13.0 | 52.2 | 69.6 | 78.3 | 2.2 | – |
| 50歳代 | 41 | 4.9 | 9.8 | 43.9 | 65.9 | 63.4 | 9.8 | – |
| 60歳代 | 64 | 17.2 | 9.4 | 40.6 | 54.7 | 68.8 | 1.6 | – |
| 70歳代以上 | 84 | 15.5 | 13.1 | 29.8 | 54.8 | 48.8 | 6.0 | 3.6 |
| 男性 | 275 | 17.1 | 9.1 | 27.3 | 60.0 | 53.5 | 4.4 | 1.5 |
| 20歳代以下 | 20 | 15.0 | 15.0 | 15.0 | 50.0 | 50.0 | 5.0 | – |
| 30歳代 | 23 | 8.7 | 13.0 | 21.7 | 52.2 | 60.9 | 17.4 | – |
| 40歳代 | 32 | 15.6 | 18.8 | 12.5 | 78.1 | 53.1 | – | – |
| 50歳代 | 45 | 13.3 | – | 20.0 | 68.9 | 57.8 | 2.2 | – |
| 60歳代 | 86 | 14.0 | 8.1 | 34.9 | 57.0 | 55.8 | 2.3 | 3.5 |
| 70歳代以上 | 69 | 27.5 | 8.7 | 34.8 | 55.1 | 46.4 | 5.8 | 1.4 |

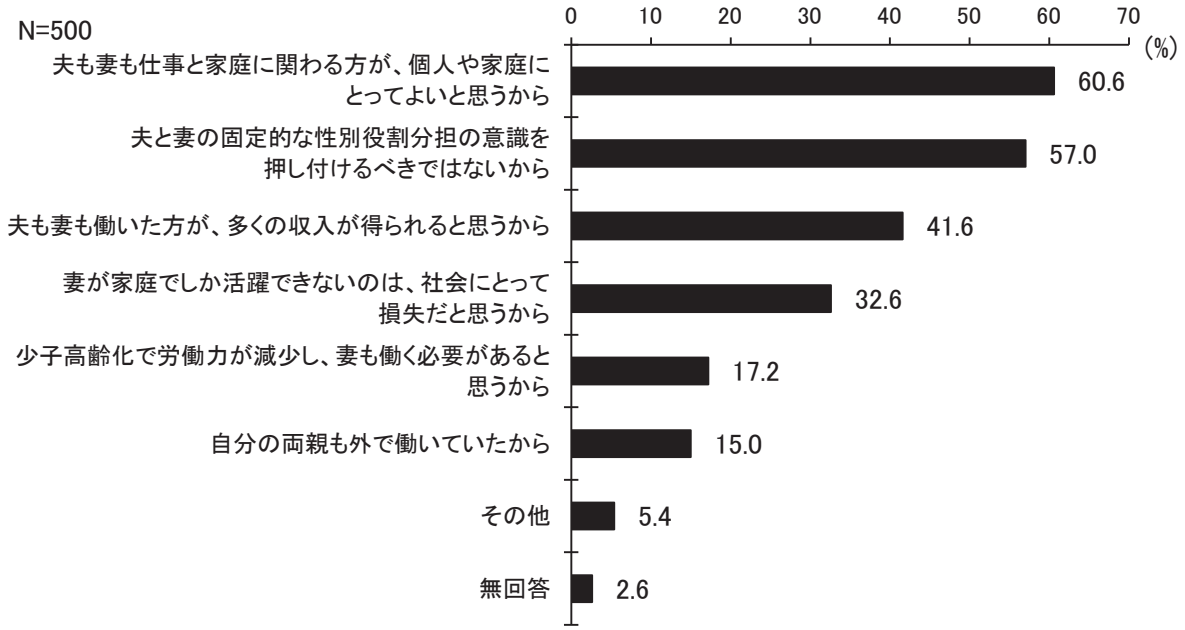
問２－３　問２－１で「どちらかといえば反対」「反対」と答えた方に伺います。それはなぜですか。（あてはまるもの全てに〇）

『反対』の理由は、「個人や家庭にとってよいと思うから」。

「夫も妻も仕事と家庭に関わる方が、個人や家庭にとってよいと思うから」が 60.6%で最も高く、3.6 ポイント差で「夫と妻の固定的な性別役割分担の意識を押し付けるべきではないから」（57.0%）が続いた。

この上位２項目を性別でみると、女性は「夫も妻も仕事と家庭に関わる方が、個人や家庭にとってよいと思うから」の方が高く、男性は「夫と妻の固定的な性別役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の方が高かった。

3 番目に高かったのは「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」（41.6%）。性別でみると、女性 38.9%、男性 46.1%と男性の方が 7.2 ポイント高かった。



## 【性別、年齢別】

| | | n | 夫と妻の固定的な性別役割分担の意識を押し付けるべきではないから | 自分の両親も外で働いていたから | 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから | 夫も妻も仕事と家庭に関わる方が、個人や家庭にとってよいと思うから | 妻が家庭でしか活躍できないのは、社会にとって損失だと思うから | 少子高齢化で労働力が減少し、妻も働く必要があると思うから | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | | 301 | 62.1 | 15.3 | 38.9 | 67.4 | 34.6 | 18.6 | 6.0 | 1.7 |
| | ２０歳代以下 | 32 | 81.3 | 28.1 | 53.1 | 59.4 | 34.4 | 15.6 | 12.5 | - |
| | ３０歳代 | 41 | 63.4 | 24.4 | 61.0 | 56.1 | 41.5 | 24.4 | - | - |
| | ４０歳代 | 52 | 73.1 | 19.2 | 42.3 | 61.5 | 36.5 | 17.3 | 5.8 | 3.8 |
| | ５０歳代 | 51 | 66.7 | 17.6 | 25.5 | 76.5 | 39.2 | 9.8 | 5.9 | - |
| | ６０歳代 | 87 | 54.0 | 6.9 | 33.3 | 77.0 | 28.7 | 20.7 | 6.9 | - |
| | ７０歳代以上 | 38 | 42.1 | 5.3 | 28.9 | 60.5 | 31.6 | 23.7 | 5.3 | 7.9 |
| 男性 | | 193 | 50.3 | 15.0 | 46.1 | 49.7 | 30.1 | 15.0 | 4.7 | 4.1 |
| | ２０歳代以下 | 24 | 45.8 | 37.5 | 54.2 | 41.7 | 16.7 | 16.7 | 4.2 | - |
| | ３０歳代 | 21 | 66.7 | 28.6 | 33.3 | 57.1 | 38.1 | 14.3 | 9.5 | - |
| | ４０歳代 | 38 | 55.3 | 18.4 | 52.6 | 44.7 | 31.6 | 15.8 | 10.5 | 2.6 |
| | ５０歳代 | 37 | 62.2 | 10.8 | 59.5 | 54.1 | 27.0 | 13.5 | 2.7 | 5.4 |
| | ６０歳代 | 50 | 44.0 | 6.0 | 42.0 | 52.0 | 36.0 | 16.0 | 2.0 | 6.0 |
| | ７０歳代以上 | 22 | 22.7 | - | 22.7 | 45.5 | 27.3 | 13.6 | - | 9.1 |

■男女の役割について

問３　家庭生活の中で、次の事柄について主にどなたが行っていますか。（それぞれ１つに〇）

自治会等の地域活動以外は主に妻が行っている。

主に夫が担当している事柄で最も回答割合が高かったのは⑬自治会等の地域活動の 33.3%で、2 番目が④ごみ出しの 30.0%となった。他の事柄はいずれも 10%未満となり、主に夫が担当している割合は少数だった。主に妻が担当している割合と比較すると、⑬自治会等の地域活動は主に妻が担当の割合を上回ったが、2 番目に高かった④ごみ出しは、主に妻が担当の割合を下回った。

主に妻が担当している事柄で最も回答割合が高かったのは①食事の用意の 78.0%で、2 番目が⑥洗濯の 73.7%となった。回答割合が最も低かったのは⑭高齢の親の介護の 16.0%で 2 番目が⑨赤ちゃんをお風呂に入れるの 16.9%となった。ただし、⑭高齢の親の介護と⑨赤ちゃんをお風呂に入れるは、半数以上が該当なしと回答しており、該当なしと無回答を除けば半数近くの人が、主に妻が担当と回答した。

| | 主に夫 | 夫と妻が同じ程度 | 主に妻 | 家族で交替・分担 | 有償サービスの利用 | 自分のみ（単身者等） | 該当なし | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①食事の用意 | 1.2 | 3.8 | 78.0 | 5.6 | - | 7.4 | 2.8 | 1.2 |
| ②食事の後片付け | 3.3 | 9.3 | 66.6 | 9.7 | - | 7.4 | 2.3 | 1.3 |
| ③食料品、日用品の買物 | 2.2 | 15.4 | 63.2 | 7.8 | 0.2 | 7.3 | 2.5 | 1.3 |
| ④ごみ出し | 30.0 | 11.7 | 38.4 | 8.7 | - | 7.0 | 2.8 | 1.4 |
| ⑤掃除 | 3.7 | 14.4 | 62.1 | 9.3 | - | 7.3 | 1.9 | 1.2 |
| ⑥洗濯 | 2.7 | 6.7 | 73.7 | 5.8 | - | 7.3 | 2.3 | 1.5 |
| ⑦赤ちゃんのミルクや食事の世話 | - | 1.7 | 33.0 | 1.7 | - | 0.3 | 53.8 | 9.4 |
| ⑧赤ちゃんのオムツ替え | 0.1 | 4.0 | 29.9 | 2.3 | - | 0.2 | 53.8 | 9.7 |
| ⑨赤ちゃんをお風呂に入れる | 7.2 | 8.3 | 16.9 | 3.6 | - | 0.2 | 54.0 | 9.7 |
| ⑩保育園や幼稚園の送迎 | 1.2 | 3.5 | 27.9 | 2.6 | - | 0.3 | 54.8 | 9.7 |
| ⑪子供の勉強をみる | 2.5 | 8.7 | 24.2 | 3.1 | 0.5 | 0.7 | 50.9 | 9.4 |
| ⑫学校等の行事への参加 | 1.2 | 9.7 | 29.3 | 2.9 | - | 1.2 | 46.0 | 9.7 |
| ⑬自治会等の地域活動 | 33.3 | 20.1 | 19.7 | 7.7 | - | 5.0 | 10.9 | 3.3 |
| ⑭高齢の親の介護 | 1.3 | 9.7 | 16.0 | 4.0 | 1.2 | 1.8 | 56.6 | 9.3 |

問４　あなたが望ましいと考える家族における役割分担に最も近いものはどれですか。（１つに○）

6 割強が「夫も妻も働き、両方で家事等をするのがよい」と回答。

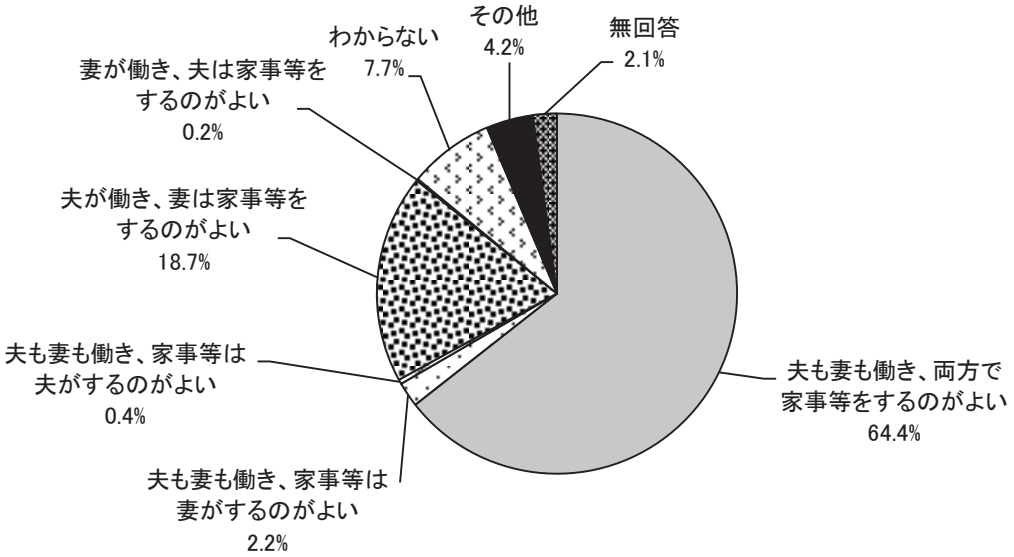
「夫も妻も働き、両方で家事等をするのがよい」が 64.4%と多数を占めた。次いで「夫が働き、妻は家事等をするのがよい」（18.7%）となり、「夫も妻も働き、家事等は妻がするのがよい」と「夫も妻も働き、家事等は夫がするのがよい」「妻が働き、夫は家事等をするのがよい」は少数意見だった。

前回調査と比較すると、「夫も妻も働き、両方で家事等をするのがよい」の割合が 7.0 ポイント低下、「夫が働き、妻は家事等をするのがよい」が 6.0 ポイント上昇した。

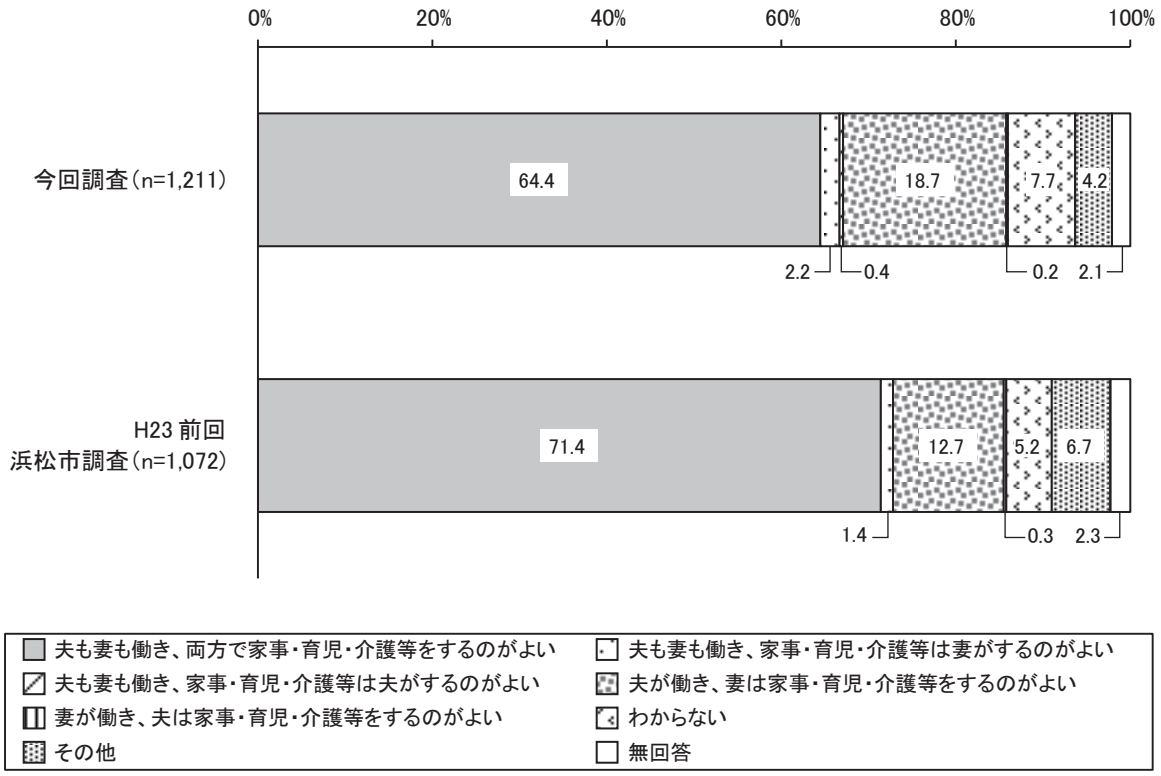
性別でみると、男女とも「夫も妻も働き、両方で家事等をするのがよい」、「夫が働き、妻は家事等をするのがよい」の順に高かったが、回答割合に差がみられた。「夫も妻も働き、両方で家事等をするのがよい」は女性 69.9%、男性 57.8%と女性の方が 12.1 ポイント高かった。一方、「夫が働き、妻は家事等をするのがよい」は女性 15.2%、男性 23.4%と男性の方が 8.2 ポイント高かった。

「夫も妻も働き、両方で家事等をするのがよい」を男女年齢別でみると、女性は 20 歳代以下～60 歳代の回答割合がいずれも 75%前後で高く、70 歳代以上は 46.6%と低かった。男性は 40 歳代を山として回答割合が低くなる傾向がみられた。

「夫も妻も働き、家事等は妻がするのがよい」を男女年齢別でみると、女性は 70 歳代以上が最も高く、20 歳代以下が最も低かった。男性は 20 歳代以下が最も高く、30 歳代が最も低かった。



## 【経年比較】




資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

## 【性別、年齢別】

| | n | 夫も妻も働き、両方で家事等をするのがよい | 夫も妻も働き、家事等は妻がするのがよい | 夫も妻も働き、家事等は夫がするのがよい | 夫が働き、妻は家事等をするのがよい | 妻が働き、夫は家事等をするのがよい | わからない | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 682 | 69.9 | 1.8 | 0.3 | 15.2 | - | 6.0 | 4.3 | 2.5 |
| ２０歳代以下 | 65 | 76.9 | - | - | 9.2 | - | 10.8 | 3.1 | - |
| ３０歳代 | 103 | 76.7 | 1.0 | - | 11.7 | - | 3.9 | 5.8 | 1.0 |
| ４０歳代 | 111 | 75.7 | 1.8 | - | 11.7 | - | 6.3 | 4.5 | - |
| ５０歳代 | 108 | 75.0 | 0.9 | - | 10.2 | - | 7.4 | 5.6 | 0.9 |
| ６０歳代 | 159 | 74.8 | 2.5 | - | 14.5 | - | 3.1 | 3.1 | 1.9 |
| ７０歳代以上 | 133 | 46.6 | 3.0 | 1.5 | 28.6 | - | 7.5 | 3.8 | 9.0 |
| 男性 | 509 | 57.8 | 2.8 | 0.6 | 23.4 | 0.4 | 9.4 | 4.3 | 1.4 |
| ２０歳代以下 | 50 | 58.0 | 6.0 | - | 16.0 | 2.0 | 14.0 | 4.0 | - |
| ３０歳代 | 47 | 63.8 | - | - | 21.3 | - | 8.5 | 6.4 | - |
| ４０歳代 | 80 | 70.0 | 5.0 | - | 13.8 | - | 8.8 | 2.5 | - |
| ５０歳代 | 89 | 61.8 | 1.1 | - | 24.7 | 1.1 | 5.6 | 3.4 | 2.2 |
| ６０歳代 | 145 | 57.9 | 2.8 | 0.7 | 22.8 | - | 9.7 | 4.1 | 2.1 |
| ７０歳代以上 | 96 | 40.6 | 2.1 | 2.1 | 36.5 | - | 10.4 | 6.3 | 2.1 |

問５　あなたが、家事・育児・介護等に従事する一日の平均時間はどのくらいですか。平日、休日それぞれについてご記入ください。（数字を記入）

**家事等に従事する時間は、女性の方が 4 時間以上長い。**

回答者の平均時間は平日の 3 時間 54 分、休日の平均時間は 4 時間 31 分となり、休日の方が 37 分長かった。平日・休日とも 3 時間以内の回答割合が最も高く、次いで 6 時間以内が高かった。

性別でみると男女で大きな差がみられた。平日の平均時間は女性 5 時間 45 分、男性 1 時間 17 分と女性の方が 4 時間 28 分長かった。男性は 0 分が 10.0%あった。

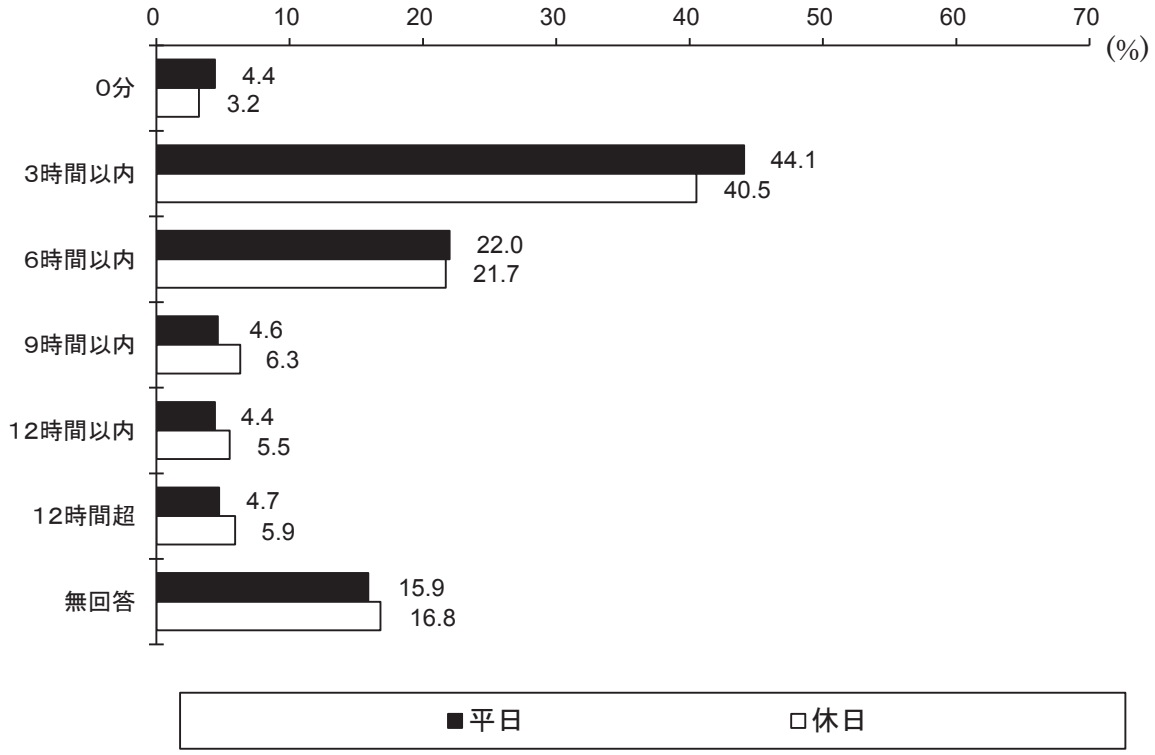
休日の平均時間は女性 6 時間 18 分、男性 2 時間 6 分と女性の方が 4 時間 12 分長かった。平日・休日とも女性の方が 4 時間以上長かった。

**【平均時間】**

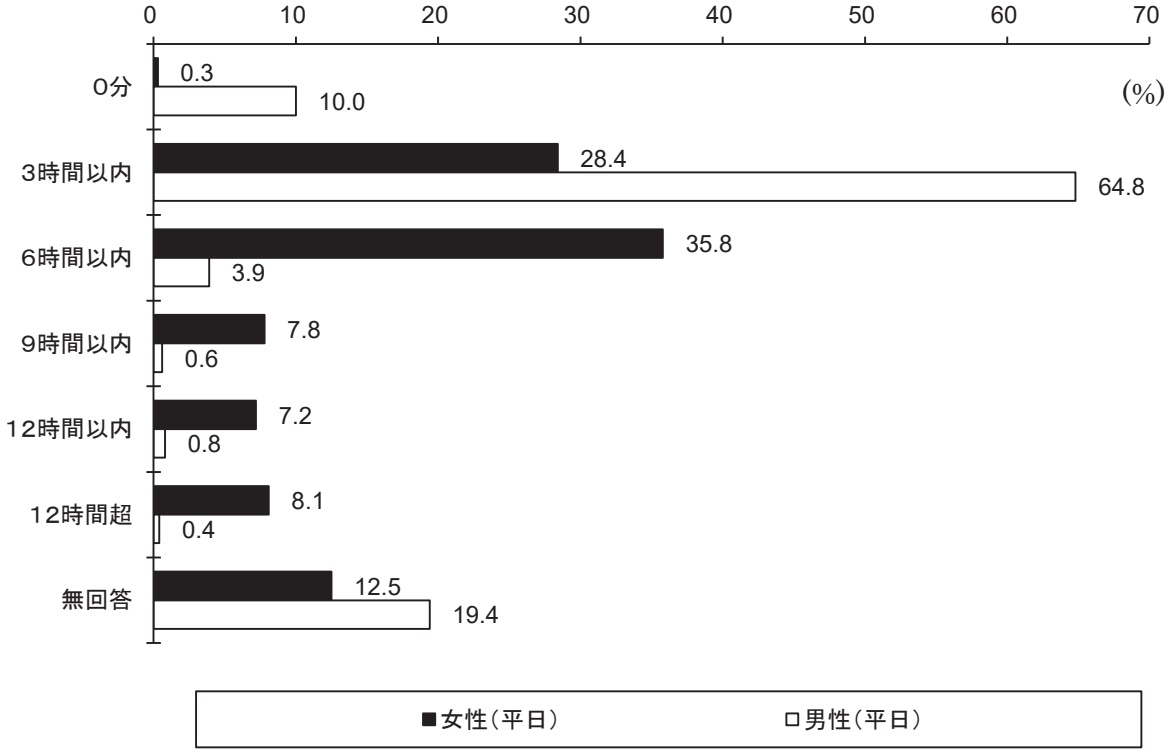
| | 平日平均時間 | 休日平均時間 |
|---|---|---|
| 全体 | ３時間 54 分 | ４時間 31 分 |
| 女性 | ５時間 45 分 | ６時間 18 分 |
| 男性 | １時間 17 分 | ２時間６分 |
| （参考）H23前回浜松市調査 | ２時間 42 分 | ３時間 36 分 |

資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

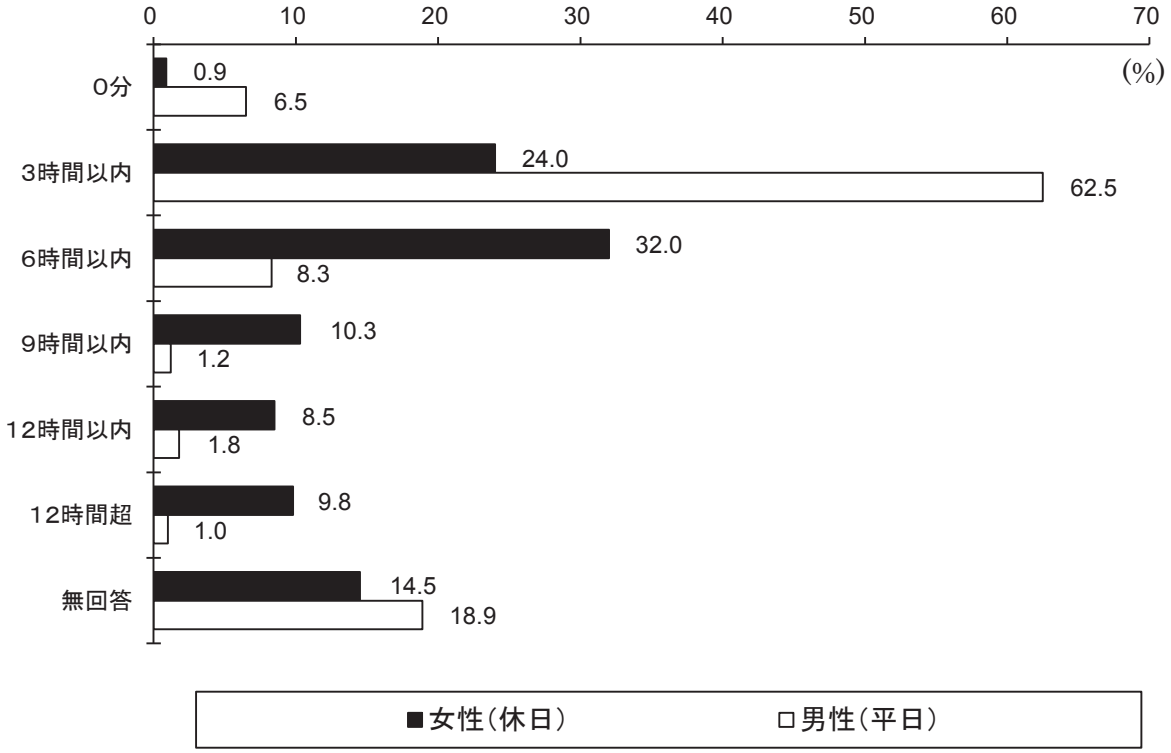
**【平日、休日別】**



【性別（平日）】


0
10
20
30
40
50
60
70
(%)
0分
0.3
10.0
3時間以内
28.4
64.8
6時間以内
35.8
3.9
9時間以内
7.8
0.6
12時間以内
7.2
0.8
12時間超
8.1
0.4
無回答
12.5
19.4
■女性（平日）
□男性（平日）

【性別（休日）】


0
10
20
30
40
50
60
70
(%)
0分
0.9
6.5
3時間以内
24.0
62.5
6時間以内
32.0
8.3
9時間以内
10.3
1.2
12時間以内
8.5
1.8
12時間超
9.8
1.0
無回答
14.5
18.9
■女性（休日）
□男性（平日）

■仕事と生活の調和について

問６　「仕事」「家庭生活（家事・育児・介護等）」「地域活動・個人の生活（自治会・ＰＴＡ・ボランティア・趣味・学習等）」の優先度について、あなたの理想に最も近いものはどれですか。（どれか１つに〇）

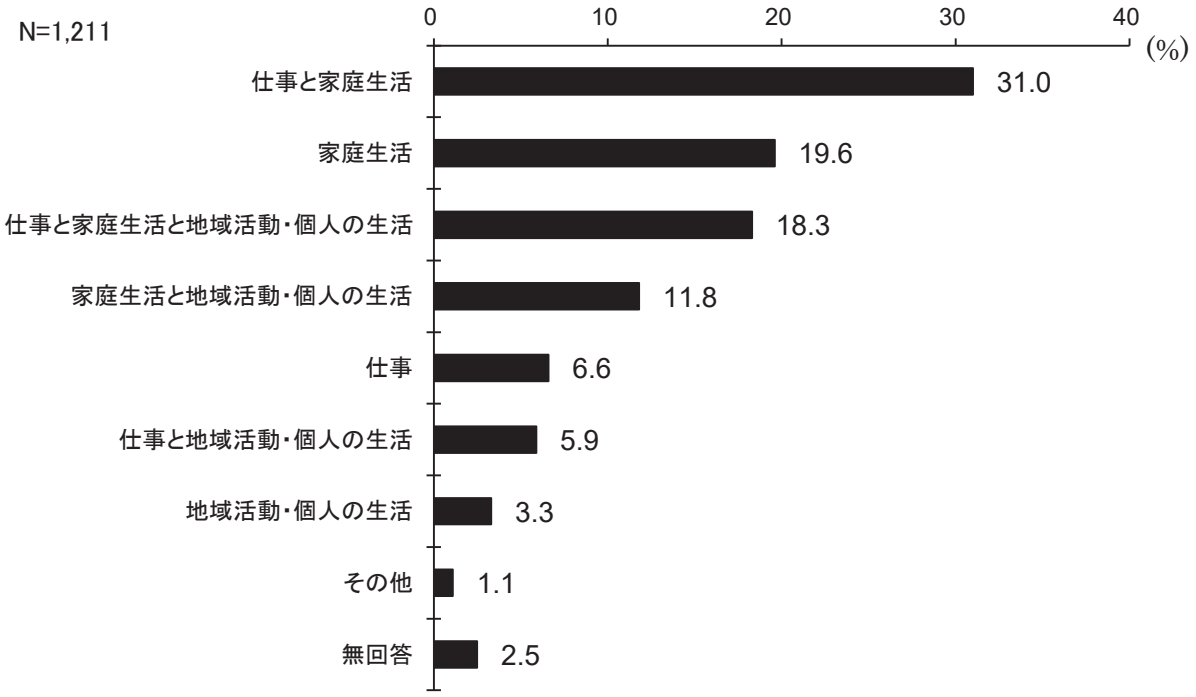
ワーク・ライフ・バランスのとれた生活が理想。

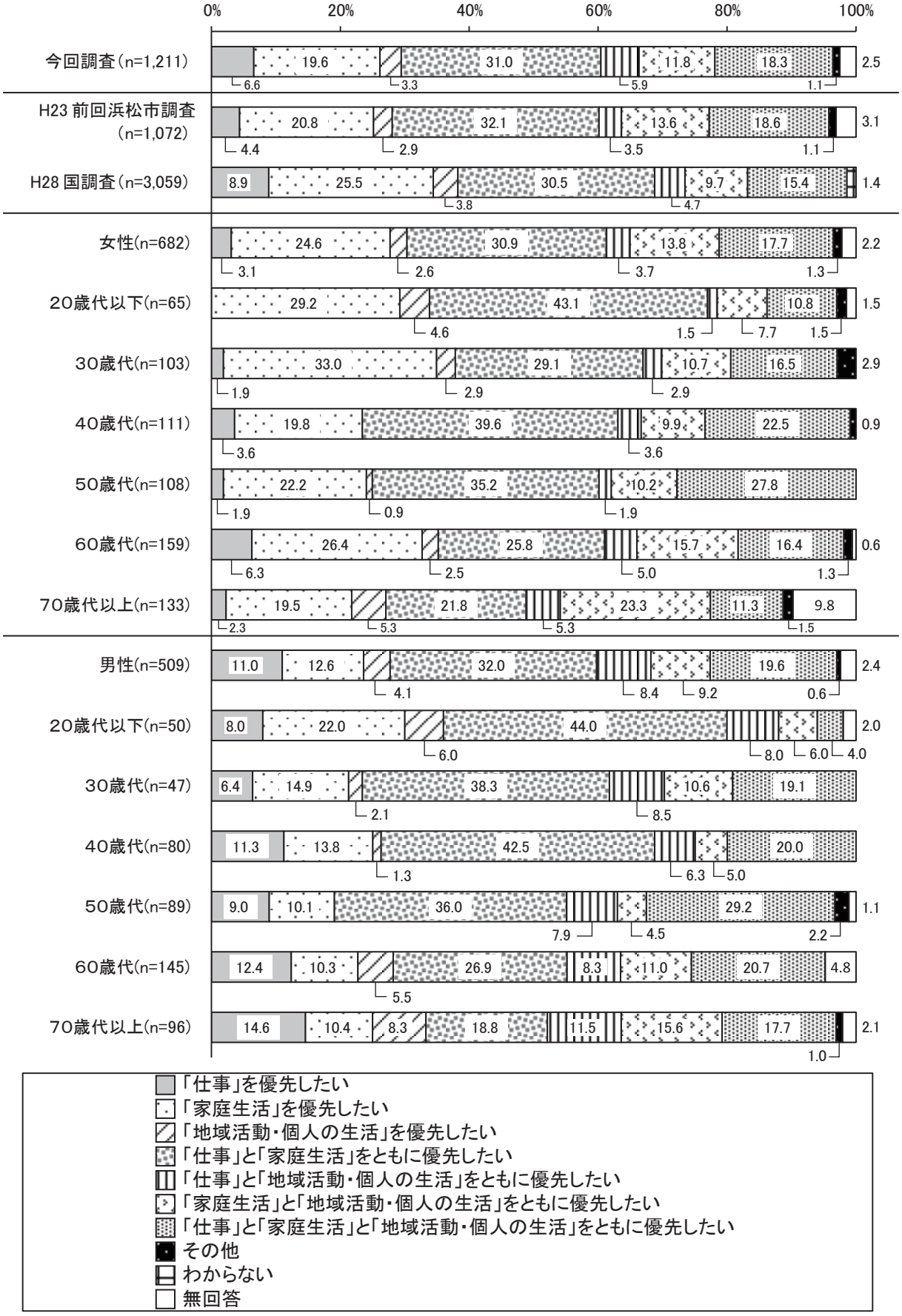
理想の優先度は「仕事と家庭生活」が 31.0%で最も高かった。「仕事と家庭生活」と「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」（18.3%）、「仕事と地域活動・個人の生活」（5.9%）を合わせたワーク・ライフ・バランスを理想とする回答が 55.2%と過半数を占めた。2 番目に高かったのは「家庭生活」の 19.6%で、「仕事」は 6.6%にとどまった

前回調査と比較すると、3 ポイント以上変動のあった項目はなかった。国の調査と比較すると、浜松市は「家庭生活」の割合が 5.9 ポイント低かった。

性別でみると、「仕事と家庭生活」は男女の差がほとんどなかった。「仕事」は女性 3.1%、男性 11.0%と男性の方が高かった。「家庭生活」は女性 24.6%、男性 12.6%と女性の方が高かった。

年齢別でみると「仕事と家庭生活」は男女とも 20 歳代以下が最も高く、70 歳代が最も低かった。男女とも 30 歳代の回答割合が 40 歳代より低くなっているが、概ね年齢が若いほど回答割合も高まる傾向がみられた。女性は 30 歳代と 60 歳代で「家庭生活」が「仕事と家庭生活」を上回った。男性は全ての年代で「仕事と家庭生活」が最も高かった。






＊「わからない」の回答は国のみ。「その他」の回答は浜松市のみ

資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）

問７　あなたの現状の「仕事」「家庭生活」「地域活動・個人の生活」の優先度について、最も近いものはどれですか。（どれか１つに〇）

## 家庭生活若しくは仕事を優先し、理想とのギャップがみられる。

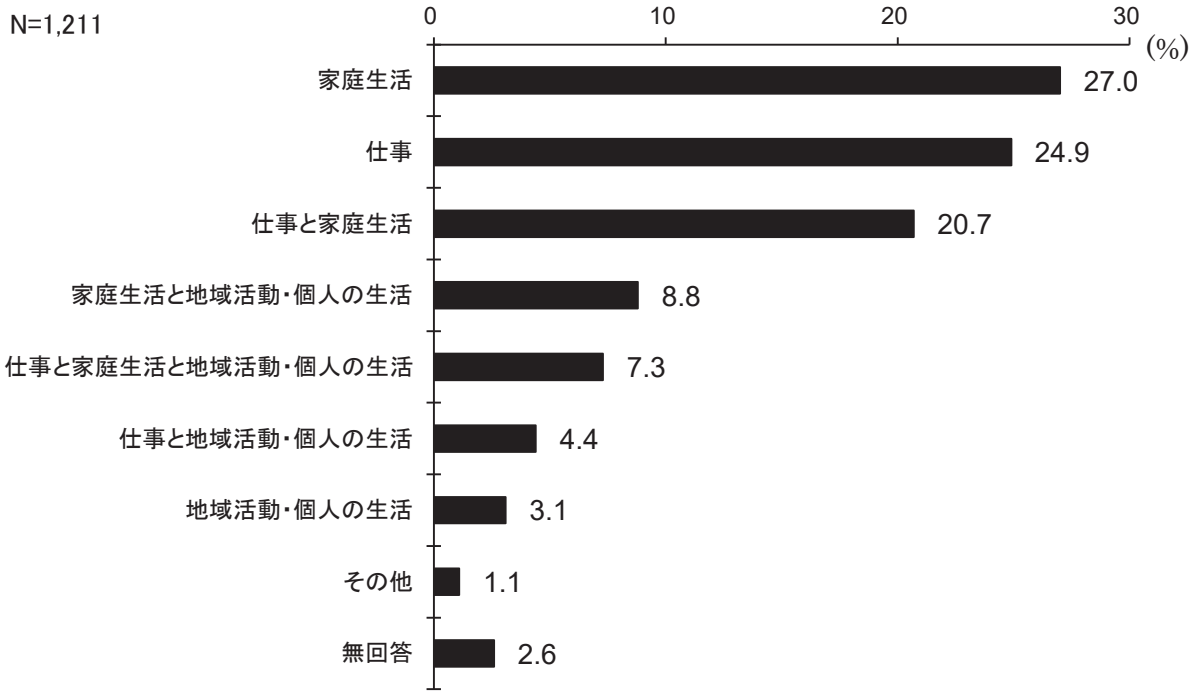
「家庭生活」が 27.0%で最も高く、次いで「仕事」（24.9%）、「仕事と家庭」（20.7%）の順に高かった。他の項目はいずれも 10%未満だった。「家庭生活」若しくは「仕事」で 51.9%と過半数を占め、「仕事と家庭生活」（20.7%）と「仕事と家庭生活と地域活動・個人の生活」（7.3%）、「仕事と地域活動・個人の生活」（4.4%）を合わせたワーク・ライフ・バランスがとれているとする回答の 32.4%を上回った。

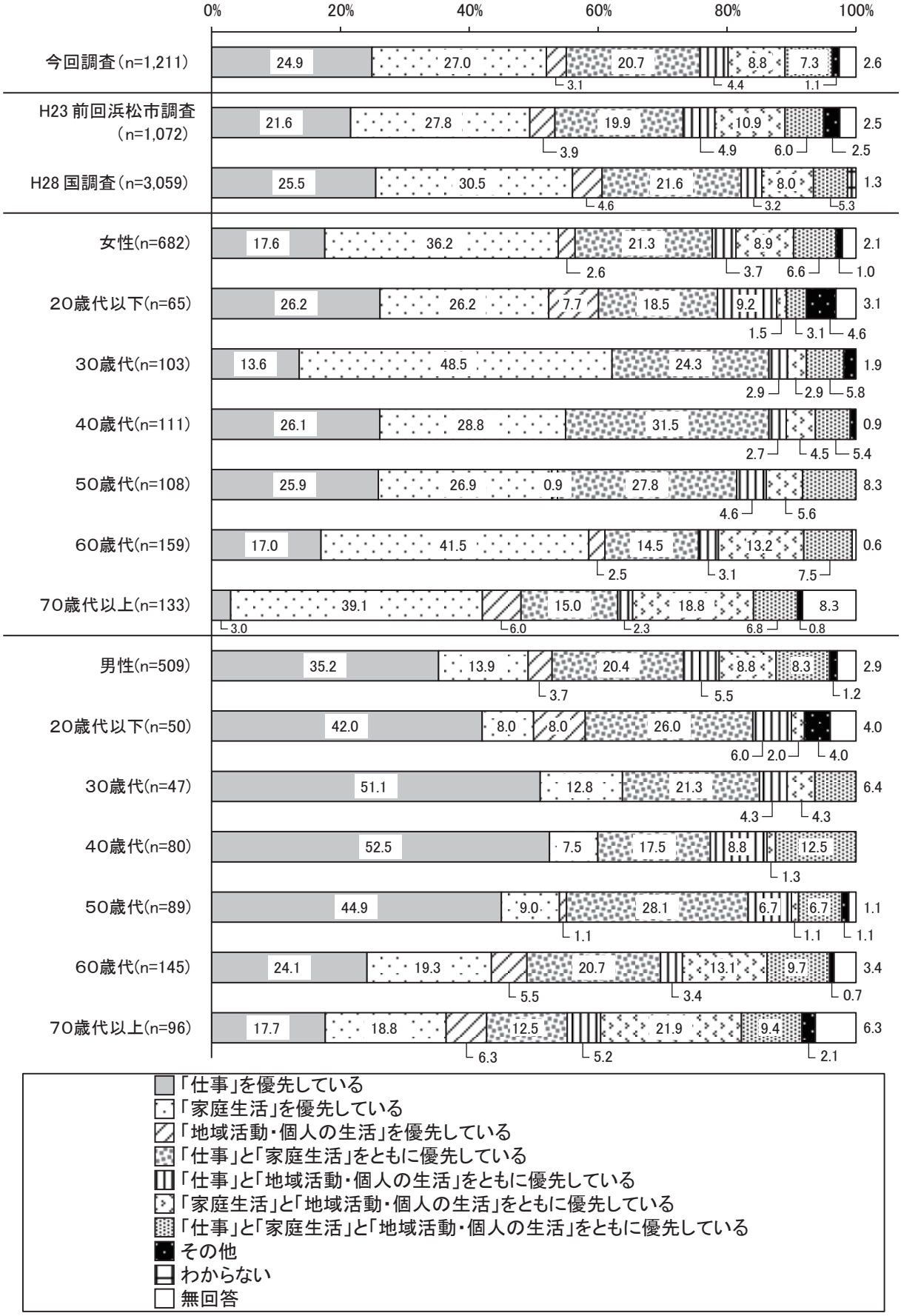
前回調査と比較すると、「仕事」の割合が 3.3 ポイント上昇した。国の調査と比較すると、浜松市は「家庭生活」の割合が 3.5 ポイント低い。

問 6 でたずねた理想と比較すると、「仕事と家庭生活」は理想の方が 10.3 ポイント高い。一方「仕事」は現状の方が 18.3 ポイント高く、理想と現状との間にギャップがみられる。

性別でみると、「仕事」は女性 17.6%、男性 35.2%と男性の方が高かった。「家庭生活」は女性 36.2%、男性 13.9%と女性の方が高かった。「仕事と家庭生活」は男女の差がほとんどなかった。

年齢別でみると、男性の 30 歳代～40 歳代は「仕事」の回答割合が 5 割を超えている。



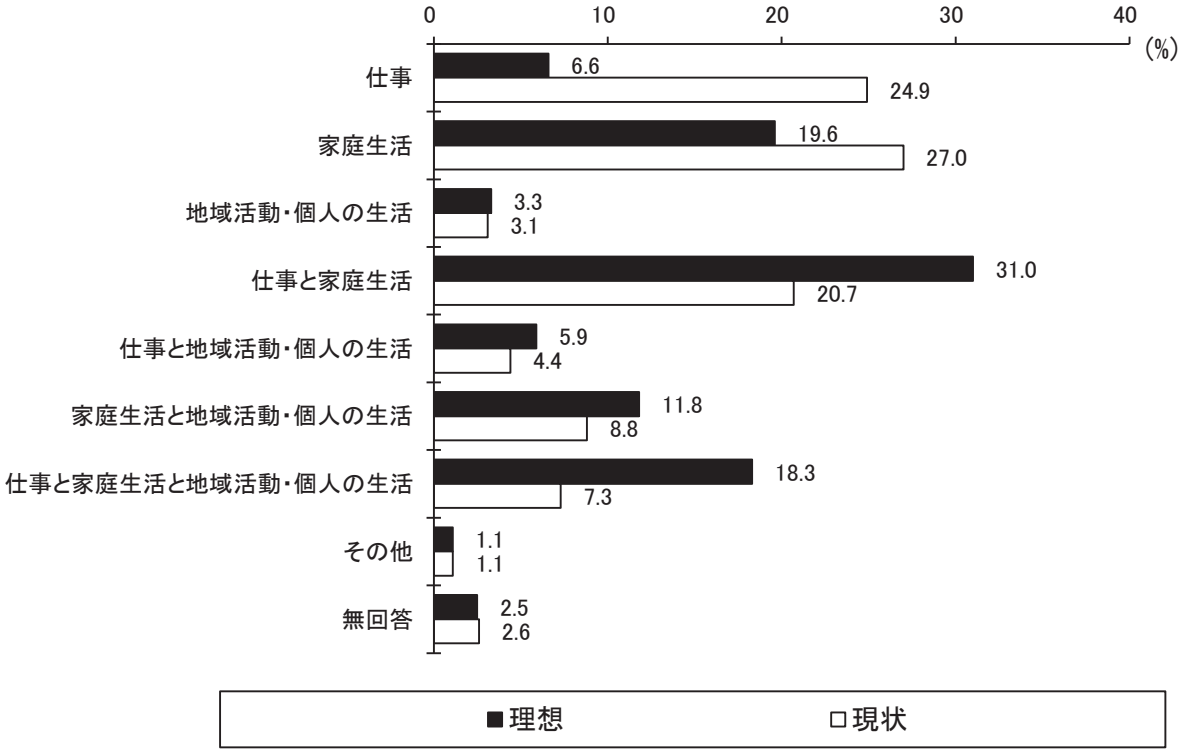



＊「わからない」の回答は国のみ。「その他」の回答は浜松市のみ

資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）

## 【理想（問６）と現状との比較】




## 【現実のワーク・ライフ・バランス別・理想】

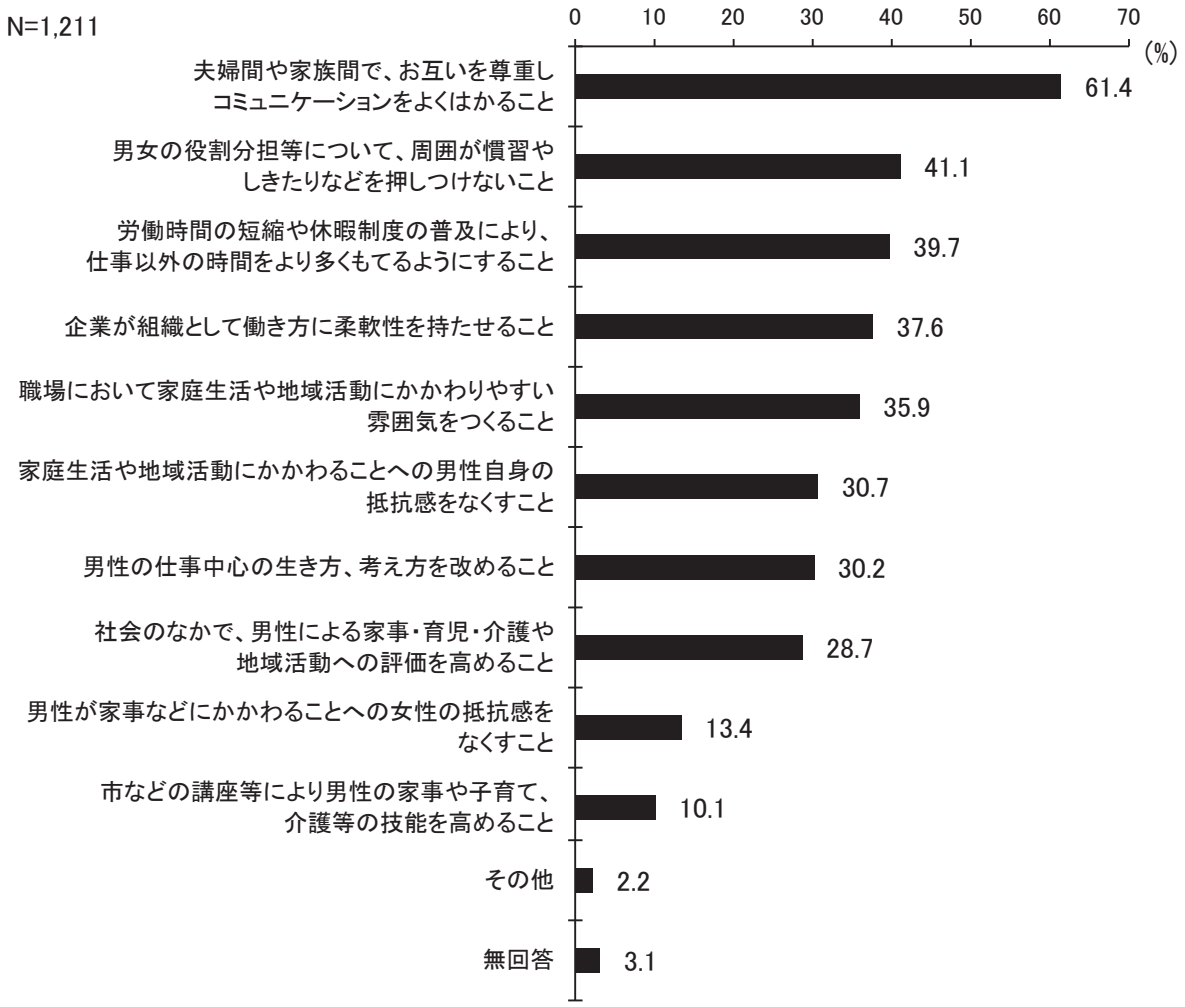
| （理想）＼（現実） | n | 「仕事」を優先している | 「家庭生活」を優先している | 「地域活動・個人の生活」を優先している | 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している | 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している | 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している | 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先している | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 1211 | 24.9 | 27.0 | 3.1 | 20.7 | 4.4 | 8.8 | 7.3 | 1.1 | 2.6 |
| 「仕事」を優先したい | 80 | 81.3 | 6.3 | 2.5 | 7.5 | – | – | 1.3 | – | 1.3 |
| 「家庭生活」を優先したい | 237 | 14.8 | 62.9 | 0.8 | 14.3 | 0.4 | 3.4 | 1.7 | 1.7 | – |
| 「地域活動・個人の生活」を優先したい | 40 | 10.0 | 22.5 | 27.5 | 7.5 | 5.0 | 22.5 | 2.5 | 2.5 | – |
| 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい | 375 | 31.7 | 19.7 | 1.3 | 39.7 | 2.4 | 0.8 | 3.5 | 0.3 | 0.5 |
| 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先したい | 71 | 32.4 | 1.4 | 4.2 | 9.9 | 32.4 | 8.5 | 7.0 | 4.2 | – |
| 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先したい | 143 | 9.1 | 32.2 | 7.0 | 9.8 | 3.5 | 36.4 | 2.1 | – | – |
| 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先したい | 222 | 18.9 | 16.7 | 1.8 | 16.2 | 5.9 | 12.2 | 26.6 | – | 1.8 |
| その他 | 13 | 7.7 | 30.8 | – | – | – | 15.4 | 7.7 | 30.8 | 7.7 |

問８　あなたは、男性が女性とともに家庭生活や地域活動に積極的にたずさわっていくためには、何が必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに〇）

## 夫婦間、家族間のコミュニケーションが重要。

「夫婦間や家族間で、お互いを尊重しコミュニケーションをよくはかること」が 61.4%で最も高く、2 番目に高かった「男女の役割分担等について、周囲が慣習やしきたりなどを押しつけないこと」（41.1%）を 20.3 ポイント上回った。

3 番目以下高い順に、「労働時間の短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」（39.7%）、「企業が組織として働き方に柔軟性を持たせること」（37.6%）、「職場において家庭生活や地域活動にかかわりやすい雰囲気をつくること」（35.9%）となり、働き方改革に関する項目が続いた。



問９　あなたは、男性が「育児休業」や「介護休暇」を取ることについて、どのように思いますか。（１つに〇）わからないと答えた方は、その理由を教えてください。

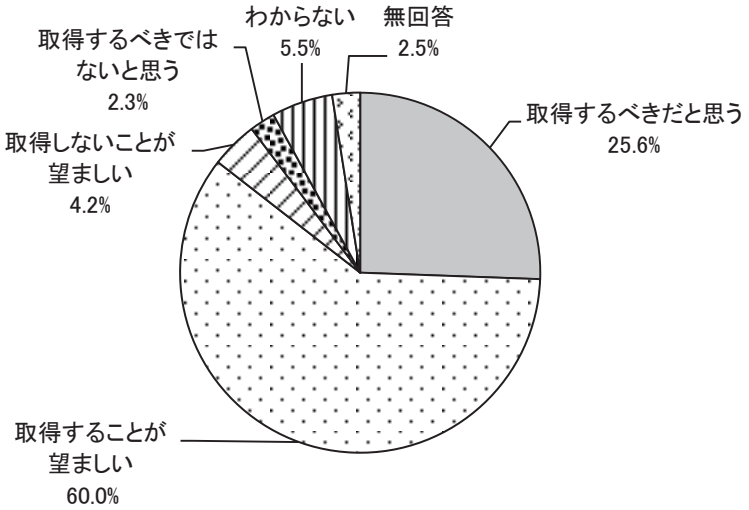
8 割以上の人が肯定的に捉えている。

「取得することが望ましい」が 60.0％で最も高かった。次いで「取得するべきだと思う」の 25.6％となり、85.6％が休暇取得を肯定的に捉えている。一方、「取得しないことが望ましい」（4.2％）、「取得するべきではないと思う」（2.3％）を合わせた否定的な意見は 6.5％にとどまった。

性別でみると、「取得するべきだと思う」は男性の方が 1.1 ポイント高かった。「取得することが望ましい」まで含めた休暇取得を肯定的に捉えている割合は、女性の方が 5.6 ポイント高かった。

年齢別でみると、「取得するべきだと思う」の男女とも年齢が若いほど回答割合も高まる傾向がみられた。その傾向は男性の方が強く、20 歳代男性は 46.0％と全体よりも 20.4 ポイント高かった。同年代の男女を比較すると、20 歳代以下～50 歳代は男性の方が「取得するべきだと思う」の回答割合が高かった。

N=1,211




「わからない」と回答した人の理由（主な理由抜粋）

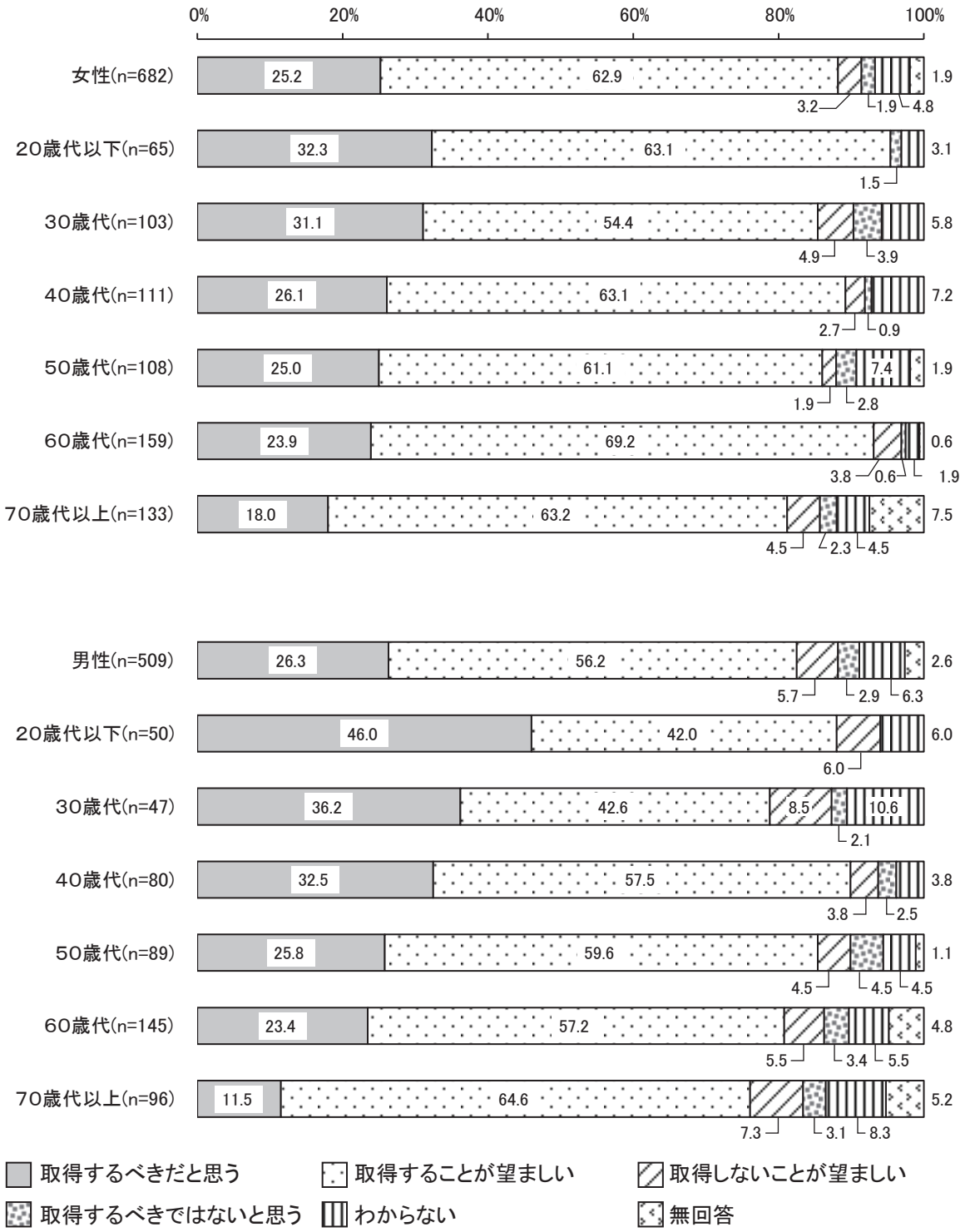
✓　育児と介護は別なので同一回答が難しい。

✓　育児休暇の場合取れれば理想ですが、長い休暇は必要ないと思います。介護休暇の方が必要に思います。

✓　家族間で決める事だから。

✓　将来的には取得すべきだと思うが現在ではそのための制度や仕組みが確立されていないと思う。

【性別、年齢別】


0%
20%
40%
60%
80%
100%
女性(n=682)
25.2
62.9
3.2
1.9
4.8
1.9
20歳代以下(n=65)
32.3
63.1
1.5
3.1
30歳代(n=103)
31.1
54.4
4.9
3.9
5.8
40歳代(n=111)
26.1
63.1
2.7
0.9
7.2
50歳代(n=108)
25.0
61.1
7.4
1.9
2.8
1.9
60歳代(n=159)
23.9
69.2
3.8
0.6
1.9
0.6
70歳代以上(n=133)
18.0
63.2
4.5
2.3
4.5
7.5
男性(n=509)
26.3
56.2
5.7
2.9
6.3
2.6
20歳代以下(n=50)
46.0
42.0
6.0
6.0
30歳代(n=47)
36.2
42.6
8.5
10.6
2.1
40歳代(n=80)
32.5
57.5
3.8
2.5
3.8
50歳代(n=89)
25.8
59.6
4.5
4.5
4.5
1.1
60歳代(n=145)
23.4
57.2
5.5
3.4
5.5
4.8
70歳代以上(n=96)
11.5
64.6
7.3
3.1
8.3
5.2
取得するべきだと思う
取得することが望ましい
取得しないことが望ましい
取得するべきではないと思う
わからない
無回答

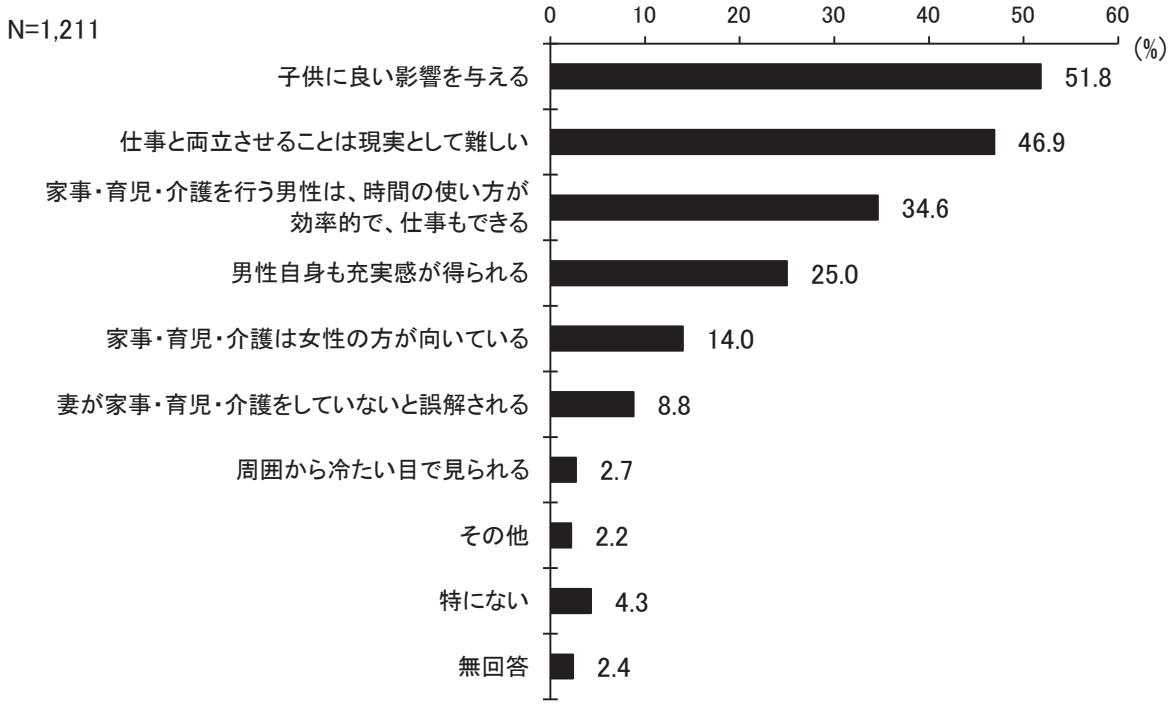
問 10　あなたは、男性が家事・育児・介護等を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。（あてはまるもの全てに〇）

## 仕事との両立は難しいが、子供に良い影響を与えるイメージを持っている。

「子供に良い影響を与える」が 51.8%で最も高く、次いで「仕事と両立させることは現実として難しい」の 46.9%の順となった。子供に良い影響を与えると思っている一方、仕事との両立は難しいと考えている状況にある。以下、「家事・育児・介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」（34.6%）、「男性自身も充実感が得られる」25.0%の順に高かった。

性別でみると、「仕事と両立させることは現実として難しい」は女性 45.7%、男性 48.5%と 2.8 ポイントの差に収まっているが、「子供に良い影響を与える」は女性 60.4%、男性 41.3%と女性の方が 19.1 ポイント高く、意識の差がみられた。「家事・育児・介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」と「男性自身も充実感が得られる」は、いずれも女性の方が回答割合は高かった。女性がイメージする男性像と、男性自身が描くイメージとの間に差がみられる。

年齢別にみると、「子供に良い影響を与える」は男女とも 20 歳代以下～30 歳代の回答割合が他の年代と比較して高かった。「仕事と両立させることは現実として難しい」は、女性は 60 歳代、男性は 40 歳代の回答割合が最も高かった。30 歳代女性は「妻が家事・育児・介護をしていないと誤解される」が他の年代や男性と比較して高かった。



## 【性別、年齢別】

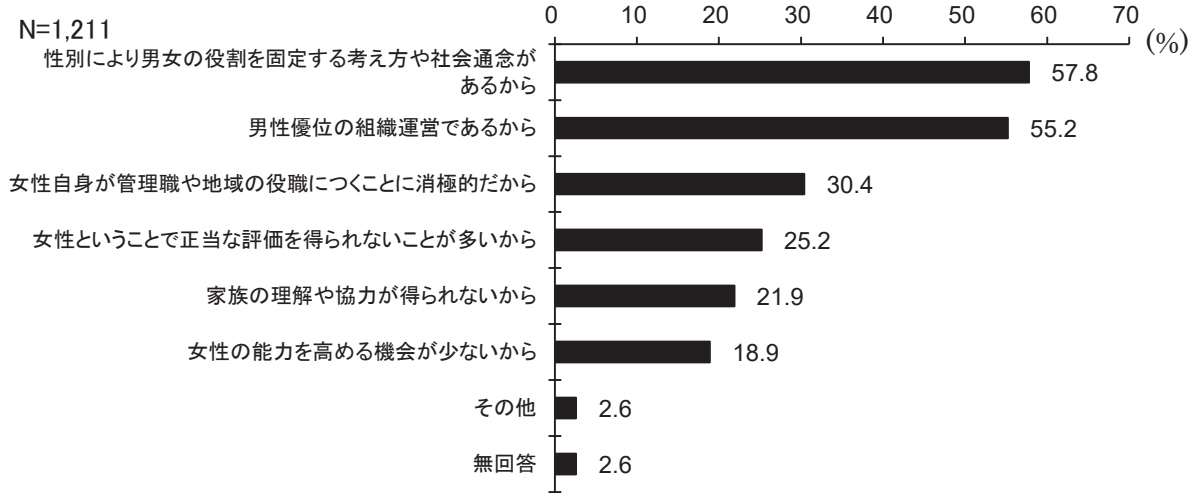
| | | n | 家事・育児・介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる | 男性自身も充実感が得られる | 子供に良い影響を与える | 仕事と両立させることは現実として難しい | 家事・育児・介護は女性の方が向いている | 妻が家事・育児・介護をしていないと誤解される | 周囲から冷たい目で見られる | その他 | 特にない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | | 682 | 40.3 | 27.3 | 60.4 | 45.7 | 12.3 | 10.3 | 2.8 | 2.6 | 3.5 | 1.8 |
| | ２０歳代以下 | 65 | 41.5 | 20.0 | 67.7 | 41.5 | 4.6 | 7.7 | 1.5 | 3.1 | 6.2 | - |
| | ３０歳代 | 103 | 35.9 | 20.4 | 66.0 | 49.5 | 10.7 | 19.4 | 3.9 | 7.8 | 2.9 | 1.0 |
| | ４０歳代 | 111 | 46.8 | 27.9 | 61.3 | 47.7 | 11.7 | 8.1 | 2.7 | 0.9 | 5.4 | 0.9 |
| | ５０歳代 | 108 | 44.4 | 23.1 | 61.1 | 41.7 | 12.0 | 14.8 | 3.7 | 3.7 | 2.8 | 1.9 |
| | ６０歳代 | 159 | 38.4 | 36.5 | 63.5 | 54.1 | 13.2 | 9.4 | 3.1 | 1.3 | 1.3 | 0.6 |
| | ７０歳代以上 | 133 | 36.8 | 27.1 | 47.4 | 36.1 | 17.3 | 3.0 | 1.5 | 0.8 | 4.5 | 5.3 |
| 男性 | | 509 | 27.9 | 21.8 | 41.3 | 48.5 | 16.3 | 7.1 | 2.8 | 1.6 | 5.1 | 2.8 |
| | ２０歳代以下 | 50 | 34.0 | 20.0 | 44.0 | 36.0 | 10.0 | 8.0 | 6.0 | - | 6.0 | - |
| | ３０歳代 | 47 | 36.2 | 27.7 | 51.1 | 40.4 | 4.3 | 10.6 | 6.4 | 2.1 | 10.6 | - |
| | ４０歳代 | 80 | 32.5 | 16.3 | 42.5 | 61.3 | 10.0 | 7.5 | 3.8 | 1.3 | 7.5 | 1.3 |
| | ５０歳代 | 89 | 29.2 | 20.2 | 37.1 | 60.7 | 18.0 | 11.2 | 3.4 | 2.2 | 2.2 | 1.1 |
| | ６０歳代 | 145 | 22.8 | 19.3 | 40.0 | 47.6 | 21.4 | 2.1 | 1.4 | 2.1 | 3.4 | 3.4 |
| | ７０歳代以上 | 96 | 24.0 | 29.2 | 40.6 | 39.6 | 21.9 | 8.3 | - | 1.0 | 5.2 | 6.3 |

■政策・方針決定過程への女性の参画について

問 11　あなたは、政治や企業活動、地域活動などのあらゆる分野において、政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。（３つまでに〇）

女性の参画が少ない理由は社会通念と男性優位の組織運営

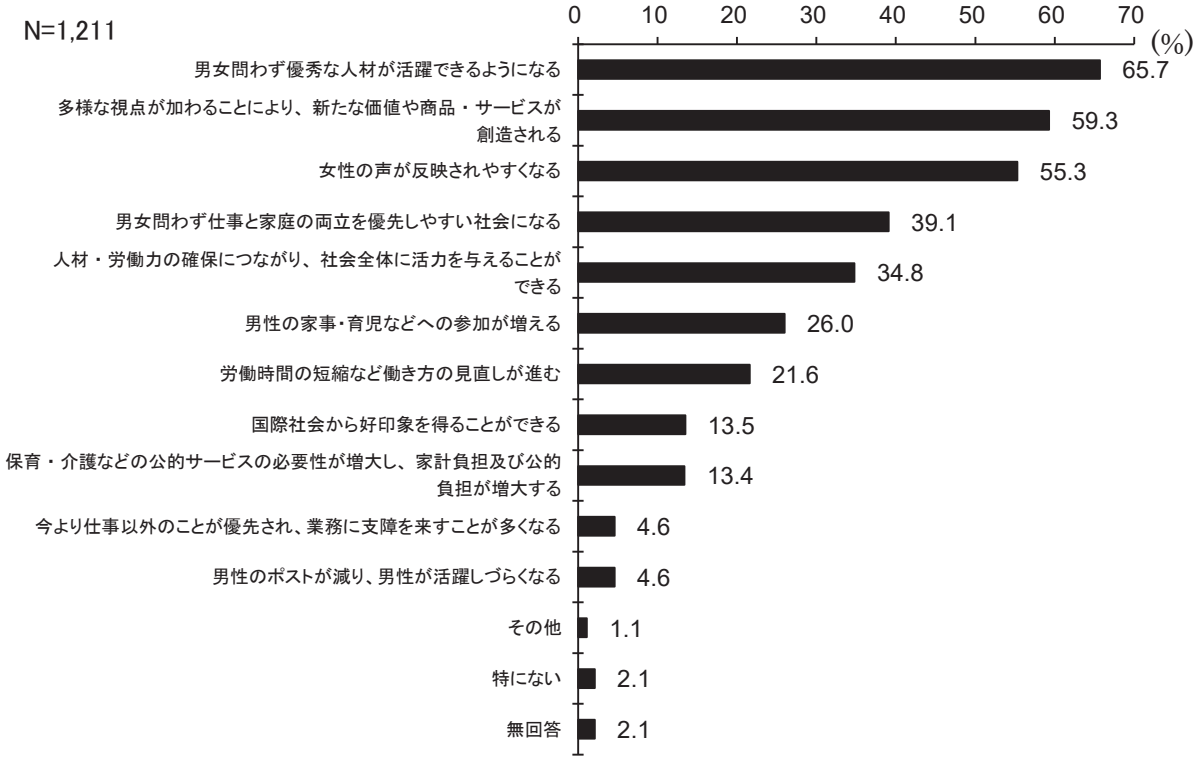
「性別により男女の役割を固定する考え方や社会通念があるから」が 57.8%で最も高く、次いで「男性優位の組織運営であるから」が 55.2%で高かった。




問 12　あなたは、政治・経済・地域などのさまざまな分野で、女性の参画が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（あてはまるもの全てに〇）

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が最も多い。

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が 65.7%で最も高く、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」（59.3%）と「女性の声が反映されやすくなる」（55.3%）も回答割合が 5 割を超えた。



■女性の活躍推進について

問 13　一般的に女性が職業を持つことについて、あなたの考えに最も近いのはどれですか。
（どれか１つに〇）

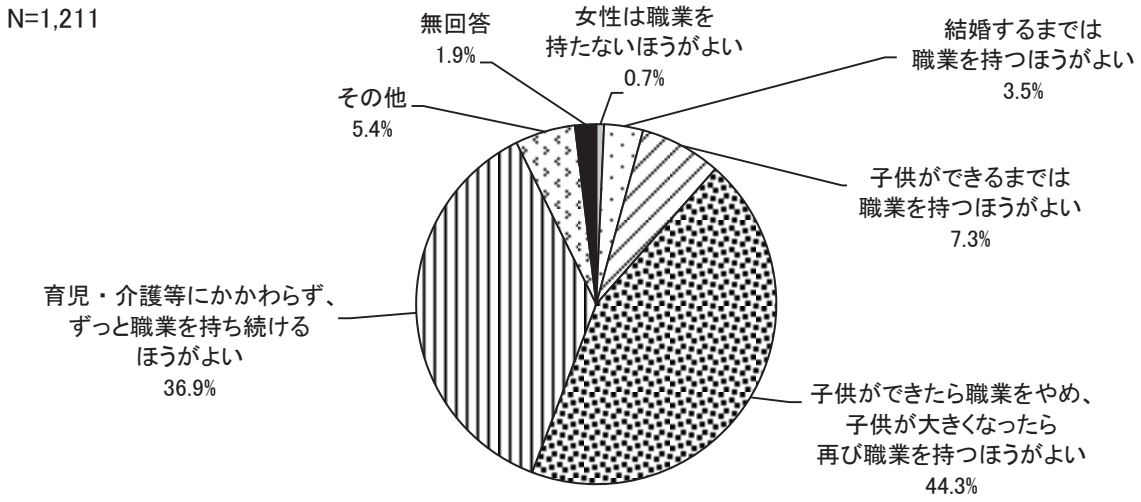
育児期間中の就業についての考えが年代により異なる。

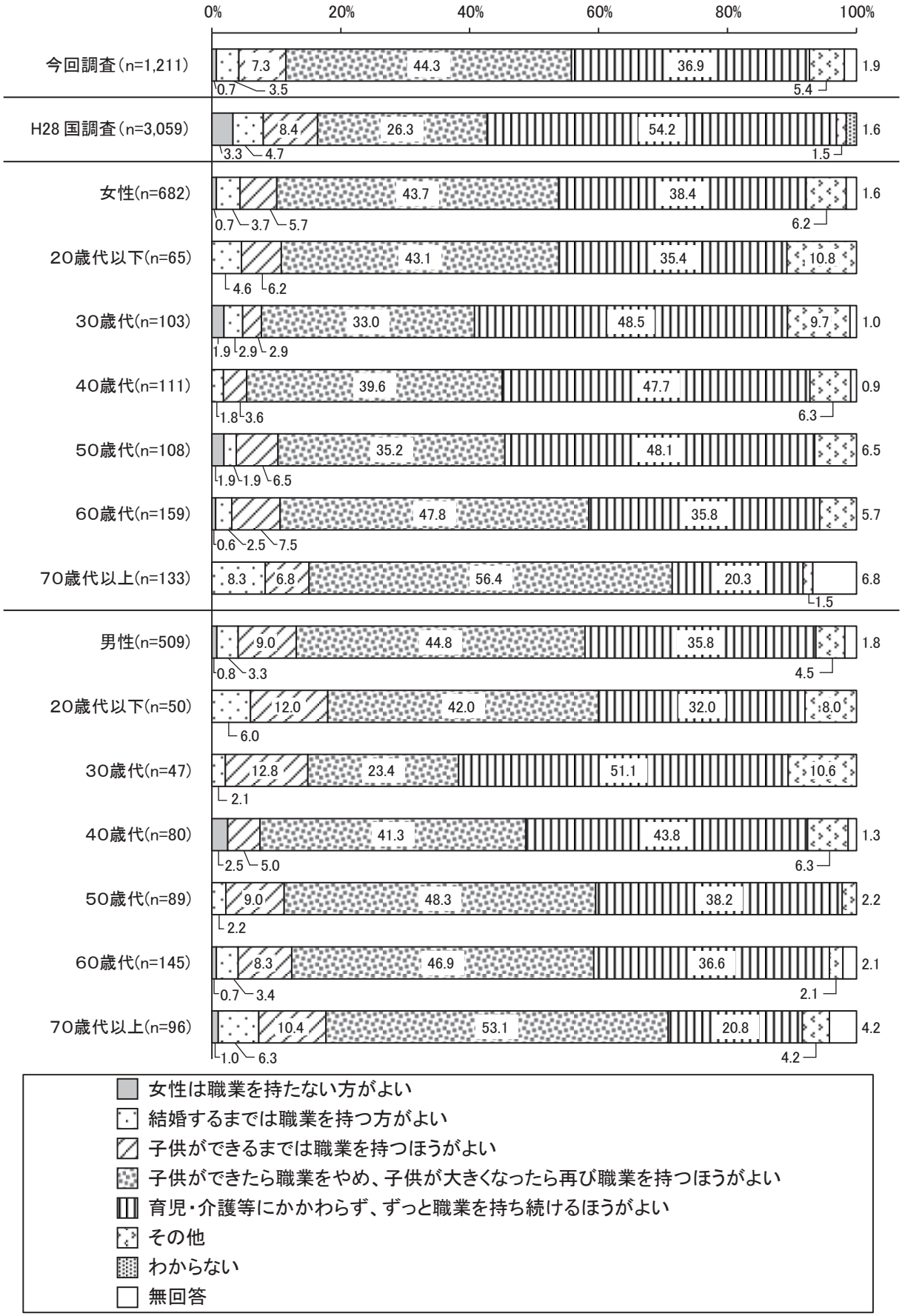
「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が 44.3%で最も高かった。次いで「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が 36.9%で高く、上位 2 項目で 81.2%を占めた。「女性は職業を持たない方がよい」（0.7%）、「結婚するまでは職業を持つほうがよい」（3.5%）、「子供ができるまでは職業を持つほうがよい」（7.3%）はいずれも少数意見だった。

国の調査と比較すると、「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は浜松市の方が 18.0 ポイント高く、「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」は 17.3 ポイント低かった。

「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の回答傾向は、性別では大きな差はなかったが、年代別では大きな差がみられた。

30 歳代は男女とも「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が最も低く、「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の割合が最も高かった。30 歳代より上の年代にかけては、概ね年代が高まるに伴い、「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が高まり、「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の割合が低くなる傾向がみられた。20 歳代以下は、男女とも「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」を上回っており、30 歳代と異なる結果となった。






＊「わからない」の回答は国のみ。

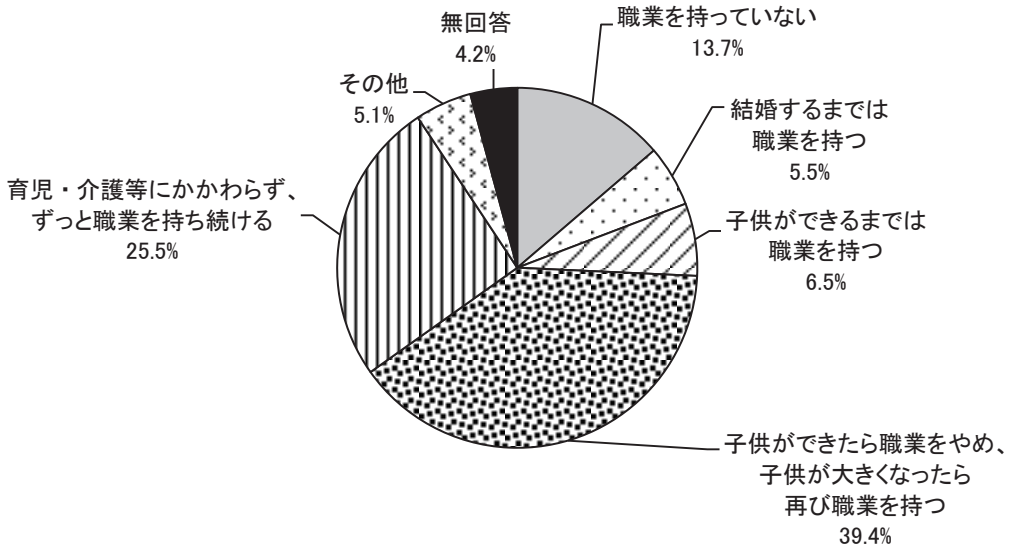
資料：H28 国調査「平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）

問 14　女性が職業を持つことについて、あなたの現状にあてはまるもの又は、あてはまると思われるものはどれですか。（１つに〇）※男性の方は、配偶者の働き方など、ご家庭での状況で現状にあてはまる又は、あてはまると思われるものをお答えください。

子供が大きくなったら再び職業を持つと回答した人が約４割。

「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つ」が 39.4％で最も高かった。次いで、「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける」が 25.5％で高かった。

N=1,211



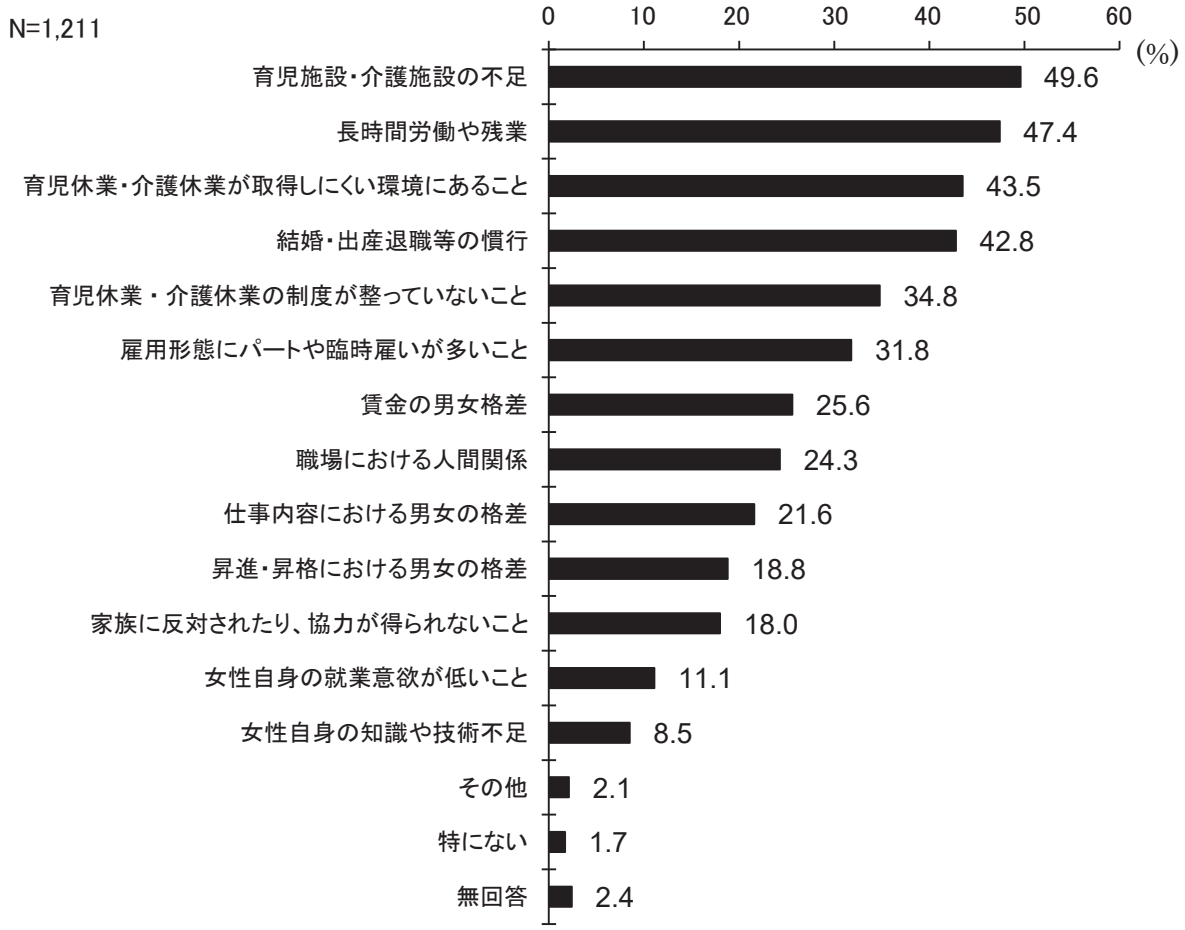
問 15　あなたは、女性が継続して働く上での障害は何だと思いますか。（あてはまるもの全てに〇）

## 施設、長時間労働等、環境、慣行など要因は様々。

「育児施設・介護施設の不足」が 49.6%で最も高かった。「長時間労働や残業」（47.4%）、「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」（43.5%）、「結婚・出産退職等の慣行」（42.8%）も回答割合が 40%を超えており、多様な要因が、女性が継続して働く上での障害となっている。

育児休業・介護休業に関しては、「制度が整っていない」は 34.8%と「取得しにくい環境」が 43.5%、「施設の不足」が 49.6%となっており、制度が整っていても、取得しにくい環境や、施設の不足が仕事継続の障害になっていることがうかがえる。

性別でみると、女性の方が 5 ポイント以上高かった項目は、「長時間労働や残業」、「雇用形態にパートや臨時雇いが多いこと」、「育児施設・介護施設の不足」、「職場における人間関係」、「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」、「家族に反対されたり、協力が得られないこと」だった。男性の方が 5 ポイント以上高かったのは「仕事内容における男女の格差」だけだった。



## 【性別、年齢別】

| | n | 結婚・出産退職等の慣行 | 賃金の男女格差 | 昇進・昇格における男女の格差 | 仕事内容における男女の格差 | 長時間労働や残業 | 雇用形態にパートや臨時雇いが多いこと | 育児施設・介護施設の不足 | 職場における人間関係 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 682 | 43.1 | 25.5 | 17.9 | 18.3 | 54.4 | 34.3 | 55.0 | 28.9 |
| ２０歳代以下 | 65 | 55.4 | 27.7 | 32.3 | 20.0 | 49.2 | 30.8 | 63.1 | 29.2 |
| ３０歳代 | 103 | 50.5 | 26.2 | 18.4 | 9.7 | 65.0 | 27.2 | 62.1 | 30.1 |
| ４０歳代 | 111 | 37.8 | 29.7 | 21.6 | 18.0 | 53.2 | 39.6 | 53.2 | 27.9 |
| ５０歳代 | 108 | 50.0 | 23.1 | 26.9 | 23.1 | 57.4 | 37.0 | 62.0 | 31.5 |
| ６０歳代 | 159 | 41.5 | 27.7 | 9.4 | 22.0 | 54.1 | 40.3 | 57.2 | 30.8 |
| ７０歳代以上 | 133 | 30.8 | 18.8 | 9.8 | 15.0 | 46.6 | 27.8 | 38.3 | 24.1 |
| 男性 | 509 | 43.0 | 25.7 | 20.2 | 25.7 | 38.7 | 28.9 | 42.8 | 18.1 |
| ２０歳代以下 | 50 | 62.0 | 24.0 | 24.0 | 22.0 | 36.0 | 18.0 | 38.0 | 28.0 |
| ３０歳代 | 47 | 42.6 | 25.5 | 27.7 | 34.0 | 29.8 | 17.0 | 53.2 | 17.0 |
| ４０歳代 | 80 | 41.3 | 26.3 | 15.0 | 23.8 | 46.3 | 31.3 | 33.8 | 17.5 |
| ５０歳代 | 89 | 46.1 | 23.6 | 23.6 | 23.6 | 44.9 | 27.0 | 46.1 | 9.0 |
| ６０歳代 | 145 | 41.4 | 28.3 | 22.8 | 28.3 | 38.6 | 31.7 | 46.9 | 24.8 |
| ７０歳代以上 | 96 | 34.4 | 24.0 | 12.5 | 22.9 | 33.3 | 36.5 | 38.5 | 12.5 |

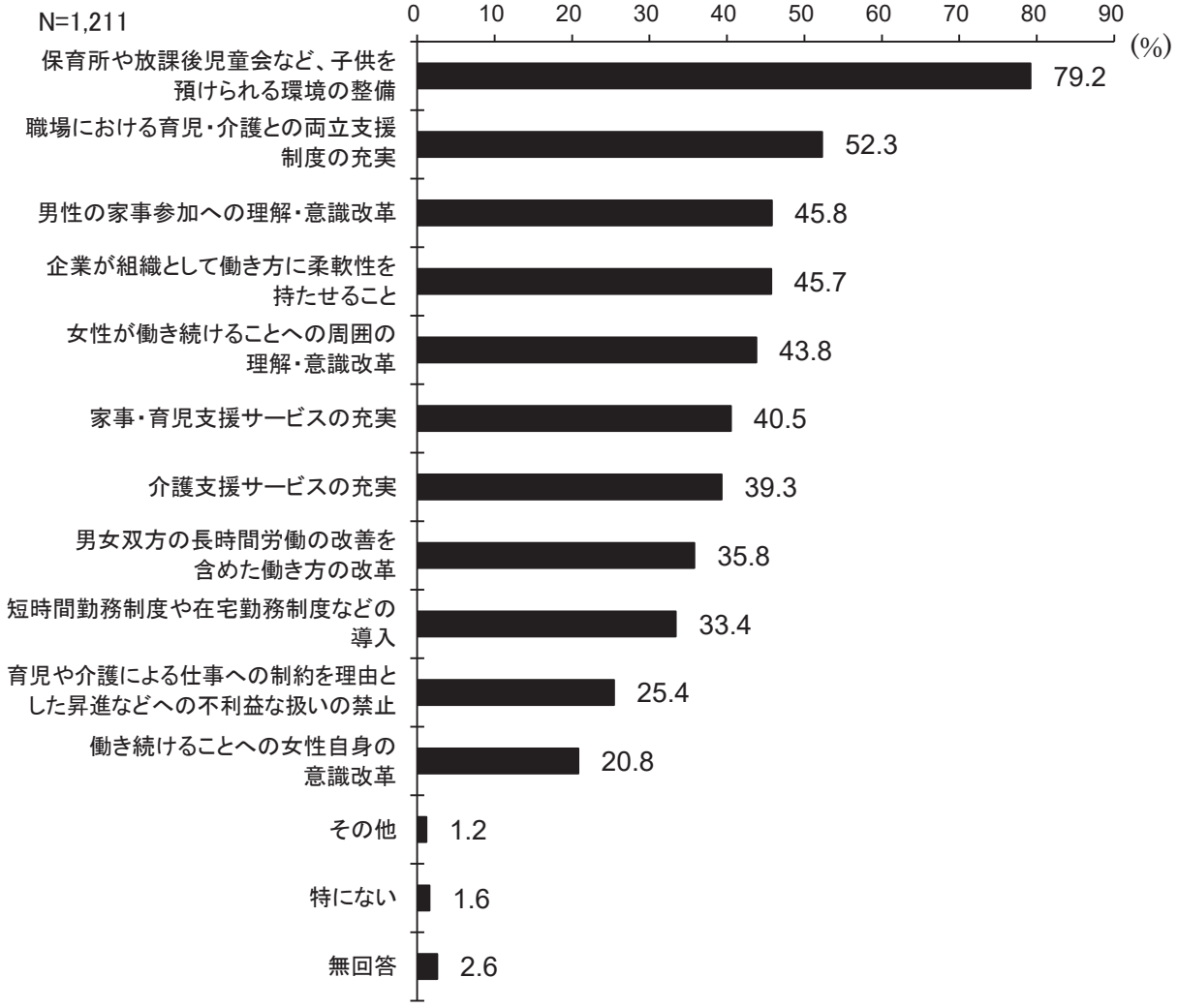
| | n | 育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること | 育児休業・介護休業の制度が整っていないこと | 家族に反対されたり、協力が得られないこと | 女性自身の就業意欲が低いこと | 女性自身の知識や技術不足 | その他 | 特にない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 682 | 46.5 | 37.7 | 22.9 | 9.4 | 9.2 | 2.1 | 1.0 | 1.9 |
| ２０歳代以下 | 65 | 55.4 | 40.0 | 10.8 | 10.8 | 3.1 | 1.5 | - | - |
| ３０歳代 | 103 | 51.5 | 38.8 | 16.5 | 10.7 | 13.6 | 6.8 | 1.0 | - |
| ４０歳代 | 111 | 47.7 | 24.3 | 27.0 | 7.2 | 9.9 | 1.8 | - | - |
| ５０歳代 | 108 | 47.2 | 44.4 | 28.7 | 4.6 | 5.6 | - | 0.9 | 0.9 |
| ６０歳代 | 159 | 45.9 | 44.0 | 26.4 | 10.7 | 10.7 | 2.5 | 0.6 | 1.3 |
| ７０歳代以上 | 133 | 37.6 | 33.8 | 19.5 | 11.3 | 9.0 | - | 3.0 | 7.5 |
| 男性 | 509 | 40.9 | 31.0 | 12.2 | 13.8 | 7.7 | 2.4 | 2.6 | 2.2 |
| ２０歳代以下 | 50 | 32.0 | 32.0 | 10.0 | 10.0 | 8.0 | 2.0 | 6.0 | - |
| ３０歳代 | 47 | 55.3 | 38.3 | 17.0 | 19.1 | 12.8 | 8.5 | 4.3 | - |
| ４０歳代 | 80 | 38.8 | 22.5 | 16.3 | 16.3 | 7.5 | 1.3 | 3.8 | - |
| ５０歳代 | 89 | 40.4 | 23.6 | 15.7 | 11.2 | 9.0 | 2.2 | 2.2 | - |
| ６０歳代 | 145 | 45.5 | 40.0 | 8.3 | 13.8 | 5.5 | 0.7 | 0.7 | 4.1 |
| ７０歳代以上 | 96 | 34.4 | 28.1 | 10.4 | 12.5 | 7.3 | 3.1 | 2.1 | 4.2 |

問 16　あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（あてはまるもの全てに〇）

約 8 割が子供を預けられる環境の整備が必要と回答。

「保育所や放課後児童会など、子供を預けられる環境の整備」が 79.2%と他の項目を引き離し高かった。2 番目に高かったのは「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の 52.3%だった。その他、回答割合 4 割台が 4 項目、3 割台が 3 項目あり、必要と思われている対策は多種多様となっている。

性別でみると、「その他」、「特にない」を除いた全ての項目で、女性の回答割合が高かった。これは選択した項目数の平均が女性 5.0 件、男性 4.2 件と女性の方が多いためであり、選択項目数の差からも男女の意識の差が読み取れる。



## 【性別、年齢別】

| | n | 保育所や放課後児童会など、子供を預けられる環境の整備 | 家事・育児支援サービスの充実 | 介護支援サービスの充実 | 男性の家事参加への理解・意識改革 | 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革 | 働き続けることへの女性自身の意識改革 | 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 682 | 82.7 | 42.7 | 41.3 | 52.5 | 47.7 | 22.9 | 38.0 |
| ２０歳代以下 | 65 | 81.5 | 40.0 | 36.9 | 55.4 | 55.4 | 15.4 | 43.1 |
| ３０歳代 | 103 | 90.3 | 54.4 | 34.0 | 53.4 | 42.7 | 19.4 | 48.5 |
| ４０歳代 | 111 | 86.5 | 46.8 | 39.6 | 55.0 | 52.3 | 26.1 | 37.8 |
| ５０歳代 | 108 | 85.2 | 45.4 | 48.1 | 61.1 | 51.9 | 25.0 | 35.2 |
| ６０歳代 | 159 | 89.9 | 42.1 | 52.8 | 54.1 | 46.5 | 25.8 | 40.9 |
| ７０歳代以上 | 133 | 63.2 | 30.1 | 30.8 | 39.1 | 41.4 | 21.1 | 26.3 |
| 男性 | 509 | 74.9 | 38.1 | 36.3 | 37.5 | 38.7 | 18.3 | 33.0 |
| ２０歳代以下 | 50 | 66.0 | 44.0 | 24.0 | 48.0 | 36.0 | 14.0 | 44.0 |
| ３０歳代 | 47 | 85.1 | 48.9 | 36.2 | 46.8 | 42.6 | 17.0 | 40.4 |
| ４０歳代 | 80 | 82.5 | 36.3 | 36.3 | 35.0 | 43.8 | 15.0 | 32.5 |
| ５０歳代 | 89 | 76.4 | 39.3 | 36.0 | 39.3 | 46.1 | 20.2 | 25.8 |
| ６０歳代 | 145 | 77.9 | 37.9 | 44.8 | 40.7 | 39.3 | 20.0 | 39.3 |
| ７０歳代以上 | 96 | 62.5 | 30.2 | 31.3 | 22.9 | 26.0 | 19.8 | 21.9 |

| | n | 職場における育児・介護との両立支援制度の充実 | 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入 | 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な扱いの禁止 | 企業が組織として働き方に柔軟性を持たせること | その他 | 特にない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 682 | 56.6 | 38.6 | 26.4 | 47.9 | 1.2 | 0.9 | 2.1 |
| ２０歳代以下 | 65 | 63.1 | 43.1 | 35.4 | 43.1 | - | 1.5 | - |
| ３０歳代 | 103 | 62.1 | 52.4 | 35.0 | 59.2 | 1.0 | 1.0 | - |
| ４０歳代 | 111 | 55.9 | 38.7 | 27.0 | 51.4 | 2.7 | - | - |
| ５０歳代 | 108 | 65.7 | 42.6 | 27.8 | 48.1 | 1.9 | - | 0.9 |
| ６０歳代 | 159 | 57.9 | 35.8 | 21.4 | 47.2 | 0.6 | - | 0.6 |
| ７０歳代以上 | 133 | 41.4 | 25.6 | 19.5 | 39.1 | 0.8 | 3.0 | 9.0 |
| 男性 | 509 | 47.0 | 26.5 | 24.0 | 42.4 | 1.4 | 2.4 | 2.8 |
| ２０歳代以下 | 50 | 42.0 | 30.0 | 28.0 | 32.0 | - | 8.0 | - |
| ３０歳代 | 47 | 57.4 | 40.4 | 25.5 | 55.3 | - | 2.1 | 4.3 |
| ４０歳代 | 80 | 37.5 | 25.0 | 27.5 | 45.0 | - | 2.5 | - |
| ５０歳代 | 89 | 52.8 | 36.0 | 27.0 | 42.7 | 1.1 | 3.4 | 1.1 |
| ６０歳代 | 145 | 53.1 | 26.2 | 22.1 | 41.4 | 0.7 | - | 4.1 |
| ７０歳代以上 | 96 | 38.5 | 11.5 | 18.8 | 40.6 | 5.2 | 2.1 | 4.2 |

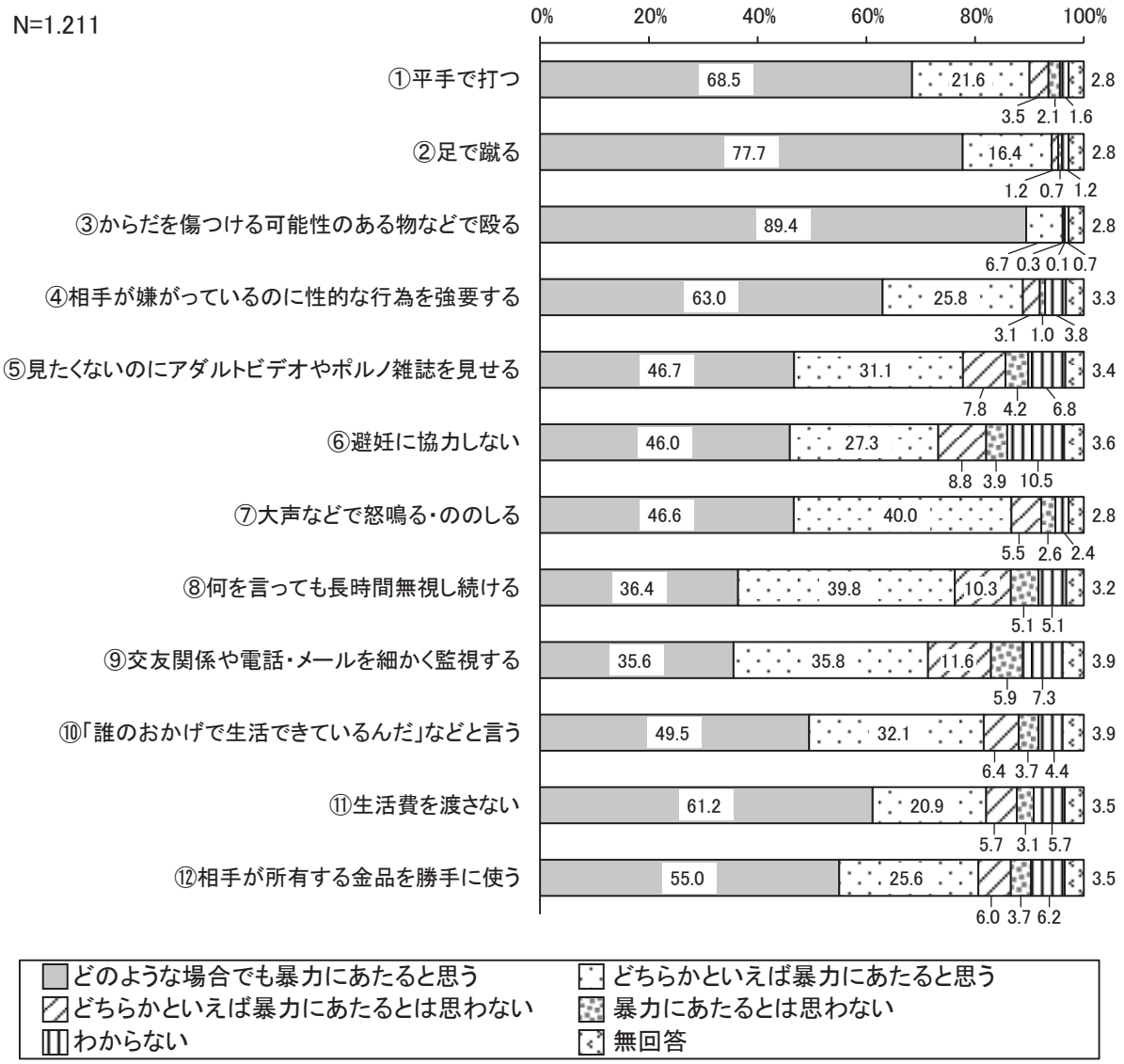
■男女間の暴力について

問 17　あなたは、次のようなことが配偶者やパートナーなどから行われた場合、暴力だと思いますか。あなたの考えに近いもの１つに○をつけてください。

全ての項目が『暴力にあたると思う』の割合が半数を超える。

全ての項目で、「どのような場合でも暴力にあたると思う」と「どちらかといえば暴力にあたると思う」を合わせた『暴力にあたる思う』の割合が半数を超えた。

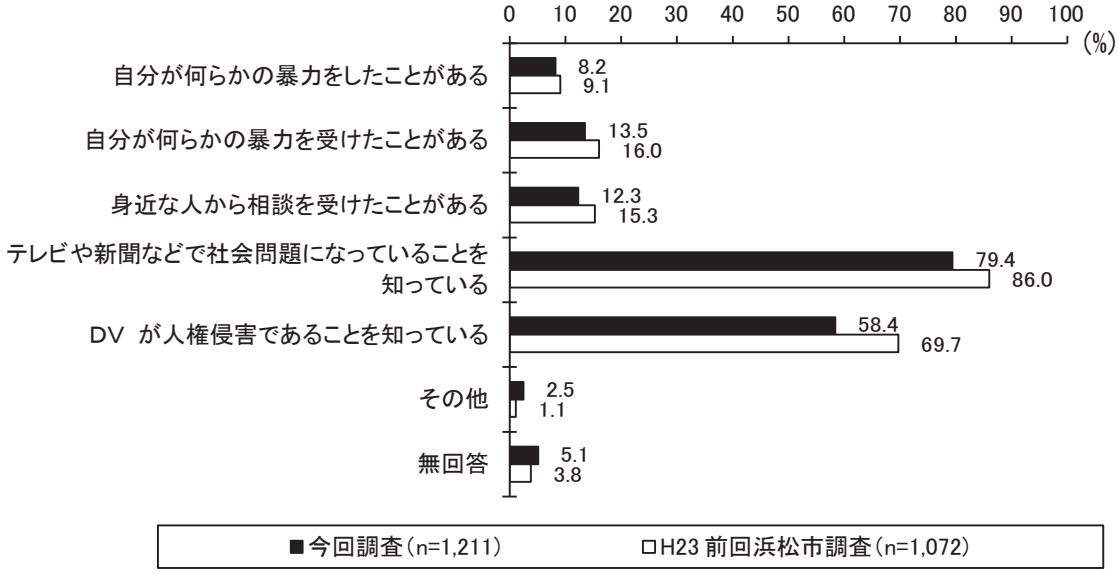
「どのような場合でも暴力にあたると思う」の割合が最も高かったのは、「③からだを傷つける可能性のある物などで殴る」の 89.4%。次いで、「②足で蹴る」(77.7%)、「①平手で打つ」(68.5%)の順に高く、身体に直接危害を加える項目が上位を占めた。



問 18-1　配偶者やパートナーなどからの身体的、精神的、経済的、性的な暴力（ドメスティック・バイオレンス＝ＤＶ）について、あなたの経験や知識としてあてはまるものはどれですか。（あてはまるもの全てに○）

**知識はあるが経験のある人は少ない。**

「テレビや新聞などで社会問題になっていることを知っている」は 79.4%と高いが、「自分が何らかの暴力をしたことがある」は 8.2%、「自分が何らかの暴力を受けたことがある」は 13.5%と低かった。前回調査と比較すると、「その他」を除くすべての項目で回答割合が低下している。

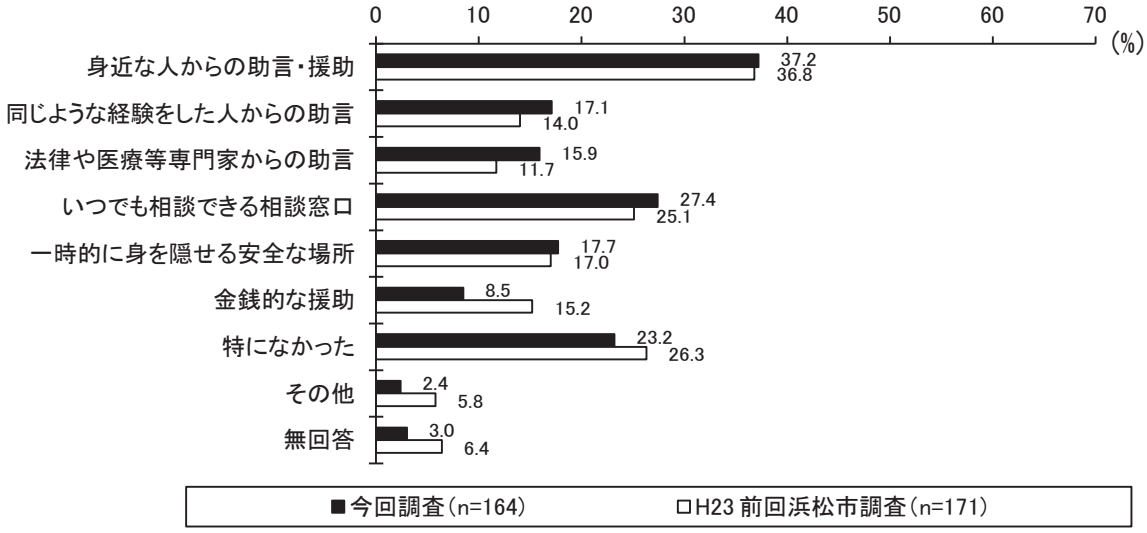



※ 資料：H23 前回浜松市調査：「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

問 18-2　問 18-1 で「2　自分が何らかの暴力を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。あなたは、そのときどのような助けがあればよいと思いましたか。（3つまでに○）

**「身近な人からの助言・援助」が最も多い。**

「自分が何らかの暴力を受けたことがある」と答えた 164 人のうち、「身近な人からの助言・援助」が 37.2%で最も高かった。「特になかった」は 23.2%で 3 番目に高かった。前回調査と比較すると、「金銭的な援助」の割合が低下した。



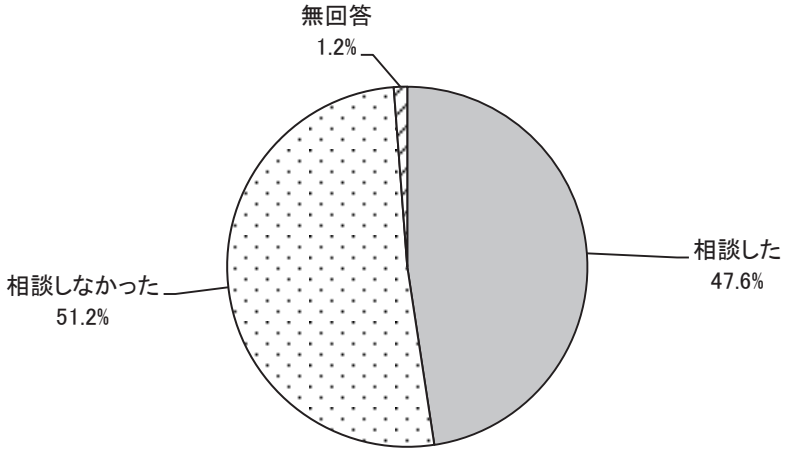

※ 資料：H23 前回浜松市調査：「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

問 18-3　問 18−1 で「２　自分が何らかの暴力を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。あなたは、配偶者やパートナーなどから受けた暴力について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

「相談しなかった」が「相談した」を上回る。

「相談しなかった」が 51.2%と半数を超え、「相談した」の 47.6%を 3.6 ポイント上回った。

N=164

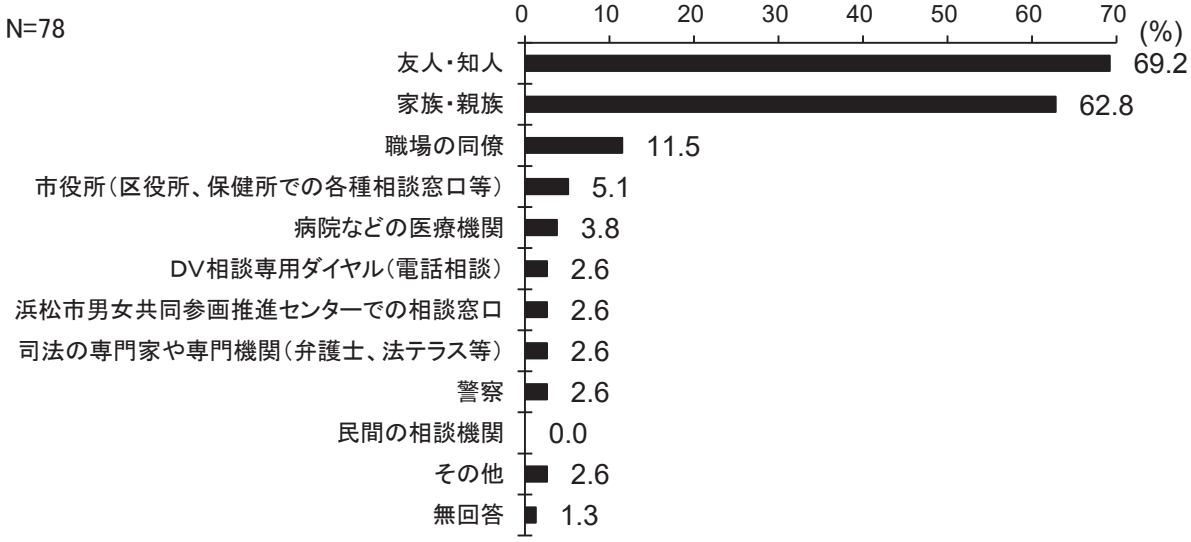



問 18-4　問 18-3 で「１　相談した」と答えた方にお聞きします。だれに相談しましたか。（あてはまるもの全てに〇）

身の回りの人への相談が多く、公的機関等への相談はほとんどない。

「相談した」と答えた 78 人のうち、「友人・知人」が 69.2%で最も高く、次いで「家族・親族」が 62.8%で多かった。「市役所」、「浜松市男女共同参画推進センター」等の公的機関への相談はいずれも少数だった。

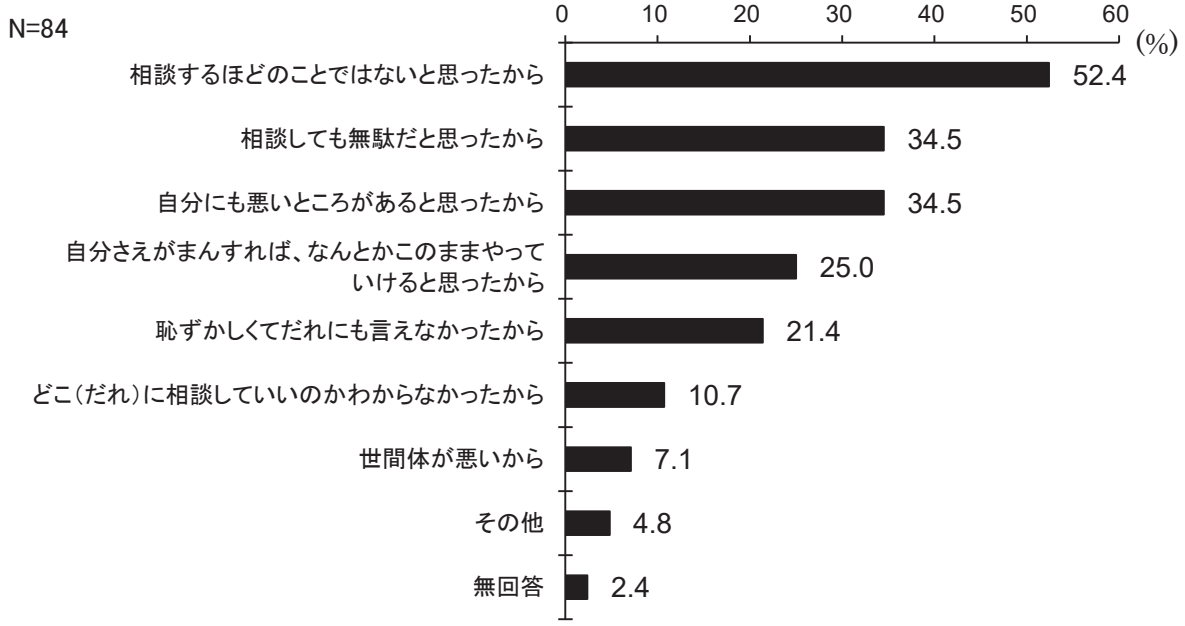
N=78



問 18-5　問 18-3 で「２　相談しなかった」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

「相談するほどのことでないと思ったから」が半数を超える。

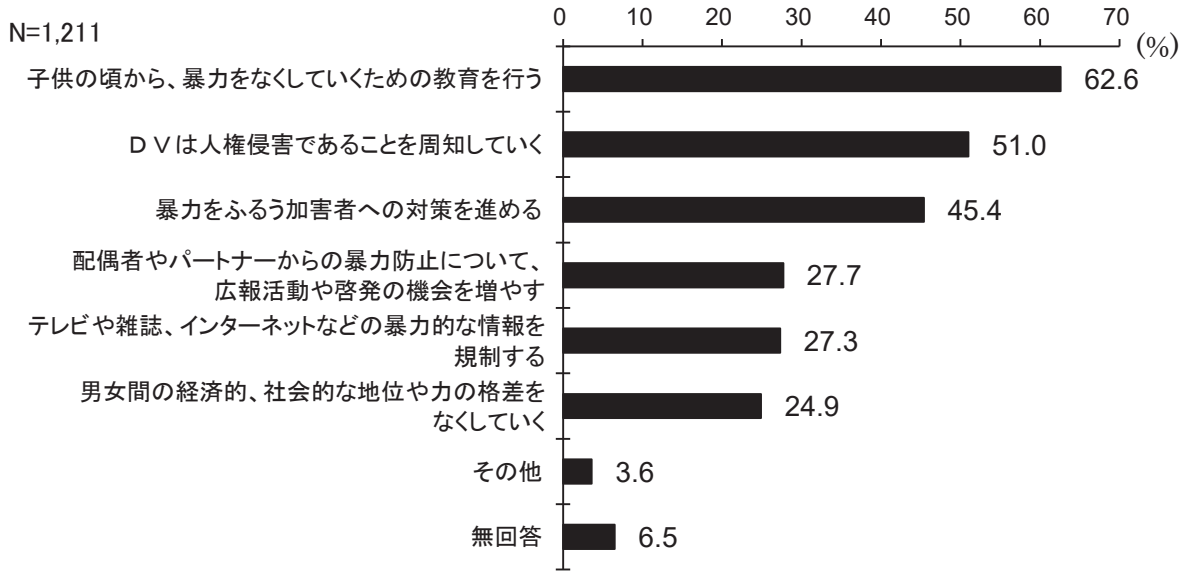
「相談しなかった」と答えた 84 人のうち、「相談するほどのことではないと思ったから」が 52.4%で最も高かった。次いで、「相談しても無駄だと思ったから」と「自分にも悪いところがあると思ったから」が 34.5%で高かった。「どこ（だれ）に相談していいのかわからなかったから」は 10.7%だった。




問 19　配偶者やパートナーなどからの暴力をなくすためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

子供の頃からの教育が必要。

「子供の頃から、暴力をなくしていくための教育を行う」が 62.6%で最も高かった。



■男女共同参画の推進拠点について

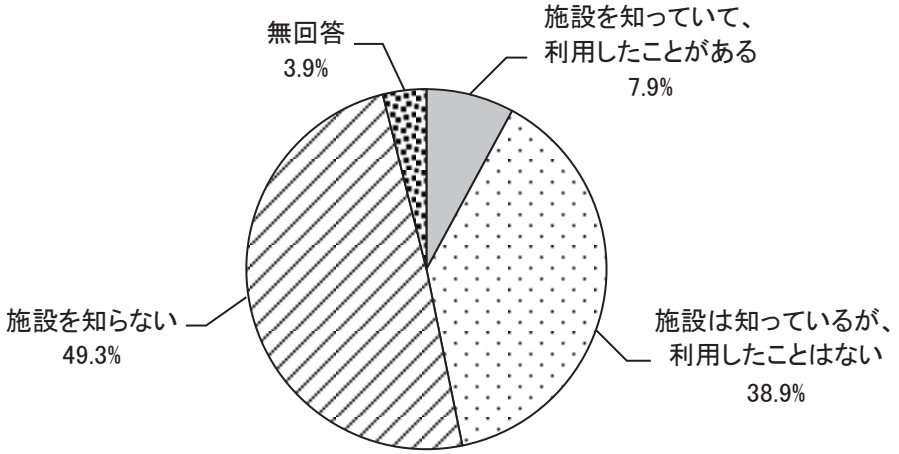
問 20　あなたは、男女共同参画の推進拠点施設である「浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター（あいホール）」を利用したことがありますか。（１つに○）

約半数の人が、あいホールを「知らない」と回答。

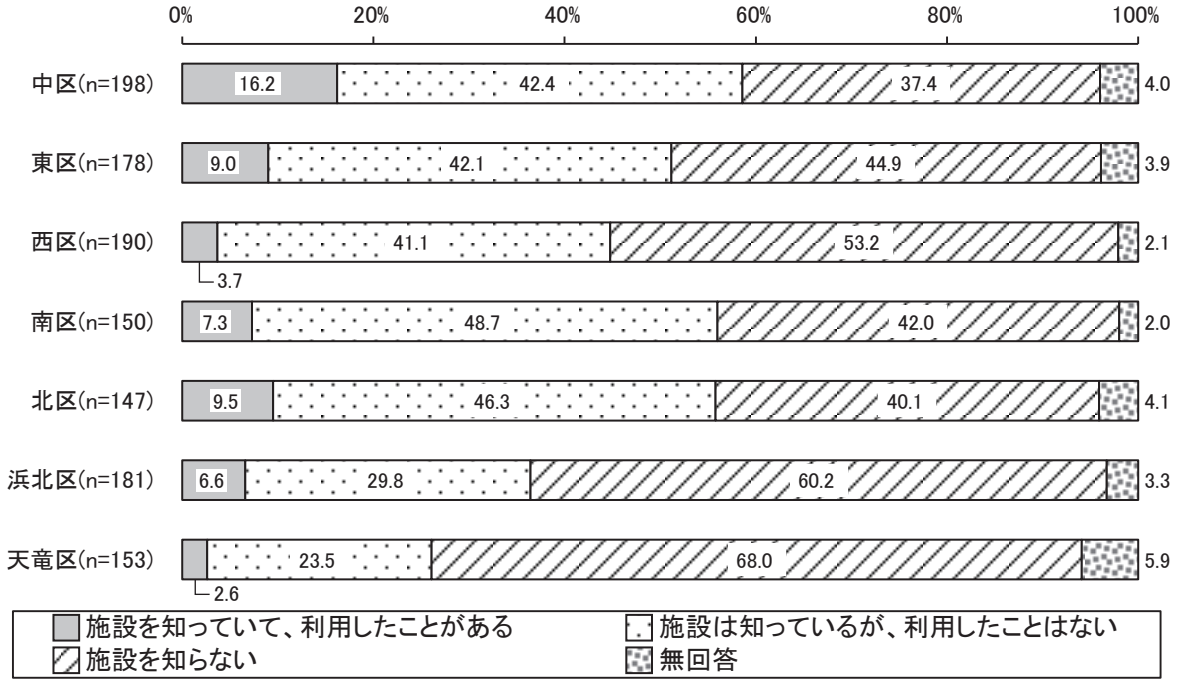
「施設を知らない」が 49.3%と約半数を占めた。「施設を知っていて、利用したことがある」は 7.9%にとどまり、「施設は知っているが、利用したことはない」（38.9%）と合わせた『認知度』は 46.8%となった。

居住区別でみると、『認知度』が最も高いのは中区（58.6%）で、東区（51.1%）、南区（56.0%）、北区（55.8%）も半数を超えた。最も低いのは天竜区（26.1%）で、次いで浜北区（36.4%）が低かった。

N=1,211



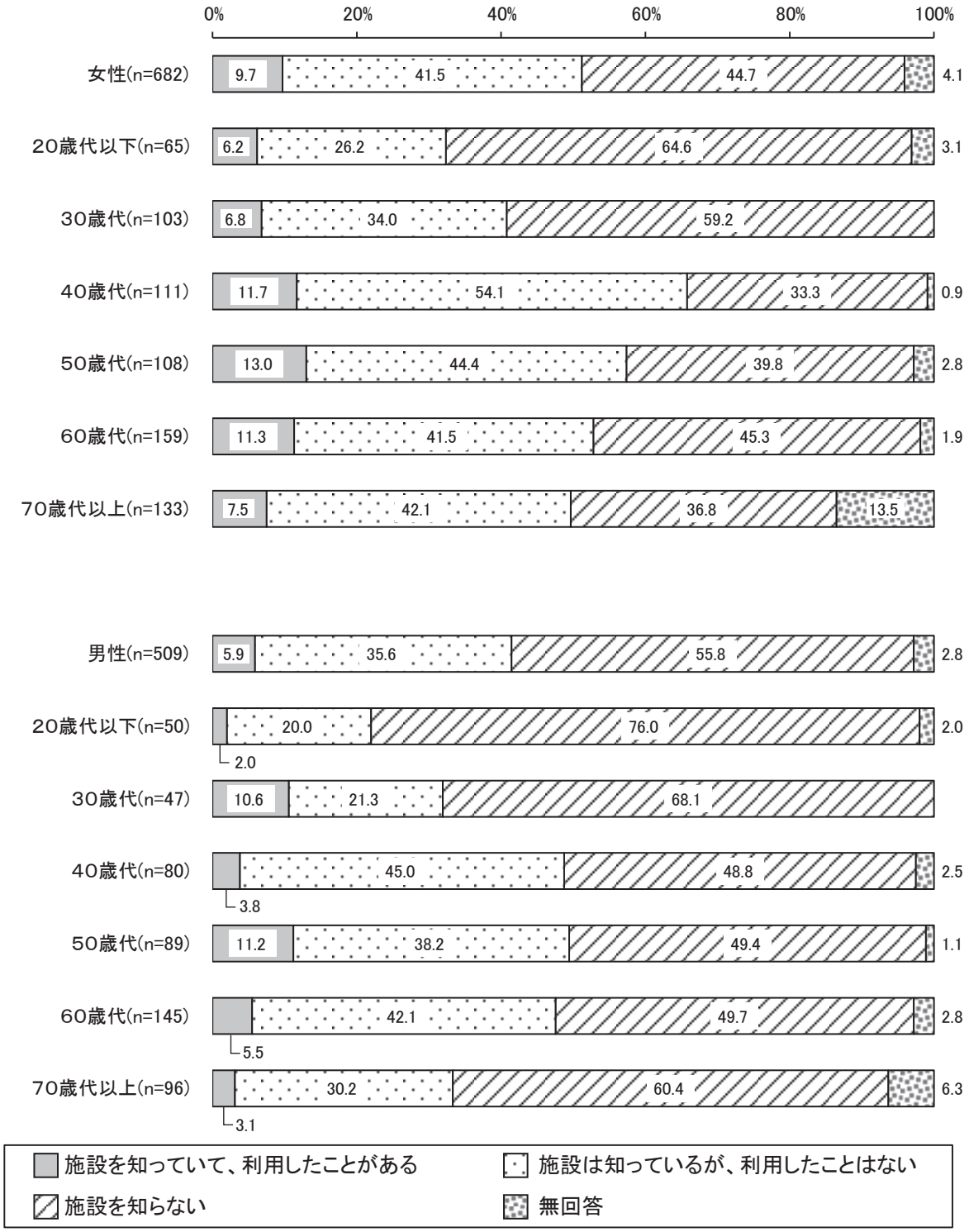

【居住区別】



性別でみると、『認知度』は女性 51.2%、男性 41.5%と女性の方が 9.7 ポイント高かった。

年代別でみると、男女とも 20 歳代以下～30 歳代の『認知度』が低かった。『認知度』が最も高いのは、女性は 40 歳代、男性は 50 歳代だった。

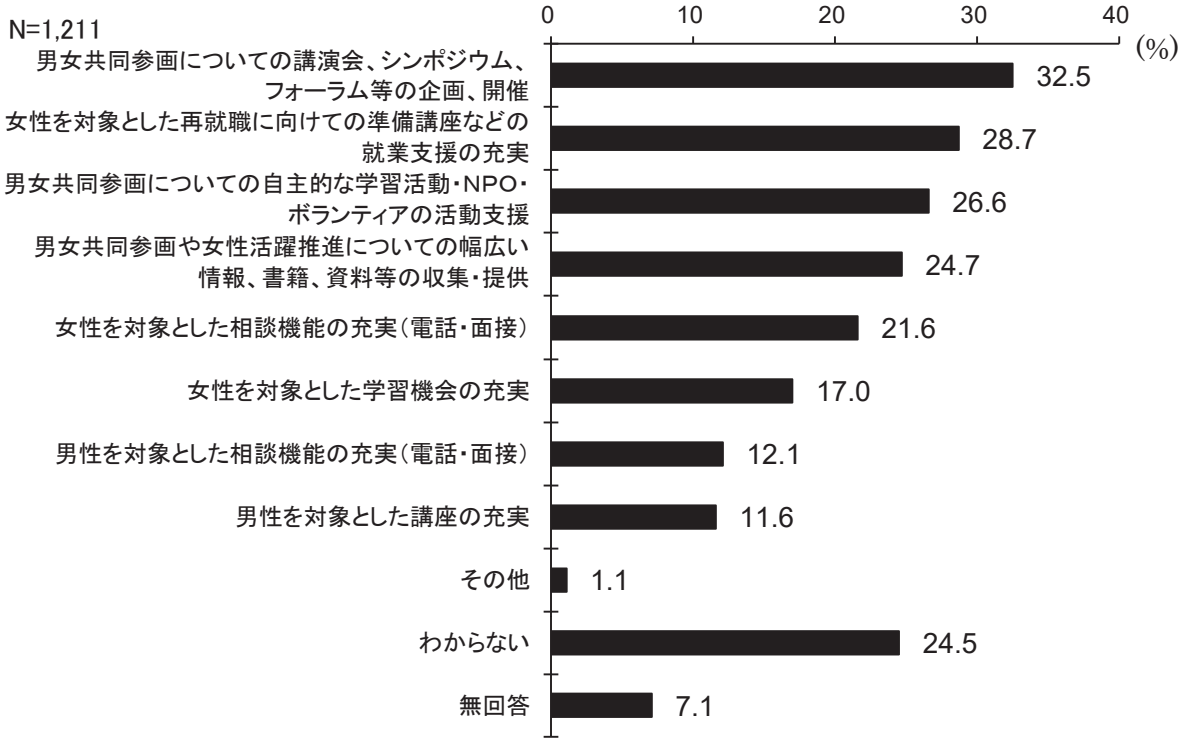
【性別、年齢別】



問 21　「あいホール」では次のような男女共同参画に関する業務を行っていますが、どのような役割を期待しますか。（あてはまるもの全てに○）

講演会、就業支援、相談、情報提供など多様な業務を期待している。

「男女共同参画についての講演会、シンポジウム、フォーラム等の企画、開催」が 32.5%で最も高かったが、回答が分散しており、講演会、就業支援、相談、情報提供など多様な業務を期待していることがうかがえる。




【性別、年齢別】

| | n | 女性を対象とした学習機会の充実 | 女性を対象とした再就職に向けての準備講座などの就業支援の充実 | 男性を対象とした講座の充実 | 男女共同参画についての講演会、シンポジウム、フォーラム等の企画、開催 | 女性を対象とした相談機能の充実（電話・面接） | 男性を対象とした相談機能の充実（電話・面接） | 男女共同参画についての自主的な学習活動・NPO・ボランティアの活動支援 | 男女共同参画や女性活躍推進についての幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供 | その他 | わからない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 682 | 21.4 | 34.8 | 10.6 | 26.2 | 25.2 | 12.0 | 24.9 | 24.2 | 1.0 | 23.5 | 7.6 |
| 20歳代以下 | 65 | 6.2 | 36.9 | 7.7 | 7.7 | 36.9 | 20.0 | 12.3 | 12.3 | - | 35.4 | 3.1 |
| 30歳代 | 103 | 28.2 | 47.6 | 13.6 | 18.4 | 28.2 | 15.5 | 20.4 | 26.2 | 3.9 | 21.4 | 1.0 |
| 40歳代 | 111 | 21.6 | 49.5 | 8.1 | 24.3 | 33.3 | 11.7 | 19.8 | 23.4 | 1.8 | 20.7 | 2.7 |
| 50歳代 | 108 | 27.8 | 37.0 | 17.6 | 28.7 | 25.0 | 13.9 | 22.2 | 25.0 | 0.9 | 21.3 | 5.6 |
| 60歳代 | 159 | 22.0 | 27.0 | 9.4 | 37.1 | 23.3 | 11.3 | 37.1 | 28.9 | - | 24.5 | 6.9 |
| 70歳代以上 | 133 | 18.0 | 19.5 | 7.5 | 28.6 | 13.5 | 5.3 | 26.3 | 22.6 | - | 21.8 | 21.1 |
| 男性 | 509 | 11.6 | 20.8 | 13.2 | 40.7 | 16.9 | 12.2 | 28.9 | 25.3 | 1.2 | 26.1 | 5.7 |
| 20歳代以下 | 50 | 18.0 | 18.0 | 16.0 | 38.0 | 22.0 | 22.0 | 26.0 | 24.0 | - | 30.0 | 6.0 |
| 30歳代 | 47 | 10.6 | 29.8 | 14.9 | 27.7 | 19.1 | 17.0 | 17.0 | 21.3 | 2.1 | 34.0 | 2.1 |
| 40歳代 | 80 | 7.5 | 32.5 | 13.8 | 38.8 | 18.8 | 11.3 | 22.5 | 20.0 | 1.3 | 22.5 | 5.0 |
| 50歳代 | 89 | 16.9 | 25.8 | 13.5 | 40.4 | 24.7 | 15.7 | 38.2 | 27.0 | 2.2 | 19.1 | 4.5 |
| 60歳代 | 145 | 13.1 | 15.9 | 13.1 | 48.3 | 14.5 | 8.3 | 31.7 | 28.3 | - | 25.5 | 5.5 |
| 70歳代以上 | 96 | 5.2 | 11.5 | 10.4 | 39.6 | 8.3 | 8.3 | 28.1 | 26.0 | 2.1 | 30.2 | 9.4 |

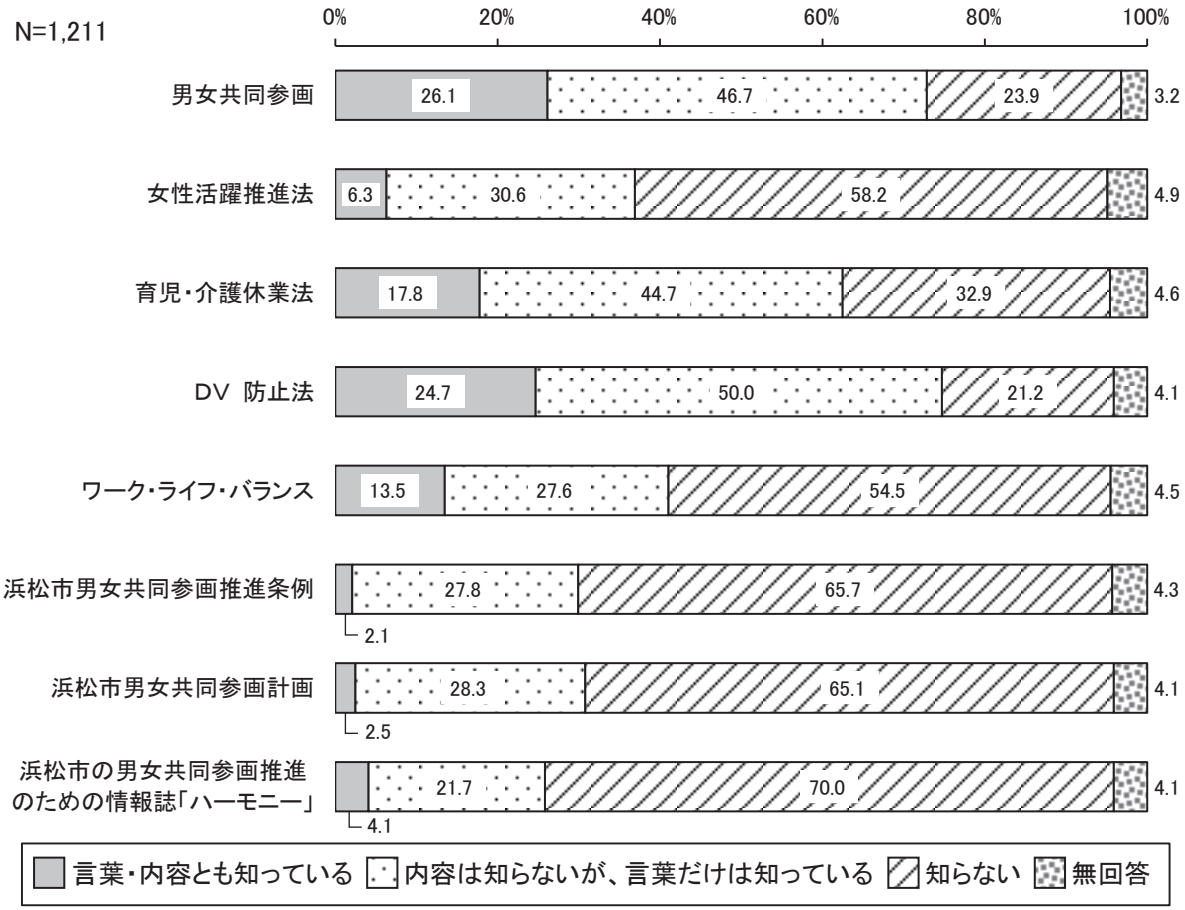
■男女共同参画に関する施策について

問 22　あなたは次の言葉を聞いたことがありますか。（それぞれ１つに○）

浜松市の施策に関する『認知度』は低い。

「言葉・内容とも知っている」の割合は、「男女共同参画」が 26.1%で最も高く、以下「DV 防止法」、「育児・介護休業法」、「ワーク・ライフ・バランス」の順に高かった。「浜松市男女共同参画推進条例」、「浜松市男女共同参画計画」、「浜松市の男女共同参画推進のための情報誌」はいずれも回答割合が 5%未満と低かった。

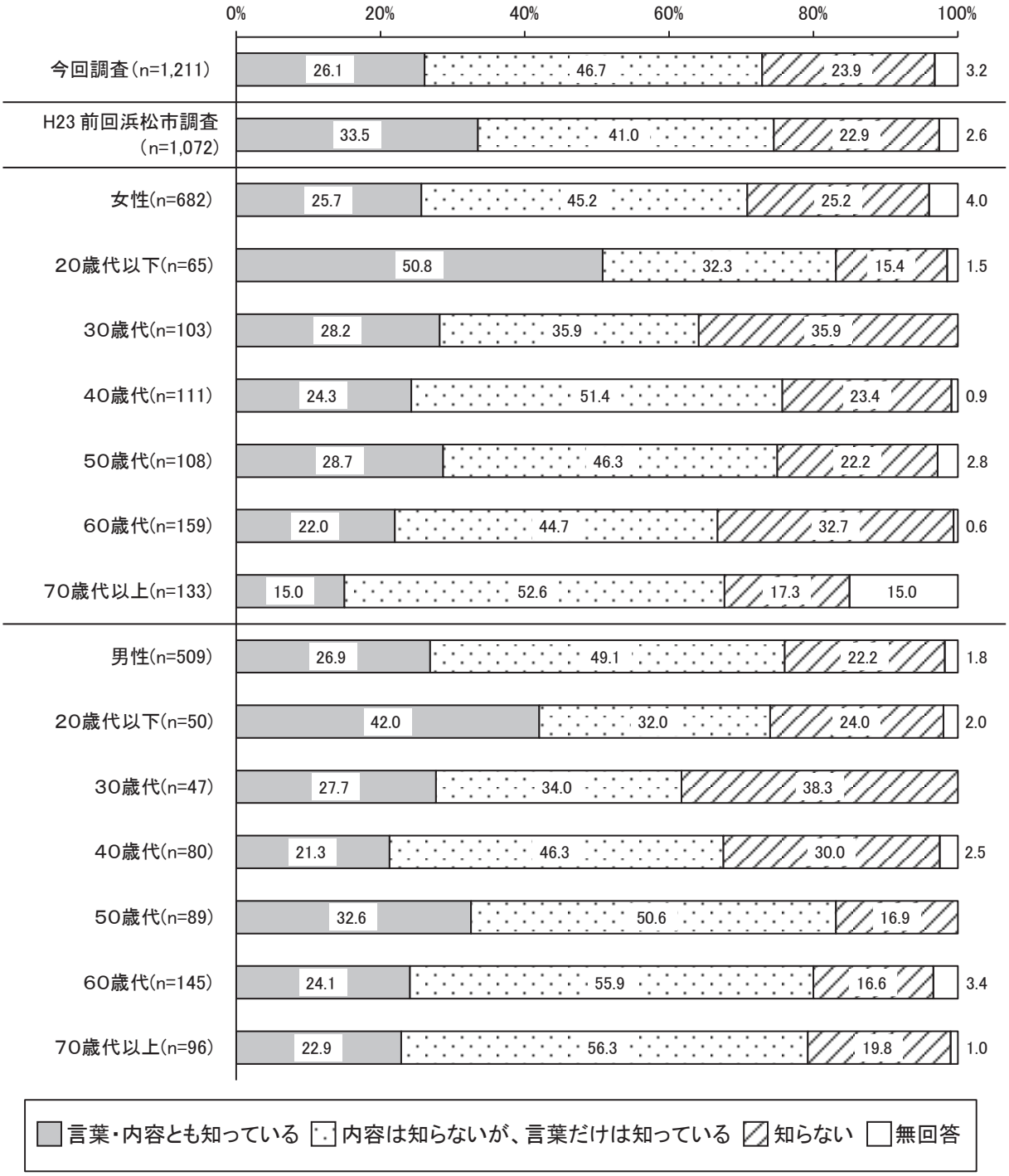
「言葉・内容とも知っている」と「内容は知らないが、言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』は、「DV 防止法」、「男女共同参画」、「育児・介護休業法」の順に高かった。「浜松市男女共同参画推進条例」、「浜松市男女共同参画計画」、「浜松市の男女共同参画推進のための情報誌」の『認知度』は約 3 割と低かった。



### 男女共同参画

「言葉・内容とも知っている」、「言葉・内容とも知っている」と「内容は知らないが言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』とも男性の方が高かった。年齢別でみると、「言葉・内容とも知っている」は男女とも 20 歳代以下が最も高かった。30 歳代は男女とも『認知度』が最も低かった。

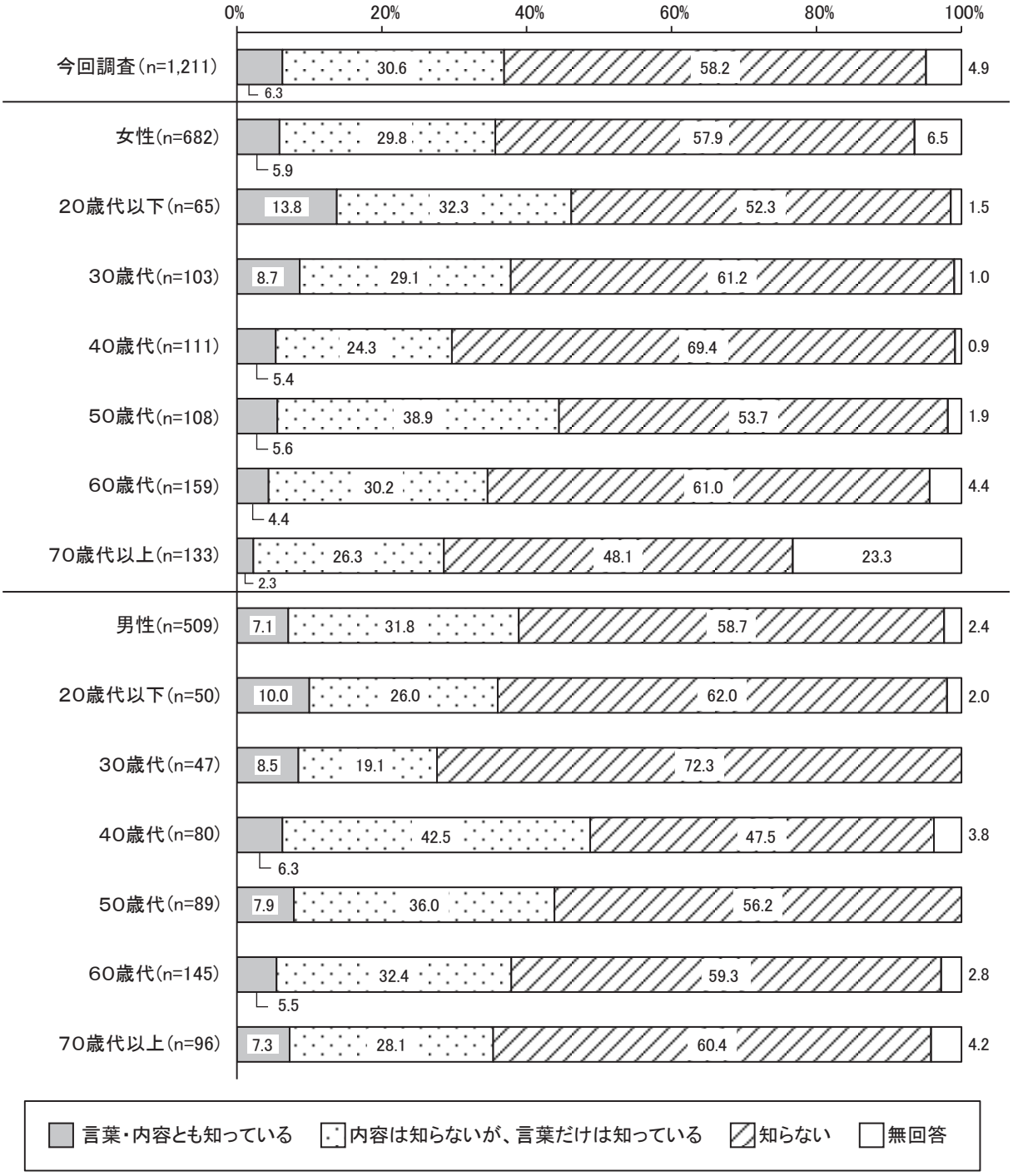
前回調査と比較すると、「言葉・内容とも知っている」が 7.4 ポイント低下した。




資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

### 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

「言葉・内容とも知っている」、「言葉・内容とも知っている」と「内容は知らないが言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』とも男性の方が高かった。年齢別でみると、「言葉・内容とも知っている」は男女とも20歳代以下が最も高く、次いで30歳代が高かった。女性の「言葉・内容とも知っている」は、概ね年齢が低いほど回答割合が高くなる傾向がみられた。

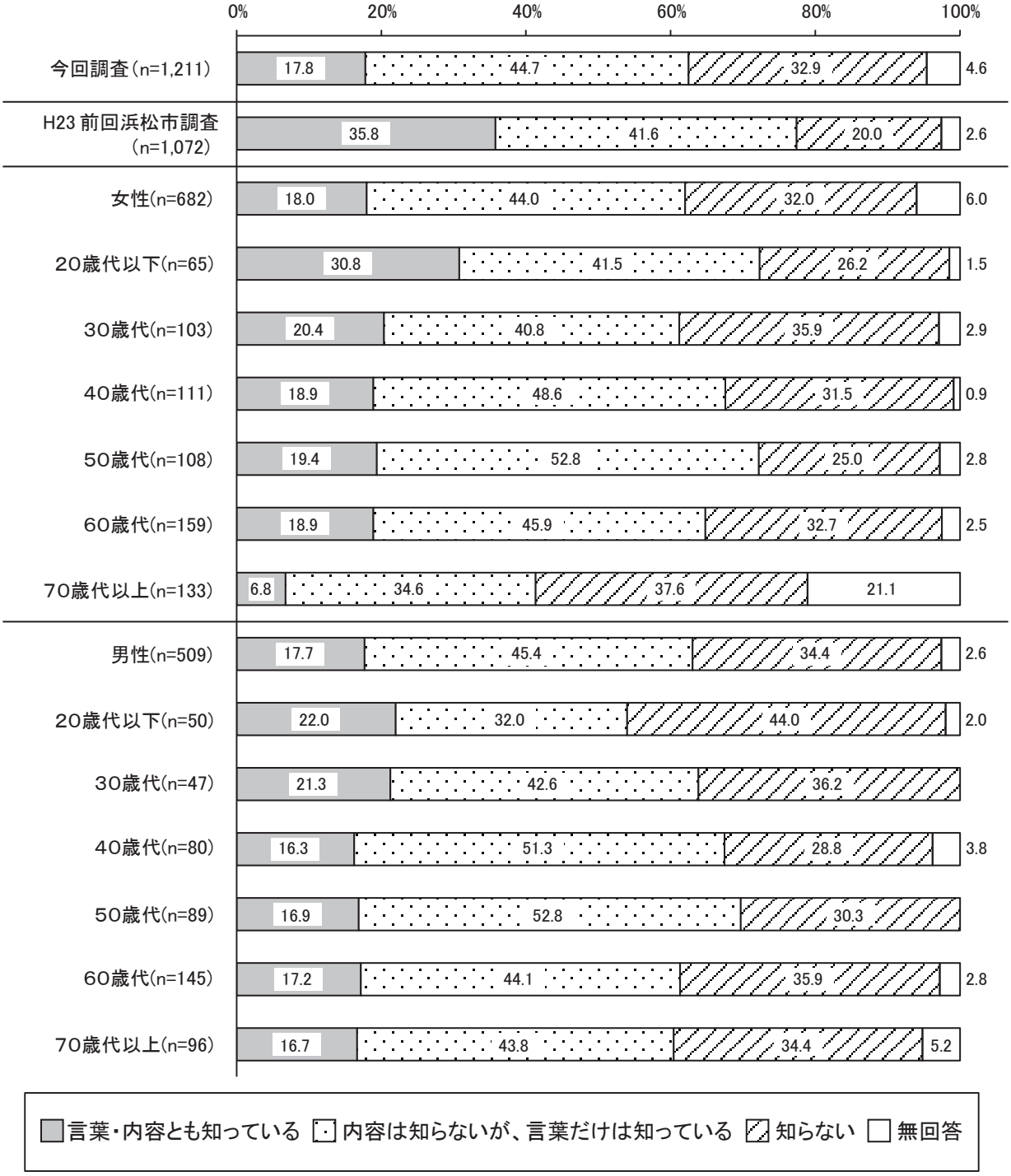



＊「女性活躍推進法」の回答は平成28年度のみ

育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法）

「言葉・内容とも知っている」、「言葉・内容とも知っている」と「内容は知らないが言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』とも性別による差はほとんどなかった。年齢別でみると、「言葉・内容とも知っている」は男女とも20歳代以下が最も高く、次いで30歳代が高かった。20歳代以下男性は、「知らない」の割合も高かった。

前回調査と比較すると、「言葉・内容とも知っている」は18.0ポイント低下、『認知度』は14.9ポイント低下した。

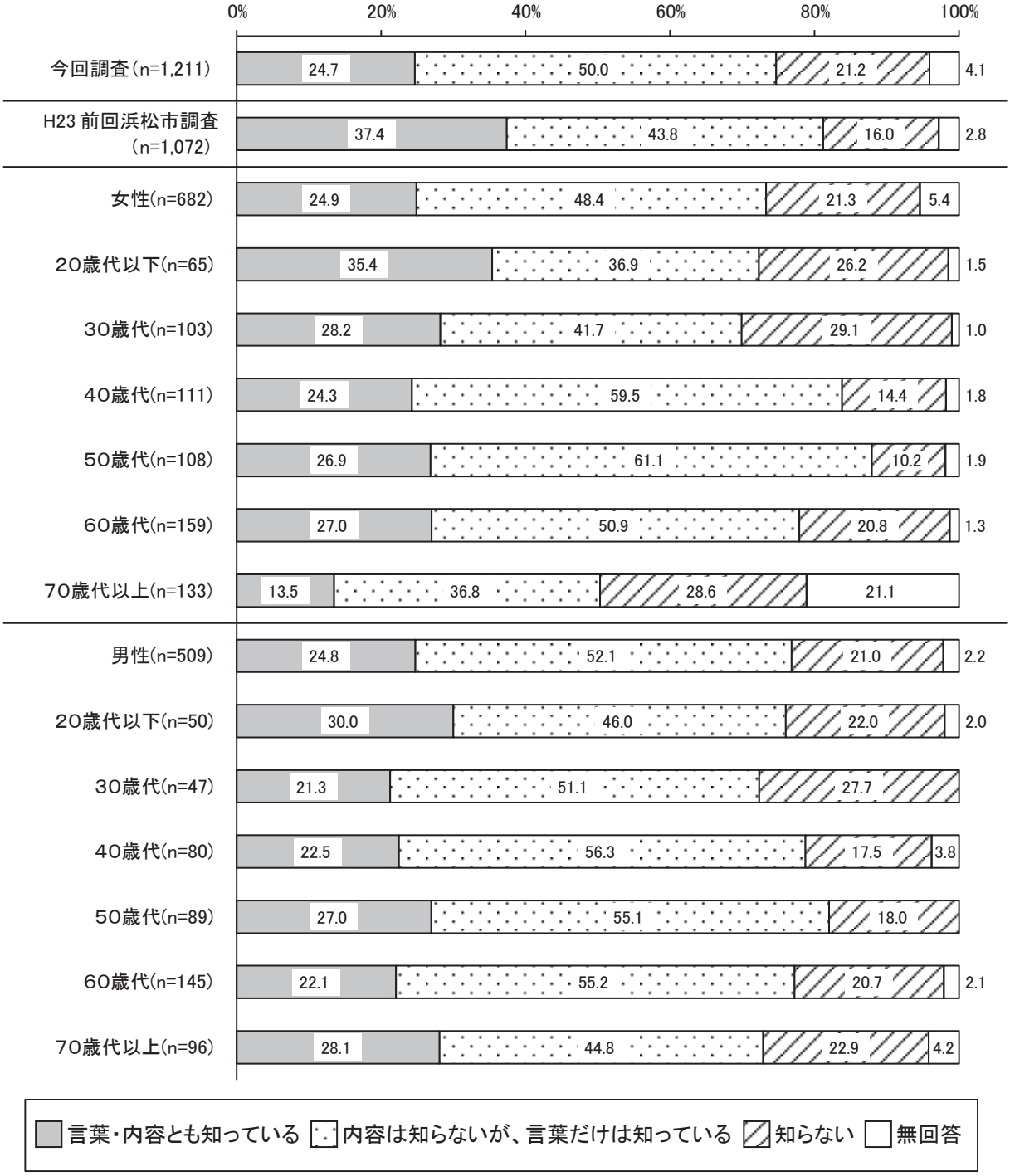



資料：H23前回浜松市調査「平成23年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

### 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（ＤＶ防止法）

「言葉･内容とも知っている」は性別による差がほとんどなかったが､「言葉･内容とも知っている」と「内容は知らないが言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』は男性の方が 3.6 ポイント高かった。年齢別でみると、「言葉・内容とも知っている」は男女とも 20 歳代以下が最も高かった。

前回調査と比較すると、「言葉・内容とも知っている」は 12.7 ポイント低下、『認知度』は 6.5 ポイント低下した。

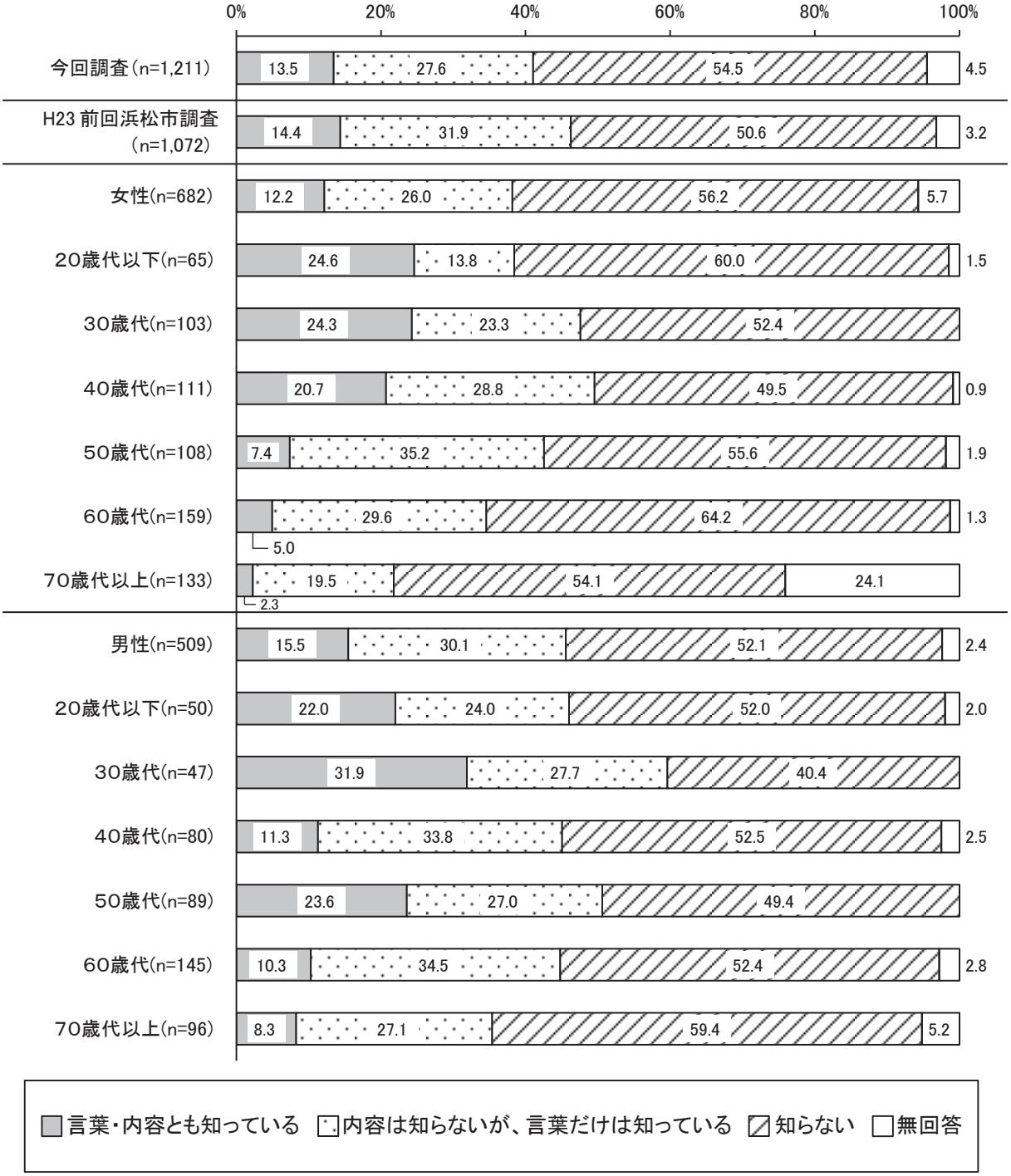



資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

## ワーク・ライフ・バランス

「言葉・内容とも知っている」、「言葉・内容とも知っている」と「内容は知らないが言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』とも男性の方が高かった。「言葉・内容とも知っている」の割合を年齢別でみると、女性は20歳代以下が最も高かった。年齢が低いほど回答割合が高まる傾向がみられ、20歳代以下～40歳代は20%を超えている一方、50歳代より上の年代は10%未満と世代間の差がみられた。男性は30歳代が最も高く、『認知度』も59.6%と高かった。

前回調査と比較すると、『認知度』は5.2ポイント低下した。

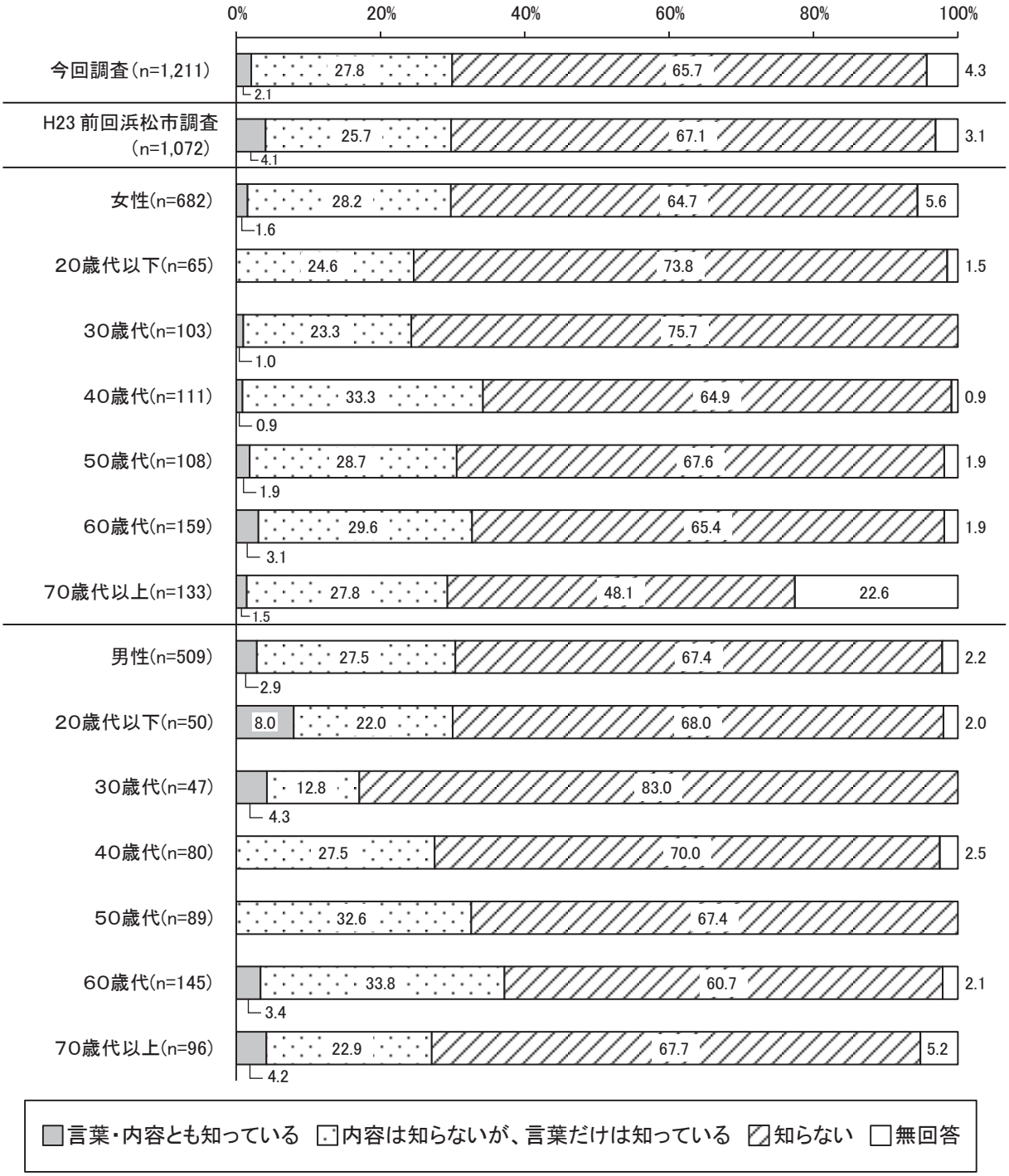



資料：H23前回浜松市調査「平成23年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

### 浜松市男女共同参画推進条例

「言葉・内容とも知っている」と「内容は知らないが言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』は性別による差がほとんどなかった。『認知度』を年齢別でみると、女性は 40 歳代が最も高く、30 歳代が最も低かった。男性は 60 歳代が最も高く、30 歳代が最も低かった。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられなかった。

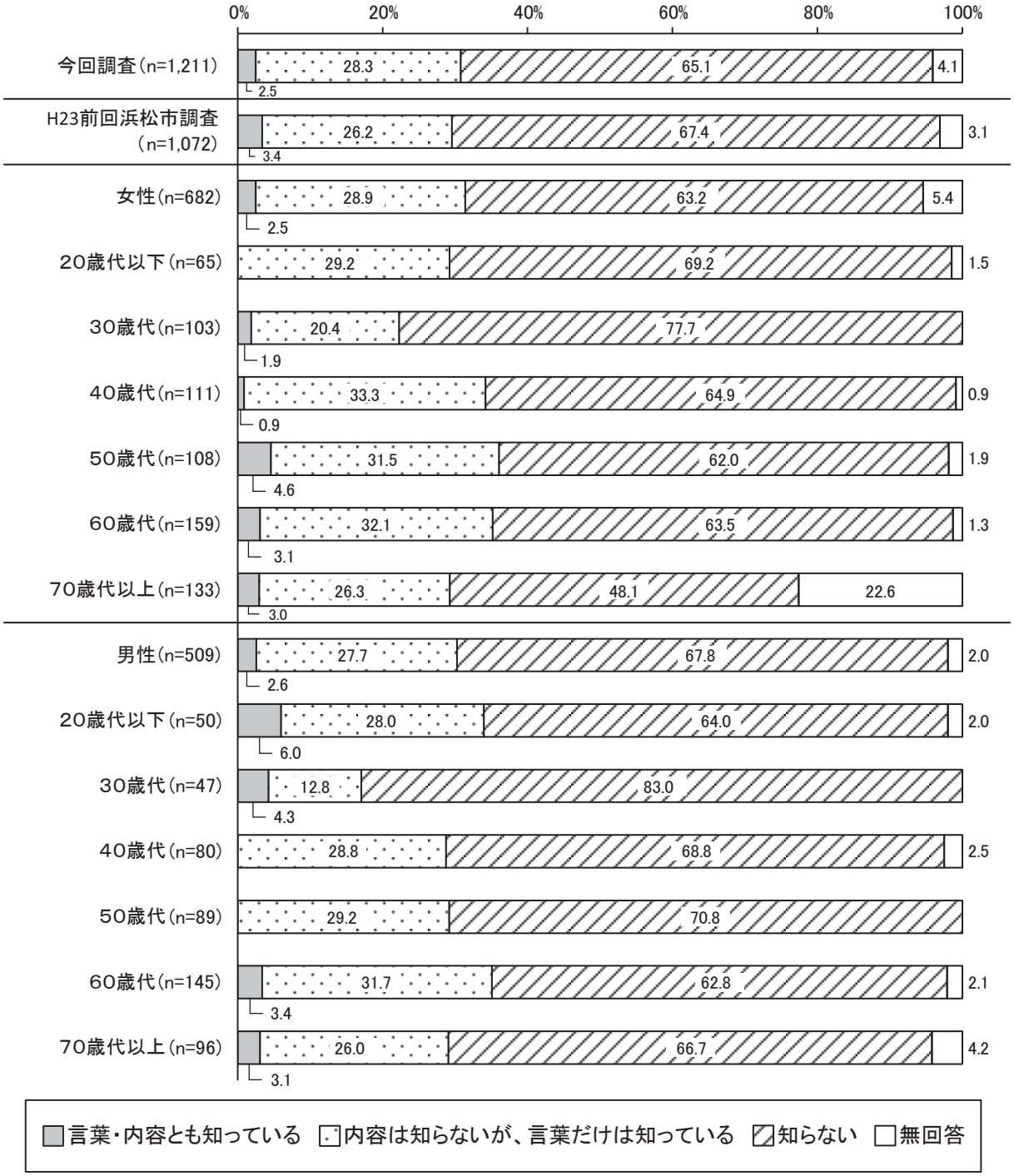



資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

## 浜松市男女共同参画計画

「言葉・内容とも知っている」と「内容は知らないが言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』は性別による差がほとんどなかった。『認知度』を年齢別でみると、女性は50歳代が最も高く、30歳代が最も低かった。男性は60歳代が最も高く、30歳代が最も低かった。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられなかった。

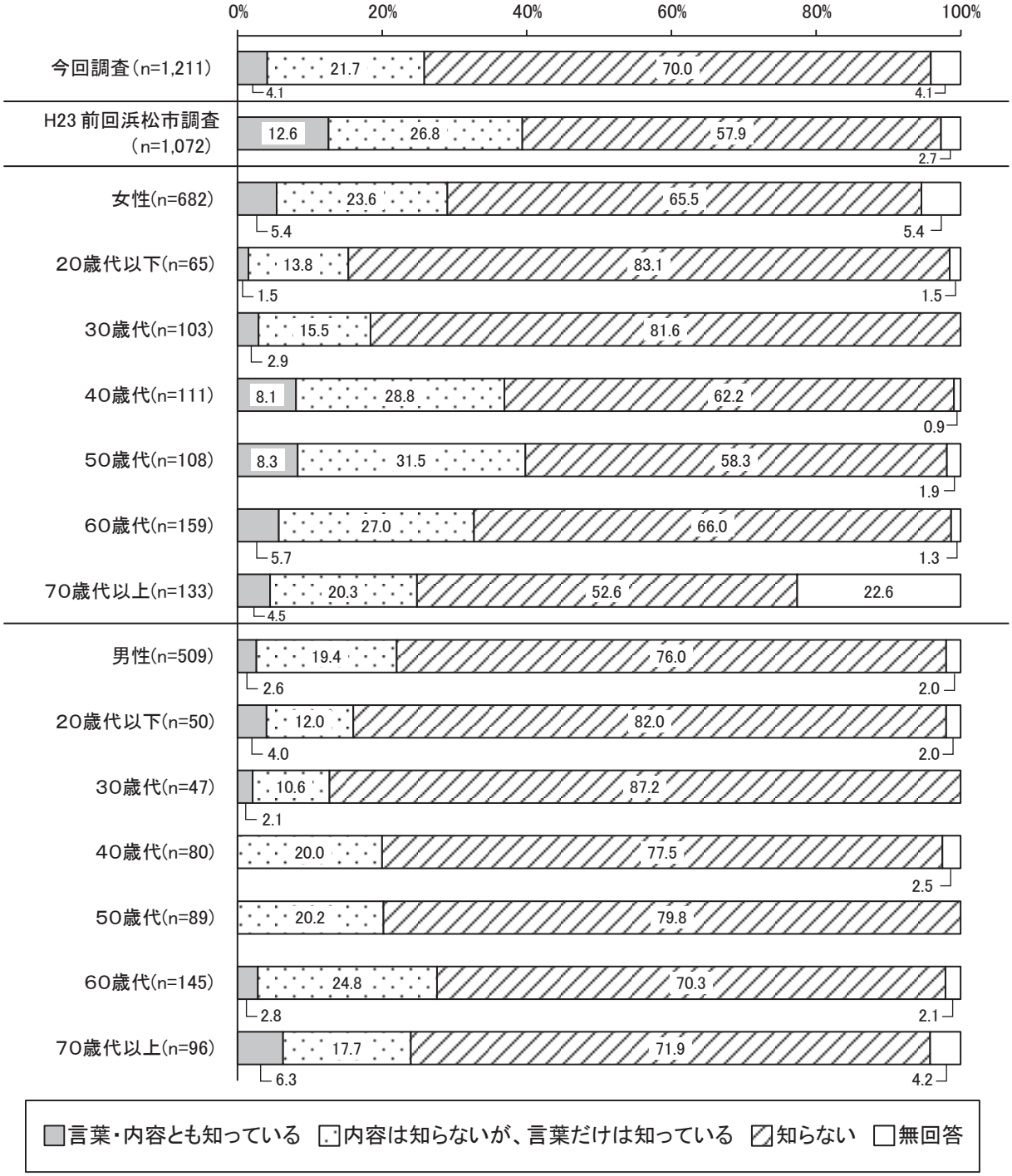



資料：H23前回浜松市調査「平成23年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

### 浜松市の男女共同参画推進のための情報誌「ハーモニー」

「言葉・内容とも知っている」と「内容は知らないが言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』は女性の方が 7.0 ポイント高かった。『認知度』を年齢別でみると、男女とも 20 歳代以下と 30 歳代が低かった。女性の 40 歳代～ 60 歳代は『認知度』が 3 割を超えていた。

前回調査と比較すると、『認知度』は 13.6 ポイント低下した。



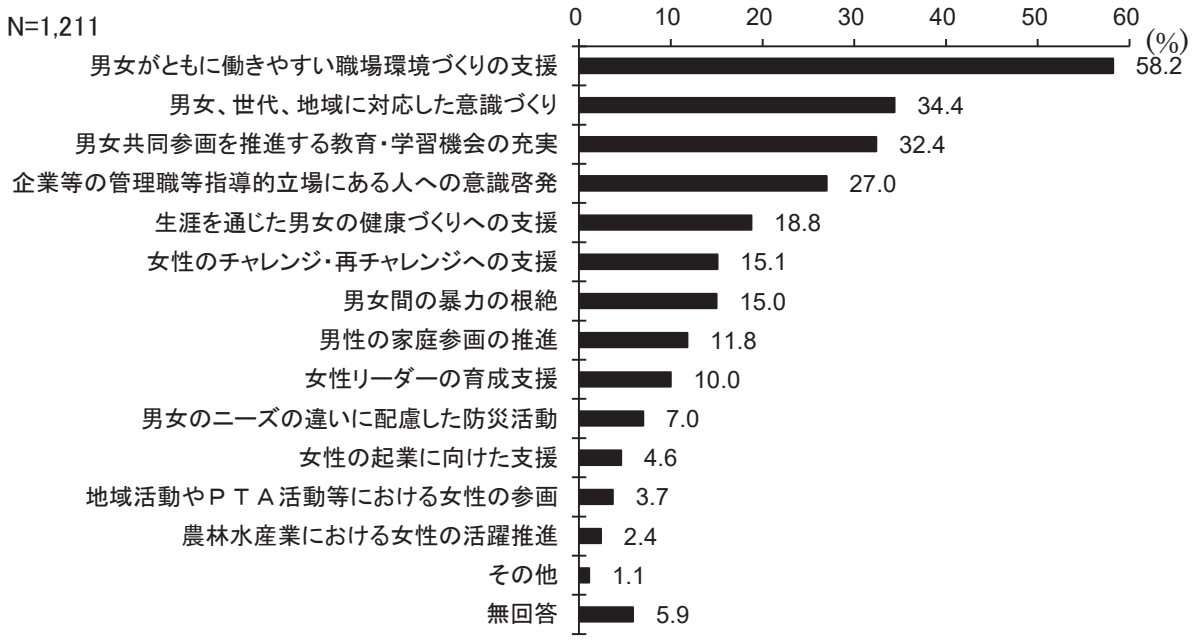

資料：H23 前回浜松市調査「平成 23 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・実態調査」（浜松市）

問 23　男女共同参画社会の実現や女性活躍の推進に向けて、何を重点的に取り組んでいくべきだと思いますか。（３つまでに〇）

## 男女がともに働きやすい職場環境づくりが重要

「男女がともに働きやすい職場環境づくりの支援」が 58.2%で最も高かった。次いで、「男女、世代、地域に対応した意識づくり」（34.4%）、「男女共同参画を推進する教育・学習機会の充実」（32.4%）の順に高かった。

性別でみると、「女性のチャレンジ・再チャレンジへの支援」、「生涯を通じた男女の健康づくりへの支援」は女性の方が 5 ポイント以上高かった。「男女共同参画を推進する教育・学習機会の充実」「企業等の管理職等指導的立場にある人への意識啓発」は男性の方が 5 ポイント以上高かった。



## 【性別、年齢別】

| | n | 男女共同参画を推進する教育・学習機会の充実 | 企業等の管理職等指導的立場にある人への意識啓発 | 男女、世代、地域に対応した意識づくり | 男女間の暴力の根絶 | 男女のニーズの違いに配慮した防災活動 | 女性リーダーの育成支援 | 男女がともに働きやすい職場環境づくりの支援 | 女性のチャレンジ・再チャレンジへの支援 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 682 | 29.8 | 24.6 | 33.4 | 15.1 | 6.9 | 10.4 | 59.2 | 17.4 |
| ２０歳代以下 | 65 | 18.5 | 26.2 | 30.8 | 29.2 | 9.2 | 13.8 | 63.1 | 18.5 |
| ３０歳代 | 103 | 27.2 | 32.0 | 30.1 | 15.5 | 9.7 | 13.6 | 68.9 | 23.3 |
| ４０歳代 | 111 | 32.4 | 32.4 | 29.7 | 14.4 | 5.4 | 7.2 | 66.7 | 27.0 |
| ５０歳代 | 108 | 29.6 | 28.7 | 34.3 | 16.7 | 7.4 | 7.4 | 68.5 | 15.7 |
| ６０歳代 | 159 | 41.5 | 19.5 | 35.2 | 12.6 | 5.0 | 12.6 | 55.3 | 14.5 |
| ７０歳代以上 | 133 | 21.8 | 13.5 | 38.3 | 9.8 | 6.8 | 9.0 | 41.4 | 9.0 |
| 男性 | 509 | 36.7 | 30.3 | 36.1 | 15.1 | 6.9 | 9.8 | 56.4 | 12.2 |
| ２０歳代以下 | 50 | 34.0 | 40.0 | 26.0 | 30.0 | 2.0 | 6.0 | 54.0 | 10.0 |
| ３０歳代 | 47 | 10.6 | 25.5 | 31.9 | 19.1 | 8.5 | 14.9 | 63.8 | 25.5 |
| ４０歳代 | 80 | 31.3 | 30.0 | 32.5 | 22.5 | 12.5 | 8.8 | 53.8 | 12.5 |
| ５０歳代 | 89 | 43.8 | 31.5 | 47.2 | 11.2 | 1.1 | 11.2 | 61.8 | 15.7 |
| ６０歳代 | 145 | 42.1 | 31.0 | 38.6 | 7.6 | 6.9 | 10.3 | 55.9 | 7.6 |
| ７０歳代以上 | 96 | 41.7 | 25.0 | 33.3 | 14.6 | 9.4 | 7.3 | 52.1 | 10.4 |

| | n | 生涯を通じた男女の健康づくりへの支援 | 女性の起業に向けた支援 | 地域活動やＰＴＡ活動等における女性の参画 | 男性の家庭参画の推進 | 農林水産業における女性の活躍推進 | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 682 | 20.8 | 5.3 | 2.1 | 13.0 | 2.2 | 0.9 | 6.9 |
| ２０歳代以下 | 65 | 7.7 | 7.7 | - | 21.5 | - | - | 1.5 |
| ３０歳代 | 103 | 9.7 | 6.8 | 1.0 | 12.6 | 1.0 | 2.9 | 2.9 |
| ４０歳代 | 111 | 12.6 | 4.5 | 1.8 | 14.4 | 1.8 | - | 2.7 |
| ５０歳代 | 108 | 19.4 | 3.7 | 0.9 | 12.0 | 3.7 | 0.9 | 4.6 |
| ６０歳代 | 159 | 25.8 | 5.0 | 1.9 | 13.2 | 3.1 | 1.3 | 6.3 |
| ７０歳代以上 | 133 | 38.3 | 5.3 | 5.3 | 9.0 | 2.3 | - | 18.0 |
| 男性 | 509 | 15.7 | 3.9 | 5.9 | 10.4 | 2.8 | 1.4 | 3.9 |
| ２０歳代以下 | 50 | 8.0 | 6.0 | 2.0 | 10.0 | 2.0 | - | 4.0 |
| ３０歳代 | 47 | 10.6 | 12.8 | 6.4 | 19.1 | 4.3 | 4.3 | - |
| ４０歳代 | 80 | 15.0 | 3.8 | 2.5 | 16.3 | 1.3 | 3.8 | 3.8 |
| ５０歳代 | 89 | 13.5 | 1.1 | 6.7 | 6.7 | 1.1 | - | 1.1 |
| ６０歳代 | 145 | 9.7 | 4.1 | 8.3 | 9.7 | 3.4 | 0.7 | 6.2 |
| ７０歳代以上 | 96 | 34.4 | 1.0 | 6.3 | 6.3 | 4.2 | 1.0 | 4.2 |